

**エチオピア連邦共和国
住民参加型基礎教育改善プロジェクト
中間評価調査報告書**

平成 18 年 4 月
(2006 年)

独立行政法人 国際協力機構
エチオピア事務所

序 文

エチオピア連邦共和国の教育セクターにおいて、初等教育の拡充は最大の課題となっており、連邦教育省は教育セクター開発プログラム(ESDP)を策定し、初等教育のアクセス向上に取り組んでおります。こうした努力の成果により、2005年現在の初等教育総就学率(GER)は79.2%に達していますが、今後は行政の力が及ばない農村部へき地における就学率の伸び悩みが予想されます。また、農村部へき地では、住民参加によって学校の建設・運営費用を節減する廉価なフォーマル教育が求められています。このような状況の中、JICAは「住民参加型基礎教育改善プロジェクト」を2003年11月より開始し、郡教育事務所のキャパシティビルディングを図りながら、住民参加型で20校の小学校を建設することにより、普及可能なプロトタイプの開発を目指しています。

今般、4年間の協力期間の折り返し地点を迎えたことから、これまでの活動の実績および進捗を振り返り、今後の活動計画について協議するため、エチオピアへ2006年1月21日から30日までの日程で中間評価調査団が派遣されました。本調査の結果、ワレダ教育行政官に対し住民参加を具体的に推進する方法を提示しながら、廉価で質の確保された学校建設のプロセスを提案している点で着実に成果を挙げていることが確認されました。また、本プロジェクトの経験をもとに開発中の住民参加型の計画・学校建設・学校運営モデルは、オロミア州のESDPⅢ(教育5ヵ年計画)における普及モデルと位置づけられており、各方面から大きな期待が寄せられています。

本報告書は、同調査団の調査・評価結果を取りまとめたもので、今後のプロジェクトの展開に広く活用されることを願うものであります。

ここに、本調査にご協力いただいた内外関係機関の方々に深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成18年4月

独立行政法人 国際協力機構
エチオピア事務所長
齋藤 直樹

目 次

序文

目次

地図

写真

略語表

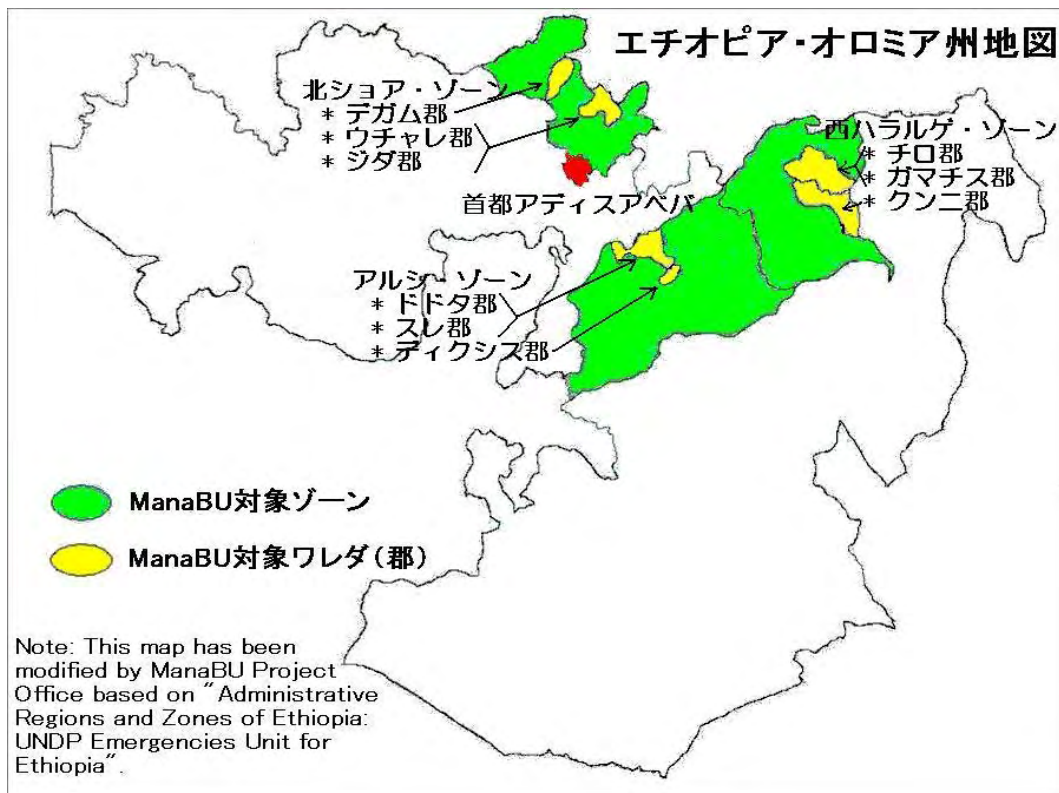
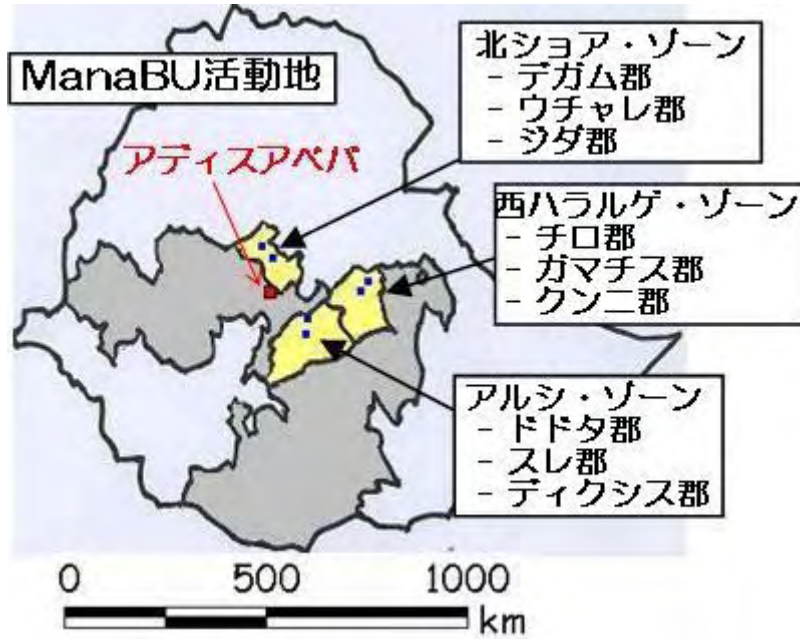
評価調査結果要約表

| | |
|----------------------------|----|
| 第1章 中間評価調査団の派遣 | 1 |
| 1-1 調査団派遣の経緯と目的 | 1 |
| 1-2 調査方法 | 1 |
| 1-3 調査団の構成 | 2 |
| 1-4 調査日程 | 2 |
| 1-5 主要面談者 | 3 |
| 第2章 要約 | 5 |
| 2-1 要約 | 5 |
| 2-2 PDM の改訂 | 6 |
| 第3章 計画達成度 | 8 |
| 3-1 投入実績 | 8 |
| 3-2 活動実績 | 10 |
| 3-3 達成状況(上位目標、プロジェクト目標、成果) | 11 |
| 第4章 中間評価結果 | 13 |
| 4-1 評価5項目による評価 | 13 |
| 4-2 結論 | 16 |
| 第5章 プロジェクト活動の今後の展開と提言 | 17 |
| 5-1 プロジェクト活動の進捗と今後の計画 | 17 |
| 5-2 提言 | 18 |
| 添付資料 | |
| 1 ミニッツ(英) | 23 |
| 2 評価グリッド結果表(和文) | 67 |

その他関連資料（別添 CD）

1. ManaBU しんぶん(1-26 号: 2004 年 3 月～2006 年 4 月発行)
2. ManaBU Guidelines(2006 年 2 月現在 草稿)
3. “Baseline Survey of Community-Based Basic Education Centers in Three Zones of Oromia” 報告書
(2004 年 6 月発行)
4. “Survey of Teaching Learning Practice” 報告書(2005 年 3 月発行)
5. エチオピア教育開発概況-初等教育を中心に(2006 年 4 月)

地 図



写 真



ManaBU 学校での聞き取り調査(1)



ManaBU 学校での聞き取り調査(2)



ManaBU 学校の外観(1)



ManaBU 学校の外観(2)



ManaBU 学校での授業風景(1)



ManaBU 学校での授業風景(2)

略 語 表

エチオピアの団体・組織名等

| 略語 | 正式名 | 日本語 |
|--------|--|---------------------------------------|
| ManaBU | Mana Barnoota Ummataa (Community School) | 住民参加型基礎教育改善プロジェクトの通称（オロモ語:コミュニティの学び舎） |
| OEB | Oromia Education Bureau | オロミア州教育局 |
| WEO | Woreda Education Office | 郡教育事務所 |
| ZEO | Zonal Education Office | 県教育事務所 |

専門用語

| 略語 | 正式名 | 日本語 |
|-------|---|--------------------|
| ABE | Alternative Basic Education | 代替的基礎教育 |
| ANFE | Adult and Non-Formal Education | 成人およびノンフォーマル教育 |
| CMC | Construction Management Committee | 建設管理委員会 |
| C/P | Counter Part | カウンターパート |
| EFA | Education For All | 万人のための教育 |
| EMIS | Education Management Information System | 教育管理情報システム |
| ESDP | Education Sector Development Programme | 教育セクター開発プログラム |
| BEGIN | Basic Education for Growth Initiative | 成長のための基礎教育イニシアティブ |
| PRSP | Poverty Reduction Strategy Paper | 貧困削減戦略文書 |
| PCM | Project Cycle Management | プロジェクト・サイクル・マネジメント |
| PDM | Project Design Matrix | プロジェクト・デザイン・マトリックス |
| PO | Plan of Operation | 活動計画表 |
| R/D | Record of Discussions | 討議議事録 |
| SDPRP | Sustainable Development and Poverty Reduction Programme | 持続的開発・貧困削減プログラム |

評価調査結果要約表

| I. 案件の概要 | |
|---|--|
| 国名: エチオピア連邦共和国 | 案件名: 住民参加型基礎教育改善プロジェクト |
| 分野: 基礎教育 | 援助形態: 技術協力プロジェクト |
| 所轄部署: JICA エチオピア事務所 | 協力金額(評価時点): 379,055 千円 |
| | 相手国実施機関: エチオピア国 オロミア州教育局(OEB) |
| (R/D): 2003年11月19日 | 日本側協力機関: JICA |
| 協力期間 4年間 (2003.11.19 – 2007.11.18) | 他の関連協力: 開発調査「オロミア州初等教育アクセス向上計画(SMAPP)」 |
| <p>1. 協力の背景と概要</p> <p>エチオピア連邦共和国では、1997年より教育セクター開発プログラム (Education Sector Development Programme: ESDPI) を実施し、その結果、初等教育の総就学率が実施前の 34.7% から 2001/02 年には 57.4% へと向上し、量的拡大において大きな成果を挙げた。しかしながら、児童数の大幅な増加に学校数や教員の養成が追いつかず、1教室当たりの児童数が 80~100 人と過密状態にあるほか、教科書不足や教師不足の問題を抱え、更に教育アクセスの地域間や男女間の格差も依然として是正されていない。</p> <p>このような状況を踏まえ、2002年にエチオピア政府は初等教育の拡充に重点を置く ESDP II を策定した。そこでは、住民参加により建設・運営費用を節減した廉価なフォーマル教育、さらにカリキュラムや授業時間の柔軟性を目指したノンフォーマル教育を、従来型のフォーマル教育の重要な代替手段と位置づけ、その拡充を重点政策の一つに掲げている。しかし、従来の住民参加による小学校建設・運営の多くは、個々の NGO やドナーの支援に全面的に頼るか、あるいは住民の独力によって実施されてきたため、地方教育行政にはそのノウハウが蓄積されていない。さらに、地方分権化に伴い、中央政府から郡教育行政への権限移譲が進んでおり、教育計画の立案や実施に関わる地方教育行政の能力向上が課題となっている。</p> <p>2005年8月には、ESDPI/II での教訓を踏まえ、教育の質的向上に重点を置いた ESDP III (2005年6月-2009年10月) が策定された。ESDP III では、ジェンダー格差や地域格差の是正を行い、教育の公平性を確保するために、へき地での就学率の向上(小規模学校や複式学級制度の活用)、特別な配慮を要する児童への代替的教育機会の提供など、ESDP II までに改善できなかった課題に臨んでいる。</p> <p>そのような教育政策の中で、我が国は、地方教育行政と地域住民の連携による住民参加型基礎教育を重点サブセクターとして位置づけ、技術協力プロジェクト「住民参加型基礎教育改善プロジェクト」(通称 ManaBU プロジェクト) を 2003年11月よりオロミア州で実施しており、同州の就学率の大幅な向上が望まれる農村部へき地において、住民参加型による持続的な学校建設・運営のモデルの策定を行っている。本プロジェクトは、州内の3県6郡において、実際に20校の小学校(初等教育第1サイクル)をパイロット的に建設・運営することにより、オロミア州教育局(Oromia Education Bureau: OEB)と郡教育事務所(Woreda Education Office: WEO)の能力向上を図りながら、住民参加型による持続的な学校建設・運営の良い事例を提示することを目的としている。2006年1月までに20校のうち5校が建設・開校され、学校運営が行われている。</p> <p>現在、4年間のプロジェクト実施期間の中間点にあたり、本調査において中間評価を行うものとする。</p> | |

2. 協力内容

1) 上位目標

1. 選定された郡において、学齢児童の基礎教育へのアクセスが向上する。
2. 選定された郡において、住民参加型小学校 (ManaBU 学校) のモデルが適用される。

2) プロジェクト目標

住民参加型小学校 (ManaBU 学校) のモデルが選定された郡において開発される。

3) 成果

1. オロミア州教育局 (OEB) および郡教育事務所 (WEO) の行政官の住民参加型学校建設・運営に係る計画策定・実施能力が向上する。
2. 選定された郡において、ManaBU 学校が建設され、教育環境が整備される。
3. ManaBU 学校が住民組織、WEO との協力で運営され、維持される。
4. 研修を受けた ManaBU 学校の教員が、質の確保された基礎教育を ManaBU 学校の児童に提供する。

4) 投入 (評価時点)

日本側:

| | | | | |
|---------|---------|-------|-----------------|-----------|
| 長期専門家派遣 | 延べ 3 名 | 94M/M | 機材供与 | 17,667 千円 |
| 短期専門家派遣 | 延べ 1 名 | 2M/M | 運営経費等 (建築資材費含む) | 56,600 千円 |
| 研修員受け入れ | 延べ 11 名 | 8M/M | | |

相手国側:

| | | | | |
|------------|--------|-------|-------------------------------|-----------------------|
| カウンターパート配置 | 延べ 3 名 | 72M/M | ローカルコスト負担 (2005 年までの 2 年分) | 専門家執務室光熱費・電話料金、C/P 日当 |
|------------|--------|-------|-------------------------------|-----------------------|

II. 評価調査団員の概要

| | | |
|------|---|--------------------------------------|
| 調査者 | 萱島 信子 | JICA 人間開発部 第 1 グループ (基礎教育) 長 |
| | 横関 祐見子 | JICA 東南部アフリカ地域支援事務所 国際協力専門員 |
| | 野邊 節 | (株)ユニバーサル・フォレスト・コンサルタント 海外事業部 教育担当主査 |
| | 高橋 悟 | (有)アイエムジー 上席研究員 |
| | 徳田 由美 | JICA エチオピア事務所 企画調査員 |
| 調査期間 | 2006 年 1 月 21 日～2006 年 1 月 31 日 (コンサルタント団員は 1 月 14 日～1 月 30 日) | |
| | 評価の種類: 中間評価 | |

III. 評価結果の概要

1. プロジェクト目標の達成状況

(1) プロジェクトのアウトプット

- ① OEB および WEO の行政官の住民参加型学校建設・運営に係る計画策定・実施能力が向上する。
現在の C/P 数は、OEB 10 名、3 県の県教育事務所 (Zonal Education Office: ZEO) 8 名、6 郡の WEO 14 名である。C/P には頻繁な人事異動と離職があり、能力や取り組む意欲に大きな差異がある。しかし、JICA 専門家と密に連絡を取り合い共に活動した C/P に関しては、住民参加型の学校建設・運営について一定の計画策定・実施能力を習得したといえる。なお、計画ガイドラインのドラフトは完成している。
- ② 選定された郡において、ManaBU 学校が建設され、教育環境が整備される。
2005 年 9 月に 5 校がほぼ完工・開校し、机・椅子の整備された教室で現在 2,016 名の児童が学んでいる。また 13 校についてはサイト選定済みで 2006 年 9 月に開校予定である。その他 2 校は行政村選定未

了である。なお、建設ガイドラインのドラフトは 2005 年に作成され、実際の建設において活用された。2006 年はさらに建設作業の中で検証を進め、その過程で得られた新しい知見を盛り込む予定である。

| 県 | 郡 | 学校建設 目標数 | 建設進捗状況 | | | |
|-----------------|-----------------|-------------|--------|------------|---------|--------|
| | | | 開校 | 着工後 停止中 | 未着工 | |
| | | | | | サイト選定済み | 行政村未選定 |
| Arsi | Dodota Sire | 4 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| | Diksis | 2 | 1 | 1 | 0 | |
| West Harerge | Chiro | 4 | 2 | 0 | 2 | |
| | Kunni | 4 | 1 | 0 | 3 | |
| North Shoa | Degem | 3 | 0 | 0 | 2 | |
| | Wuchale Jida | 3 | 0 | 0 | 2 | |
| Total | 6 | 20 | 5 | 1 | 12 | |

③ ManaBU 学校が住民組織、WEO との協力で運営され、維持される。

開校し運営されている学校は 5 校のみである。うち 4 校は 1 年生のみで全 4 教室を使用中である。2006 年 9 月の新入学生の受け入れに際しては効率的に(例えば 2 部制を導入して)教室を使用するか、教室を増築する必要が生じる。また児童の増加に伴って教員を増やす必要も生じる。いずれにせよ、将来を見越して計画的に学校を運営していく必要がある。運営ガイドラインのドラフトは作成されているものの、プロジェクト後半において、さらにその内容を充実させていく必要がある。

④ ManaBU 学校の教員およびファシリテーター(非資格教員)の教授能力が向上する。

本プロジェクトでは、当初ノンフォーマル教育を対象としていたが、プロジェクト開始後に、ノンフォーマル教育よりもフォーマル教育に対する住民の要望が高いことが判明したため、フォーマル校を建設することにした。これに伴って主に正規教員(非資格教員も少数含む)に対する導入研修を実施した。この導入研修に対する参加者の評価は良好である。なお、教員の変更(プロジェクト開始当初はノンフォーマル教育を想定しており、非資格教員を雇用する計画であったが、フォーマル校となり、正規教員が郡より派遣されたため)およびプロジェクトの残り期間を考慮し、現職教員研修の定期化はプロジェクト活動から除外することとした。

(2) プロジェクト目標

開発途上ながらも、本プロジェクトは、行政が住民参加を促進しながら廉価で質を確保した学校建設を行うモデルを提示している。各地域の自然条件や物価水準によって若干の増減はあるものの、住民抜きの業者一括型で学校建設を行う際に約 20 万ブルかかっていたところを、住民が約 6 万ブル相当の現地資材を調達し未熟練労働を提供することによって、行政側の負担を約 10 万ブルに半減できることを示している。

最終成果品であるガイドラインについては、既にドラフトが完成していること、また本プロジェクトの住民参加型学校建設手法を活用し、自己資金で学校建設を行った WEO もあることから、プロジェクト終了時点で住民参加型の学校建設運営モデルを構築するというプロジェクト目標を達成することは可能であると思われる。

(3) 上位目標

2002/03 年から 2004/05 年にかけて、選定された郡における初等教育の総就学率(GER)と学校数の変化は以下のとおりであり、2つの数値とも増加している。この背景には教育の重要性を理解した保護者が子

情がある。ただし、既存の村の集会所を学校に転用した場合も「建設(新規設立)」と見なされるため、ハード的には政府基準からかけ離れた政府校も数多く含まれている。換言すれば、そのような措置を取ってでも学校数を増やさなければ、増大する需要に応えることができないということである。

| 県 | 郡 | 1-8年生 GER (%) | | 学校数 | |
|--------------|--------------|---------------|---------|---------|---------|
| | | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 |
| Arsi | Dodota Sire | 84.8 | 101.4 | 25 | 31 |
| | Diksis | 59.1 | 78.7 | 11 | 15 |
| West Harerge | Chiro | 42.7 | 70.9 | 51 | 66 |
| | Kunni | 56.5 | 77.5 | 23 | 25 |
| North Shoa | Degem | 51.4 | 55.4 | 16 | 20 |
| | Wuchale Jida | 42.0 | 54.7 | 27 | 30 |

(NER and Grade1-4 GER: n/a)

West Harerge 県の Kuuni 郡では、ManaBU 学校(Laga Lafto 校)の建設と並行して、独自に ManaBU の学校建設手法を採り入れながら、新設小学校(Oda-Tuta 校)を建設した。このように、プロジェクト終了を待たずに ManaBU の手法を適用した郡もすでに存在する。

2.5 項目評価

(1) 妥当性:非常に高い

エチオピアの貧困削減戦略文書(Poverty Reduction Strategy Paper:PRSP)にあたる持続的開発・貧困削減プログラム(Sustainable Development and Poverty Reduction Programme:SDPRP)は、7つ重点セクターの1つに「教育」を挙げている。また2002年6月に連邦教育省が発表した教育セクター開発プログラム第2フェーズ(ESDP II)では、政府財源に限りがあることから住民参加による学校建設の重要性が繰り返し述べられている。さらに2005年8月に連邦教育省が発表したESDP IIIにおいても、建築資材、労働力、現金をコミュニティが提供することによって学校建設を進めることの重要性が強調されている。

また、学校建設に際しては郡教育事務所(WEO)が行政組織として主導的役割を果たすことが、教育省作成の「教育経営、住民参加、教育財政の運営ガイドライン」(2002年8月)に明記されていることから、オロミア州教育局(OEB)は上位レベルのC/P機関として、WEOは地方(現場)レベルのC/P機関として、それぞれ適切である。

他方、開発途上国の基礎教育分野へのわが国の支援は、外務省が2002年6月に作成した「成長のための基礎教育イニシアティブ」(Basic Education for Growth Initiative:BEGIN)でうたわれており、1998年と2003年のアフリカ開発会議(TICAD II、III)においてもその重要性が確認されている。

このように本プロジェクトの目指すものは、エチオピアと日本政府の政策と合致している。

(2) 有効性:高い

住民参加型の計画、建設、運営に関するガイドラインはすでにドラフトが出来ている。このうち、計画ガイドラインはほぼ完成しており、建設ガイドラインは2006年に学校建設を進めながら改定される予定である。運営ガイドラインは2005年に最初の5校が開校してから日が浅いため、今後の学校運営の中で見直しが進められる。

本プロジェクトは全期間の半分を過ぎたところだが、すでに以下の点でその有効性が確認されている。

- － 住民参加型の学校建設・運営について WEO 行政官の計画策定・実施能力が向上した。
- － 学校の建設と運営を通じてコミュニティの結束力が高まった。
- － WEO とコミュニティとの間にパートナーシップが構築された。

- － 廉価で耐久性のある学校建設の実現可能性が具体的に提示された。
- － これまで基礎教育へのアクセスが皆無だったへき地に学校が建設された(開校した5校で2,016人が就学中)。
- － 本プロジェクトで実施した行政と住民の協働による学校建設手法を活用し、独自予算で小学校を建設した WEO がある(西ハラルゲ県クニニ郡)。

(3) 効率性:低い

以下の理由により、本プロジェクトの効率性は低いと言わざるを得ない。

- － OEB 行政官の本プロジェクトに対する当事者意識と参加度の低さ。
- － OEB、ZEO、WEO 行政官の頻繁な人事異動と離職。
- － WEO における予算の不足(特に日当やモニタリングのための車両の燃料代)。
- － 治安悪化による外出禁止(JICA 専門家の自宅待機)。
- － 長引く雨期による建設の遅延。

上から1～3番目の点に関し、OEBは善処する旨確約している(ミニッツに明記)。

(4) インパクト:中位

現時点で本プロジェクトのインパクトを評価することは時期尚早であり、本プロジェクトのインパクトの大きさは今後の関係者の努力と創意工夫にかかっている。本プロジェクトは次のような可能性と課題を内包している。

- － 本プロジェクトで実施した行政と住民の協働による学校建設・運営の手法は OEB で採用され、オロミア州の ESDPIII 内で言及されている。この手法は、州内に留まらず、エチオピア全土における学校建設を促進する可能性を秘めている。
- － 他方、現行の ManaBU モデルは WEO と住民の双方が最大限の時間と労力を割かない限り、具現化(学校建設を完工)することは困難である。またひとくちに現地資材といっても各コミュニティで調達可能な資材と不可能な資材があり、それによって住民が提供する労働力の内容も異なってくる。したがって、ManaBU モデルは絶対不変のものではなく、各郡やコミュニティの状況に応じて柔軟に活用していく必要がある。今後はどの程度まで柔軟性を持たせたモデルが開発できるかが課題である。

(5) 自立発展性:中位

現時点で本プロジェクトの自立発展性を論じることは時期尚早であるが、OEBの主導的役割が極めて重要であることは論を待たない。OEBとしては、今後プロジェクト終了時に向けて開発される ManaBU モデルを学校建設のオロミア州モデルとして公式承認し、さらなる普及のための戦略を立案していくことが望ましい。また WEO 行政官の増員・定着・能力向上、交通費(燃料代)の確保に向けた側面支援も必要である。さらに本プロジェクトによる建設事例では、工業資材購入費と熟練工傭上費(最低でも合計約10万ブル)は行政が負担しなければならないため、各郡において予算確保が大前提となる。これらの条件が満たされない限り、本プロジェクトの自立発展性は危うく、エチオピアにおいては住民に負担を強いた質の低い学校建設が連綿と継続されていく危険性をはらんでいる。

3. 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

本プロジェクトの C/P 機関は OEB であるが、OEB のオーナーシップの低さについては先に述べたとおりである。他方、住民参加による学校建設を実際に進めるのは郡の教育行政官であり、彼らが JICA 専門家と共に活動することによって実践から学び得たものは大きい。本プロジェクトの PDM では WEO 行政官の能力向上が成果のひとつとして設定されており、彼らは ManaBU モデルの開発や計画・建設・運営ガイドラ

イン(案)の作成に大きな貢献を果たしたといえる。

(2) 実施プロセスに関すること

本プロジェクトで支援している「行政と住民の協働による学校建設」はエチオピアで初めての取り組みであり、プロジェクト開始以来、試行錯誤の連続であった。しかし、エチオピアの政府基準を満たす最低限の質の学校を廉価で建設するには、行政と住民の協力が不可欠であることから、関係者間の合意形成を重視した参加型アプローチは適切なものであったといえる。学校建設に際して行政と住民に求められる負担は小さくはないが、一連のプロセスを通じてこれら関係者のオーナーシップは十分に醸成されたと考えられる。

4. 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

WEO 行政官を能力向上の対象としたことは、上述のとおり本プロジェクトの効果発現に貢献したが、WEO では学校建設・運営の実施機関としてキャパシティ不足であることは否めない。ほぼすべての WEO は慢性的な人員不足の状況にあり、1 人の行政官が多くの仕事を兼務している。したがって、WEO に本プロジェクトの担当官がいないケースや、いたとしても十分な時間を取れず動機付けが十分でないケースが見受けられた。また WEO のような郡レベルの行政組織では、日常的な活動予算(日当や移動のための交通費・燃料費)を確保するのも困難な状況にある。

(2) 実施プロセスに関すること

実施プロセスに関する阻害要因は、既述のとおり以下の点に求められる。

- － OEB 行政官の本プロジェクトに対する当事者意識と参加度の低さ。
- － OEB、ZEO、WEO 行政官の頻繁な人事異動と離職。
- － 組織編成に伴う郡レベル建設技官職の外部化と主体性の欠如。
- － WEO における予算の不足(特に日当やモニタリングのための車両の燃料代)。
- － 治安悪化による外出禁止(JICA 専門家の自宅待機)。
- － 長引く雨期による建設の遅延。

5. 結論

本プロジェクトは多くの困難に直面しながらも創意工夫をしつつ、目に見える成果を挙げていることが確認された。学校建設については遅れが見られるものの、残りの期間で遅れを取り戻すことは可能であり、最終成果品であるガイドラインについてはすでにドラフトが完成していることから、プロジェクト終了時点で住民参加型の学校建設・運営モデルを完成させるというプロジェクト目標を達成することは可能であると思われる。

6. 提言(当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言)

(1) プロジェクト実施上の課題

ManaBU プロジェクトはプロジェクト実施上の課題を抱えており、調査団から OEB に対して次の点に関する善処を申し入れた。

- C/P の頻繁な異動と離職。
- モニタリング活動にあたっての旅費の手当て。
- モニタリング活動にあたってのバイクの有効活用。

(2) OEB のオーナーシップ

C/P 機関である OEB の ManaBU プロジェクトに対するオーナーシップは非常に低いと言わざるを得な

い。OEB なくしては ManaBU モデルのオロミア州での今後の普及は不可能であるので、専門家と JICA 事務所が協力して、OEB のオーナーシップの醸成やコミュニケーションの改善に取り組む必要がある。適切な C/P の配置(今回の調査で申し入れ済み)、定期的なプロジェクト会議の開催(月 2 回以上)、OEB 職員によるプロジェクトの積極的な運営管理、専門家が黒子に徹することができる状況が徐々にでも実現されることを期待する。

(3) 中央政府の巻き込み

ManaBU モデルの認知や普及を図るには中央レベルでの教育政策や他ドナーの協力との連携を模索することが重要である。そのためには、次のような可能性を念頭に連邦教育省を一層巻き込んだ活動を行うことが望ましい。

- ESDP などの教育政策に ManaBU モデルを採り入れる。
- オロミア州以外の州へも ManaBU モデルを普及させる。
- UNICEF による学校建設の資材供与など、他ドナーによる学校建設関連案件との連携を図る。
- SWAPs も展開していることから、世銀などのドナーによる財政支援資金の活用を図る。

(4) ManaBU モデルの有用性と普及

ManaBU モデルは大きなポテンシャルを有しているものの、その成否は WEO 行政官の能力とコミュニティの状況に大きくかかっており、同モデルは学校建設の多様な手段の1つととらえることが重要である。また、ManaBU モデルはエチオピアの教育行政に住民参加という新たな活動を取り込み、廉価で質の確保された学校建設を可能にするという点において非常に斬新である一方で、普及にあたっては次のような条件が満たされる必要がある。

- ManaBU モデルの公式化。
- WEO の強化。
- 各郡における学校建設予算の確保。

ManaBU モデルの普及に取り組むためには、同モデルが最も有効である条件(郡行政、コミュニティ、立地など)を明らかにし、オロミア州の教育開発のいずれの部分を担当することが適当であるのかを知る必要がある。さらに、ManaBU モデルはまだ完成途上であるので、プロジェクト残り期間において、WEO やコミュニティの負担の軽減、多様性への対応に関して改善の余地があるか、更なる検証が期待される。

(5) オロミア州初等教育アクセス向上のための協力プログラム

現在 JICA は ManaBU プロジェクトに加え、スクールマッピングやマイクロプランニングを主たる内容とした開発調査「オロミア州初等教育アクセス向上計画(SMAPP)」を OEB と実施しており、さらにオロミア州の小学校建設の無償資金協力要請(平成 19 年度)も提出されている。無償資金協力については、平成 18 年 3 月 10 日に正式に採択され、コミュニティ開発支援無償として実施される予定であり、平成 18 年度の予備調査実施を現在計画中である。これらの 3 つの投入を有機的に連携させ、1つのプログラムとして実施し、一層の効果の発現を目指すことが期待される。

第1章 中間評価調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

エチオピア連邦民主共和国では、1997年より教育セクター開発プログラム第1フェーズ(ESDP I)を実施し、その結果、初等教育の総就学率が実施前の34.7%から2001/02年には57.4%へと向上し、量的拡大において大きな成果を挙げた。しかしながら、児童数の大幅な増加に学校数や教員の養成が追いつかず、1教室当たりの児童数が80~100人と過密状態にあるほか、教科書不足や教師不足の問題を抱え、さらに教育アクセスの地域間や男女間の格差も依然として是正されていない。

このような状況を踏まえ、2002年にエチオピア政府は初等教育の拡充に重点を置くESDP IIを策定した。そこでは、住民参加により建設・運営費用を節減した廉価なフォーマル教育、さらにカリキュラムや授業時間の柔軟性を目指したノンフォーマル教育を、従来型のフォーマル教育の重要な代替手段と位置づけ、その拡充を重点政策の1つに掲げている。しかし、従来の住民参加による小学校建設・運営の多くは、個々のNGOやドナーの支援に全面的に頼るか、あるいは住民の独力によって実施されてきたため、地方教育行政にはそのノウハウが蓄積されていない。さらに、地方分権化に伴い、中央政府から郡教育行政への権限移譲が進んでおり、教育計画の立案・実施に関わる地方教育行政の能力向上が課題となっている。

2005年8月には、ESDPI/IIからの教訓を踏まえ、教育の質的向上に重点を置いたESDPIII(2005年6月-2009年10月)が策定された。ESDPIIIでは、ジェンダー格差や地域格差の是正を行い、教育の公平性を確保するために、へき地での就学率の向上(小規模学校や複式学級制度の活用)、特別な配慮を要する児童への代替的教育機会の提供など、ESDP IIまでに改善できなかった課題に臨んでいる。

そのような教育政策の中で、我が国は、地方教育行政と地域住民の連携による住民参加型基礎教育を重点サブセクターとして位置づけ、技術協力プロジェクト「住民参加型基礎教育改善プロジェクト」(通称ManaBUプロジェクト)を2003年11月よりオロミア州で実施しており、同州の就学率の大幅な向上が望まれる農村部へき地において、住民参加型による持続的な学校建設・運営のモデルの策定を行っている。本プロジェクトは、州内の3県6郡において、実際に20校の小学校(初等教育第1サイクル)をパイロット的に建設・運営することにより、オロミア州教育局(OEB)と郡教育事務所(WEO)の能力向上を図りながら、住民参加型による持続的な学校建設・運営の良い事例を提示することを目的としている。2006年1月までに20校のうち5校が建設・開校され、学校運営が行われている。現在、4年間のプロジェクト実施期間の中間点にあたり、本調査において中間評価を行うものとする。

1-2 調査方法

中間評価の方法は以下のとおりである。

- (1) R/D、PDM、活動計画表(PO)に基づき、プロジェクトの投入実績、活動実績、達成状況を調査・確認する。
- (2) 評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点から、現時点でのプロジェクト評価を行う。
- (3) PDMとPOについて、記載されている事柄(指標、活動、実施時期等)を見直し、必要に応じて修正す

る。

- (4) 評価調査によって明らかになった点(問題点、改善点、修正すべき点、提案等)を日本側とエチオピア側で共有し、今後の活動計画について協議する。
- (5) 本協議結果を双方の合意事項としてミニッツに取りまとめる。

1-3 調査団の構成

| 担当分野 | 氏名 | 所属 |
|-------|--------|---|
| 団長/総括 | 萱島 信子 | JICA 人間開発部 第1グループ(基礎教育)長 |
| 教育計画 | 横関 祐見子 | JICA 東南部アフリカ地域支援事務所 国際協力専門員 |
| 学校運営 | 野邊 節 | (株)ユニバーサル・フォレスト・コンサルタント 海外事業部 教育担当主査 |
| 評価分析 | 高橋 悟 | (有)アイエムジー 上席研究員 |
| 協力計画 | 徳田 由美 | JICA エチオピア事務所 企画調査員(現地より参団) |

1-4 調査日程

| 月日 | 曜日 | 業務工程 |
|-----------------|----|--|
| 12月中旬 ～1月11日 | | オロミア州教育局担当官との協議 ファクトシート完成 対処方針案修正 必要な情報・データ収集、資料の整理・入手 PCM 研修準備打ち合わせ(現地コンサル、OEB、ManaBU、JICA 事務所) |
| 1月12日 | 木 | PCM 研修(第1日目) |
| 1月13日 | 金 | PCM 研修(第2日目) |
| 1月14日 | 土 | (高橋団員)アジスアベバ着 午後:徳田企画調査員、ManaBU 専門家との打ち合わせ |
| 1月15日 | 日 | データ収集準備等 |
| 1月16日 | 月 | オロミア州教育局表敬 オロミア州教育局担当官との打ち合わせ プロジェクト専門家からの聞き取り調査 データ収集(アジスアベバ、オロミア州教育局) |
| 1月17日 | 火 | データ収集(西ハラルゲ県 チロ郡) |
| 1月18日 | 水 | データ収集(西ハラルゲ県 クンニ郡) |
| 1月19日 | 木 | 収集した情報・データの取りまとめ、資料整理(移動日) |
| 1月20日 | 金 | データ収集(アルシ県 ディクシス郡) |
| 1月21日 | 土 | 収集した情報・データの取りまとめ、資料の整理・作成 |

| | | |
|-------|---|--|
| | | 官ベース調査団受け入れ準備 (横関団員) アジスアベバ着 (萱島団長・野邊団員) アジスアベバ着 |
| 1月22日 | 日 | 団内打ち合わせ プロジェクト専門家との協議 |
| 1月23日 | 月 | JICA エチオピア事務所、プロジェクト専門家との協議 在エチオピア日本大使館表敬 教育省計画局表敬、協議 オロミア州教育局表敬、協議 |
| 1月24日 | 火 | 地方視察・調査(アルシ県 ドドタ・スレ郡教育事務所訪問 と ManaBU 学校視察) ミニッツ案の準備 |
| 1月25日 | 水 | オロミア州教育局との協議 ミニッツ案の作成 評価調査結果要約表準備 |
| 1月26日 | 木 | オロミア州教育局との協議 ミニッツ案修正 評価調査結果要約表準備 |
| 1月27日 | 金 | オロミア州教育局との協議 ミニッツ案修正 評価調査結果要約表準備 合同調整委員会開催準備 |
| 1月28日 | 土 | 合同調整委員会開催 ミニッツ署名、交換 |
| 1月29日 | 日 | 合同調整委員会 議事録まとめ 評価調査結果要約表作成 |
| 1月30日 | 月 | 評価調査結果要約表作成 JICA エチオピア事務所にて報告 |

1-5 主要面談者

エチオピア側

① 連邦教育省

Ms. Fantanesh Tilahun 計画局長

② オロミア州教育局

Mr. Dereje Asfaw 局長

Mr. Dunkana Negussa 副局長
Mr. Teshome Lemma Head of Planning and Research Department
Mr. Lissanu Lejissa Team Leader of EMIS Panel, Planning and Research Department
Mr. Tasew Bekele Team Leader of Planning and Project Study Panel, Planning and Research Department

- ③ ドドタ・スレ郡教育事務所
Mr. Indale Saresa 所長
Mr. Minda Tasew ANFE Expert

日本側

- ① 在エチオピア日本国大使館
泉 堅二郎 特命全権大使
石塚 広志 二等書記官
- ② JICA エチオピア事務所
斎藤 直樹 所長
神 公明 次長
薬師 弘幸 所員
- ③ ManaBU プロジェクト
北詰 秋乃 専門家(チーフアドバイザー/参加型開発)
國枝 信宏 専門家(住民参加型学校建設支援)
- ④ 開発調査「オロミア州初等教育アクセス向上計画(SMAPP)」
二宮 雅信 (総括/教育開発計画)

第2章 要約

2-1 5項目評価

評価5項目の観点から現時点でのプロジェクト評価を行った結果は下表のとおりである。

| |
|---|
| 妥当性：非常に高い |
| <ul style="list-style-type: none">エチオピアの貧困削減戦略文書(PRSP)にあたる持続的開発・貧困削減プログラム(SDPRP)は、7つの重点セクターの1つに「教育」を挙げている。また2002年6月に連邦教育省が発表した教育セクター開発プログラム(ESDPⅡ)では、政府財源に限りがあることから住民参加による学校建設の重要性が繰り返し述べられている。さらに2005年8月に連邦教育省が発表したESDPⅢにおいても、建設資材、労働力、現金等をコミュニティが提供することによって学校建設を進めることの重要性が強調されている。また、学校建設に際しては郡教育事務所(WEO)が行政組織として主導的役割を果たすことが、連邦教育省作成の「教育経営、住民参加、教育財務の運営ガイドライン」(2002年8月)に明記されていることから、オロミア州教育局(OEB)は上位レベルのC/P機関として、WEOは地方(現場)レベルのC/P機関として、それぞれ適切である。他方、開発途上国の基礎教育分野への日本の支援は、外務省が2002年6月に作成した「成長のための基礎教育イニシアティブ(BEGIN)」でうたわれており、1998年と2003年のアフリカ開発会議(TICADⅡ、Ⅲ)においてもその重要性が確認されている。このように本プロジェクトの目指すものは、エチオピアと日本政府の政策と合致している。 |
| 有効性：高い |
| <ul style="list-style-type: none">住民参加型学校の計画、建設、運営に関するガイドラインはすでにドラフトが出来ている。このうち、計画ガイドラインはほぼ完成しており、建設ガイドラインは2006年に学校建設を進めながら改定される予定である。運営ガイドラインは2005年に最初の5校が開校してから日が浅いため、今後の学校運営の中で見直しが進められる。本プロジェクトは全期間の半分を過ぎたところだが、すでに以下のような有効性が確認されている。<ul style="list-style-type: none">WEO行政官の住民参加型学校建設・運営にかかる計画策定・実施能力が向上した。学校の建設と運営を通じてコミュニティの結束力が高まった。WEOとコミュニティとの間にパートナーシップが構築された。これら関係者の学校に対するオーナーシップが醸成された。廉価で耐久性のある学校建設の実現可能性が具体的に提示された。これまで基礎教育へのアクセスが皆無だったへき地に学校が建設された(開校した5校で2,016人が就学中)。本プロジェクトで実施した行政と住民の協働による学校建設手法を活用し、独自予算で小学校を建設したWEOがある(西ハラルゲ県クニニ郡)。 |
| 効率性：低い |
| <ul style="list-style-type: none">以下の理由により、本プロジェクトの効率性は低いと言わざるを得ない。<ul style="list-style-type: none">OEB行政官の本プロジェクトに対する当事者意識と参加度の低さ。OEB、ZEO、WEO行政官の頻繁な人事異動と離職。組織編成に伴う郡レベル建設技官職の外部位と主体性の欠如。 |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> － WEO における予算の不足 (特に日当やモニタリングのための車両の燃料代)。 － 治安悪化による外出禁止 (JICA 専門家の自宅待機)。 － 長引く雨期による建設の遅延。 |
| インパクト：中位 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点で本プロジェクトのインパクトを評価することは時期尚早であり、本プロジェクトのインパクトの大きさは今後の関係者の努力と創意工夫にかかっている。本プロジェクトは次のような可能性と課題を内包している。 － 本プロジェクトで実施した行政と住民の協働による学校建設・運営の手法は OEB で採用され、オロミア州の ESDPⅢ内 で言及されている。この手法は、州内に留まらず、エチオピア全土における学校建設を促進する可能性を秘めている。 － 他方、本プロジェクトで実施中の建設手法は、WEO と住民の双方が最大限の時間と労力を割かない限り、具現化 (学校建設を完工) することは困難である。またひとくちに現地調達資材といっても各コミュニティで調達可能な資材と不可能な資材があり、それによって住民が提供する労働力の内容も異なってくる。したがって、ManaBU モデルは絶対不変のものではなく、各郡やコミュニティの状況に応じて柔軟に活用していく必要がある。今後はどの程度まで柔軟性を持たせたモデルが開発できるかが課題である。 |
| 自立発展性：中位 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点で本プロジェクトの自立発展性を論じることは時期尚早であるが、OEB の主導的役割が極めて重要であることは論を待たない。OEB としては、今後プロジェクト終了時に向けて開発される ManaBU モデルを学校建設のオロミア州モデルとして公式承認し、さらなる普及のための戦略を立案していくことが望ましい。 ・ また WEO 行政官の増員・定着・能力向上、交通費 (燃料代) の確保に向けた側面支援も必要である。さらに本プロジェクトによる建設事例では、工業資材購入費と熟練工傭上費 (最低でも合計約 10 万ブル) は行政が経費負担しなければならないため、各郡において予算確保が大前提となる。 ・ これらの条件が満たされない限り、本プロジェクトの自立発展性は危うく、エチオピアにおいては住民に負担を強いた質の低い学校建設が連続と継続されていく危険性をはらんでいる。 |

2-2 PDM の改訂

中間評価を機に、これまでのプロジェクトの進捗状況、達成度、今後のプロジェクトの進行を想定して、PDM 第 2 版を作成した (ミニッツを参照)。実施協議調査時に作成された PDM からの変更点は以下のとおりである。

| | PDM | PDM 改訂版 |
|----------|--|--|
| 名称 | CBBEC the CBBECs CMC | ManaBU The ManaBU schools または schools PTA |
| 指標の変更 | | |
| プロジェクト目標 | 2. Number of requests for guidelines in the selected woredas 3. Number of visitors to CBBEC | 2. Number of requests for guidelines in OEB and the selected woredas 削除 |
| 成果 1 | 1.4 Validity and appropriateness of the plan elaborated by each woreda | 1.4 削除 |

| | | |
|------|--|---|
| | 1.5 Frequency and appropriateness of the method of monitoring and evaluation (including the research on the community) | 1.5 カッコ部分のみ削除 |
| 成果 2 | 2.2 - rate and amount of fund provided by the community, etc. 2.5 Quality and quantity of textbooks and teaching materials (ex. Student textbook ratio) | 削除 成果 4.1 ～移動 |
| 成果 3 | 3.4 Validity and appropriateness of CBBEC programs 3.7 Frequency and appropriateness of the method of monitoring and evaluation | 削除(以下番号繰り上げ) 削除 3.6 Number and types of good example of community contribution for school management (新規追加) |
| 成果 4 | 4.1 Number of assigned teaching staff 4.2 Validity and content of training provided 4.3 Number of trained teaching staff | 4.1 Quality and quantity of textbooks and teaching materials (ex. Student textbook ratio) (追加) 4.2 Number of assigned teaching staff and trained teaching staff 削除 4.3 Number of participants in induction training provided |
| 活動 | | |
| 活動 1 | 1.5 To make a feasible plan in non-formal basic education | 削除(以下番号繰り上げ) |
| 活動 2 | 2.1 To select CBBEC sites in each woreda 2.3 To conduct CBBEC construction process workshops for the Woreda Education Training and Management Board 2.6 To provide required quality and quantity of textbooks and teaching materials to each CBBEC | 削除(以下番号繰り上げ) 2.2 To conduct school construction process workshops for the woreda personnel 2.3 To select school construction sites in the selected kebele 活動 4.1 ～移動 |
| 活動 3 | 3.4 To assist CMC to develop CBBEC programs (including annual plans and time schedule) and rules and regulations 3.5 To assist each CMC to manage CBBEC in collaboration with WEO 3.6 To assist CMC to conduct regular monitoring and evaluation of the CBBEC management in collaboration with WEO | 削除(以下番号繰り上げ) 3.4 To assist PTA in supporting school activities in collaboration with WEO 削除 |
| 活動 4 | 4.1 To assist the CMC to assign teaching staff (facilitators) at CBBEC 4.3 ～ 4.5 | 4.1 To provide required quantity of textbooks and quality and quantity of teaching materials to each school(追加) 4.2 To provide technical assistance to PTA in assigning teaching staff (facilitators) at ManaBU schools, if necessary 削除 |

第3章 計画達成度

3-1 投入実績

3-1-1 日本側投入

(1) 専門家派遣

長期専門家3名と短期専門家1名が派遣された。なお、本調査終了後の2006年2月23日から「業務調整/学校運営」の後任の長期専門家が派遣されている。

| 氏名 | 指導科目 | 派遣期間 |
|-------|-----------------|------------------------|
| 長期専門家 | | |
| 北詰秋乃 | チーフアドバイザー/参加型開発 | 2003年3月30日～2006年11月18日 |
| 山口直子 | 業務調整/学校運営 | 2004年1月18日～2006年1月17日 |
| 國枝信宏 | 参加型学校建設支援 | 2004年6月22日～2006年8月21日 |
| 短期専門家 | | |
| 國枝信宏 | 住民参加型学校建設支援 | 2004年1月18日～2004年3月7日 |

(2) 研修員受け入れ

研修受け入れの実績は下表のとおりである(詳細はミニッツ ANNEX 8-3 参照)。

| 人数 | 所属先 | 研修科目 | 研修期間 | 受け入れ機関 |
|--------------|-----------------|------|-------------|--------|
| 平成15(2003)年度 | | | | |
| 3人 | OEB | 学校運営 | 2003年11～12月 | 広島大学 |
| 平成16(2004)年度 | | | | |
| 5人 | OEB(2名)、ZEO(3名) | 学校運営 | 2004年8～9月 | 広島大学 |
| 平成17(2005)年度 | | | | |
| 3人 | OEB | 教員研修 | 2006年1～2月 | 鳴門教育大学 |

2003年度はOEBから3名が参加したが、うち2名は研修受講後にOEBを退職した。2004年度はOEB職員2名とZEO行政官3名(各県から1名ずつ)が参加した。ZEO行政官1名は「成人及びノンフォーマル教育」(Adult and Non-Formal Education: ANFE)の担当部からメディア部に異動した。また他のZEO行政官は、ZEOがZECBO(県教育及びキャパシティビルディング事務所)に組織改編されたことに伴って教育部門からキャパシティビルディング部門に異動されてしまったが、ZECBOが分割されて1年後にZEOに戻ったところで再びZEOで勤務することとなった。2005年度はOEB副局長を含む3名が本邦研修に参加した(中間評価調査団滞在中に本邦へ出発)。

(3) 機材供与

交通手段としてステーションワゴン2台、小型トラック2台、オートバイ6台を供与し、事務機器も購入した。これらの合計金額は17,667千円である。さらに、運営経費(学校建設用工業資材の購入費を含む)として56,600千円を活用した。

3-1-2 エチオピア側投入

(1) カウンターパート(C/P)の配置

中間評価調査実施直前での OEB の C/P 配置状況は以下のとおりであった。

- ① Dereje Asfaw (OEB 局長): プロジェクト・ディレクター
- ② 空席: プロジェクト・マネージャー
- ③ その他 C/P スタッフ
 - Lissanu Legissa (Expert, Planning and Research Dept.)
 - Tasaw Bekele (Expert, Planning and Research Dept.)
 - Yali Merga (Engineer, Planning and Research Dept.)
 - Alemayehu Etea (Head, Training Dept.)
 - Mengitsu Haile (Head, Education Supervision and Program Dept.)
 - Teshome Seifu (Team Leader, Education Supervision and Program Dept.)
 - Nuria Ibrahim (Expert (on study leave), Education Supervision and Program Dept.)
 - Kidane Tolcha (Expert, Education Supervision and Program Dept.)

度重なる組織改編が進む OEB であるが、プロジェクトの対象がノンフォーマル学校から新たにフォーマル学校を含めたものになったことに伴い、フォーマル教育を担当する以下の 3 つが本プロジェクトの担当部署として確認された(組織図はミニッツ ANNEX 7 参照)。

- ① Planning and Research Dept.
- ② Education and Training Quality Assurance Dept.
- ③ Educational and Supervision and Program Dept.

また、上記のとおりプロジェクト・マネージャーのポストが空席であったが、OEB 副局長の Dunkana 氏が同ポストに就くことを確認するとともに、協議の結果、新たにプロジェクト・マネージャー補佐のポストを設け、Planning and Research Dept. 長である Teshome Lemma 氏が就任することが決定した(詳細はミニッツ本文参照)。

その他、ZEO と WEO レベルの C/P リストについてはミニッツ ANNEX 8-4 を参照。

(2) スペースと施設の提供

JICA 長期専門家 3 名のために 3 つの個室を提供した。しかし、提供されたスペースと施設では手狭だったため、プロジェクトで OEB 敷地内に会議室を整備した。

(3) 運営費の負担

OEB は上記施設にかかる光熱費はすべて、電話料金は一部負担している。また、JICA がプロジェクト終了後の活動の自立発展性を考慮し、OEB 職員の出張に日当は支払わないことを OEB と申し合わせており、OEB 独自予算で日当を賄っている。

3-2 活動実績

ここでは主にPDMに明記された活動の実施によって得られた成果について述べる(詳細はANNEX 4-1または付属資料「評価グリッド結果表」を参照)。

3-2-1 成果1 (WEO 行政官の住民参加型学校建設・運営に係る計画策定・実施能力が向上する)

現在のC/P数は、OEB 10名、3県のZEO 8名、6郡のWEO 14名である。C/Pには頻繁な人事異動と離職があり、また能力や取り組む意欲に大きな差異がある。しかし、JICA 専門家と密に連絡を取り合い共に活動したC/Pに関しては、住民参加型の学校建設運営について一定の計画策定・実施能力を習得したといえる。なお、計画ガイドラインのドラフトは完成している。

3-2-2 成果2 (選定された郡において ManaBU 学校が建設され、教育環境が整備される)

2005年9月に5校がほぼ完工・開校し、机・椅子・教科書の整備された教室で現在2,016名の児童が学んでいる。また13校についてはサイト選定済みで2006年9月に開校予定である。その他2校は行政村の選定が未了である。なお、建設ガイドラインのドラフトは2005年に作成され、実際の建設において活用された。2006年はさらに建設作業の中で検証を進め、その過程で得られた新しい知見を盛り込む予定である。

| 県 | 郡 | 学校建設 目標数 | 建設進捗状況 | | | |
|-----------------|--------------|-------------|--------|------------|---------|------------|
| | | | 開校 | 着工後 停止中 | 未着工 | |
| | | | | | サイト選定済み | 行政村 未選定 |
| Arsi | Dodota Sire | 4 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| | Diksis | 2 | 1 | 1 | 0 | |
| West Harerge | Chiro | 4 | 2 | 0 | 2 | |
| | Kunni | 4 | 1 | 0 | 3 | |
| North Shoa | Degem | 3 | 0 | 0 | 2 | |
| | Wuchale Jida | 3 | 0 | 0 | 2 | |
| 計 | 6 | 20 | 5 | 1 | 12 | 2 |

3-2-3 成果3 (ManaBU 学校が住民組織、WEO との協力で運営され、維持される)

開校し運営されている学校は5校のみである。うち4校は1年生のみで全4教室を使用中である。2006年9月の新入学生の受け入れに際しては効率的に(例えば2部制を導入して)教室を使用するか、教室を増築する必要が生じる。また児童の増加に伴って教員を増やす必要も生じる。いずれにせよ、将来を見越して計画的に学校を運営していく必要がある。運営ガイドラインのドラフトは作成されているものの、プロジェクト後半において、さらにその内容を充実させていく必要がある。

3-2-4 成果4 (研修を受けた教員が、質の確保された教育を ManaBU 学校の児童に提供する)

本プロジェクトでは、当初ノンフォーマル教育を対象としていたが、プロジェクト開始後に、ノンフォーマル教育よりもフォーマル教育に対する住民の要望が高いことが判明したため、フォーマル校を開校することにした。これに伴って主に正規教員(非資格教員も少数含む)に対する導入研修を実施した。この導入研修に対する参加者の評価は良好である。なお、教員の変更(プロジェクト開始当初はノンフォーマル教育を想定しており、非資格教員を雇用する計画であったが、ManaBU 学校が正規校となったことに伴い、正規教員が郡よ

り配置されたため)とプロジェクトの残り期間を考慮し、現職教員研修の定期化はプロジェクト活動から除外することとした。

3-3 達成状況（スーパーゴール、上位目標、プロジェクト目標）

詳細はミニッツ ANNEX 4-1 または付属資料「評価グリッド結果表」を参照。

3-3-1 スーパーゴールの達成状況

- ・ オロミア州内の学校数は増加傾向にある。州内での就学者数も増加しているが、これはプロジェクト以外の要因も作用していることが考えられる。
- ・ 本調査時点では、他の郡の既存校において、本プロジェクトの学校建設手法が教室の増築や老朽化した校舎の建て替えに活用された、あるいは新規学校建設に活用されたという報告はされていない。

3-3-2 上位目標の達成状況

- ・ 対象 6 郡内の学校数は増加傾向にあり、総就学率も向上している。ただし、既存の村の集会所を学校に転用した場合も「建設(新規設立)」と見なされるため、ハード的には政府基準からかけ離れた政府校も数多く含まれている。換言すれば、そのような措置を取ってでも学校数を増やさなければ、増大する需要に応えることができないというのが実情である。
- ・ 本調査時点では、他の郡の既存校において、本プロジェクトの学校建設手法が教室の増築や老朽化した校舎の建て替えに活用されたという報告はされていない。
- ・ 西ハラレゲ県のクニニ郡では、本プロジェクトの支援を得てラガラフト校を建設したが、彼らはそれと並行して、本プロジェクトの住民参加型学校建設の手法を採り入れながら、交付金 16 万ブルと住民参加(現金 1 万 2 千ブル、現地資材、未熟練労働)によって Oda-Tuta 校も建設した。現時点で、本プロジェクトにおいて上位目標を達成することはまだ早いと思われるが、Oda-Tuta 校の例もあるとおり、ManaBU モデルの採用と普及により学校数の増加と就学率の向上が今後期待される。

3-3-3 プロジェクト目標の達成状況

ManaBU モデルは以下のような様々な課題に対応すべく開発途上であり、検証を受けている。

- ・ 本プロジェクトは、WEO が 10 万ブル弱(工業資材購入費と熟練工傭上費)の予算を確保し、コミュニティが 6 万ブル相当(現金、現地調達資材、未熟練工傭上費)の貢献をすれば、石積の基礎と土壁の学校 1 校(1 棟 2 教室×2 棟=4 教室)を建設することができることを示した。もし住民参加がなければ、同タイプの学校を建設するのに約 20 万ブルの資金が必要である。したがって、ManaBU の建設手法は WEO の学校建設コストを半減し、オロミア州内の選定された郡だけでなく他の郡においても学校建設を加速させる可能性を秘めている。すなわち、これまで 20 万ブルで 1 校しか建設できなかったのに対し、住民参加を得ることによって 2 校の学校建設が可能となることを示している。
- ・ エチオピアの ESDP III には、初等教育第 1 サイクル(1~4 学年)の小学校の平均建設費用は 50 万ブル強であり、各州は基本的な学校設計パラメータを考慮した廉価な代替モデルを開発することが強く期待されているとの記述がある。ManaBU モデルはある意味でこの問いに対する回答を示したといえる。
- ・ 他方、現行の ManaBU の建設手法は WEO による多大な働きかけと住民参加を必要とすることに留意す

べきであり、今後さらに開発を進めていくモデルは地域の多様性に応じて柔軟に活用されるべきである。

- 学校建設は 1) WEO のイニシアティブ、2) 住民の積極的な参加、3) WEO と住民のパートナーシップを必要とする。
- コミュニティは学校建設というプロセスを通じてより団結することが認められている。
- WEO は住民と共に学校を建設するという参加型アプローチを初めて経験した。本プロジェクトが開始されるまでは「(一括契約による)建設業者任せ」、「住民任せ」、「ドナー任せ」の学校建設しか経験したことがなかった。
- また選定された郡内の(本プロジェクトで建設された学校に通う)大半の児童にとっても、教育を受けることは初めての経験であった。もし ManaBU 学校がなければ、彼らは基礎教育にアクセスすることさえできなかった。
- 本プロジェクトは黒綿土(black cotton soil)の上に学校を建設するという困難な課題も抱えている。今後、ディクシス郡のカチャコシモ村において、学校が成功裏に建設されれば、この事例は地域全体が黒綿土のみで覆われた同様の行政村にとって良き模範となると思われる。

第4章 中間結果報告

4-1 評価5項目による評価

評価5項目の観点からプロジェクト評価を行った結果は下表のとおりである。

| |
|---|
| 妥当性：非常に高い |
| (必要性) <ul style="list-style-type: none">エチオピアでは、2015年までに初等教育の完全普及をめざしている。しかし、増大する需要(通学を望む児童数)に対して、学校数が非常に少ないという問題を抱えている。こうした社会的要請に政府予算だけでは対応しきれないため、住民のリソースを活用した参加型の学校建設を進める必要性が生じている。 |
| (優先度) <ul style="list-style-type: none">エチオピアの貧困削減戦略文書(PRSP)にあたる持続的開発・貧困削減プログラム(SDPRP)は、7つ重点セクターの1つに「教育」を挙げている。2002年6月に連邦教育省が発表した教育セクター開発プログラム(ESDP)Ⅱでは、政府財源に限りがあることから住民参加による学校建設の重要性が繰り返し述べられている。2005年8月に連邦教育省が発表したESDPⅢにおいても、建設資材、労働力、現金をコミュニティが提供することによって学校建設を進めることの重要性が強調されている。さらに、ESDPⅢには「すべての学齢児童に初等教育へのアクセスを提供することは(中略)向こう数年間、政府と住民の双方にとって大きな負担となるだろうが、その報いは大きい。(中略)住民は学校と成人・基礎教育センターの建設のために、自らの能力に見合った労働力、現地資材、資金を提供することが期待される」と明記されている。 |
| (C/P 機関の適切性) <ul style="list-style-type: none">学校建設に際しては郡教育事務所(WEO)が行政組織として主導的役割を果たすことが、連邦教育省作成の「教育経営、住民参加、教育財務の運営ガイドライン」(2002年8月)に明記されていることから、オロミア州教育局(OEB)は上位レベルのC/P機関として、WEOは地方(現場)レベルのC/P機関として、それぞれ適切である。ただし、ManaBUモデルの認知や普及を図るには中央レベルでの教育政策や他ドナーの協力との連携を模索することが重要である。 |
| (わが国のODA政策との関連性) <ul style="list-style-type: none">開発途上国の基礎教育分野への日本の支援は、外務省が2002年6月に作成した「成長のための基礎教育イニシアティブ(BEGIN)」でうたわれており、1998年と2003年のアフリカ開発会議(TICADⅡ、Ⅲ)においてもその重要性が確認されている。 |
| 有効性：高い |
| (プロジェクト目標の達成状況) <ul style="list-style-type: none">本プロジェクトの最終成果品である計画・建設・運営に関するガイドラインのドラフトはすでにでき上がっ |

ており、今後プロジェクト終了に向けてより完成度を高めていく。

- **ManaBU** モデルは開発途上にあるが、許容できる耐用性で廉価な学校を建設できるという具体的な手順や方法を示した。

(プロジェクト目標の達成予測)

- ガイドラインの完成も含め、プロジェクト終了時点で住民参加型の学校建設・運営モデルを完成させるというプロジェクト目標を達成することは可能であると思われる。
- ただし現在の **ManaBU** モデルは多大な **WEO** からの働きかけと住民参加を必要とする。同モデルは各地域の多様性に応じて柔軟に活用されるべきであり、残りのプロジェクト期間でさらなる改善が望まれる。

(阻害要因)

- 有効性の阻害要因として確認されたものは以下のとおりである。
 - － **OEB** 行政官の本プロジェクトに対する当事者意識と参加度の低さ。
 - － **OEB**、**ZEO**、**WEO** 行政官の頻繁な人事異動と離職。
 - － 組織編成に伴う郡レベル建設技官職の外部化と主体性の欠如。
 - － **WEO** における予算の不足(特に日当やモニタリングのための車両の燃料代)。
 - － 治安悪化による外出禁止(**JICA** 専門家の自宅待機)。
 - － 長引く雨期による建設の遅延。
- 特に **WEO** に関しては、現場でこれに代わる機関がないものの、実施機関としてキャパシティ不足であることは否めない。ほぼすべての **WEO** は慢性的な人員不足の状況にあり、1人の行政官が多くの仕事を兼務している。したがって、**WEO** に本プロジェクトの担当官がいないケースや、いたとしても十分な時間を取れず動機付けが十分でないケースが見受けられた。**WEO** のような郡レベルの行政組織では、日常的な活動予算(日当や移動のための交通費・燃料費)を確保するのも困難な状況にある。

効率性：低い

(阻害要因)

- 以下の理由により、本プロジェクトの効率性は低いと言わざるを得ない。
 - － **OEB** 行政官の本プロジェクトに対する当事者意識と参加度の低さ。
 - － **OEB**、**ZEO**、**WEO** 行政官の頻繁な人事異動と離職。
 - － **WEO** における予算の不足(特に日当やモニタリングのための車両の燃料代)。(上記3点に関しては、**OEB** は善処する旨確約シミニッツに明記)
 - － 治安悪化による外出禁止(**JICA** 専門家の自宅待機)。
 - － 長引く雨期による建設の遅延。

(成果の達成状況)

- 投入と活動はすべての成果の達成に向けて貢献している。

(貢献要因)

- 住民参加による学校建設を実際に進めるのは郡の教育行政官であり、彼らが **JICA** 専門家と共に活動

することによって実践から学び得たものは大きい。本プロジェクトの PDM では WEO 行政官の能力向上が成果の 1 つとして設定されており、彼らは ManaBU モデルの開発や計画・建設・運営ガイドライン(案)の作成に大きな貢献を果たしたといえる。

- ・ 本プロジェクトで支援している「行政と住民の協働による学校建設」はエチオピアで初めての取り組みであり、プロジェクト開始以来、試行錯誤の連続であった。しかし、エチオピアの政府基準を満たす最低限の質の学校を廉価で建設するには、行政と住民の協力が不可欠であることから、関係者間の合意形成を重視した参加型アプローチは適切なものである。学校建設に際して行政と住民に求められる負担は小さくはないが、一連のプロセスを通じてこれら関係者のオーナーシップは醸成されたと考えられる。

インパクト：中位

(スーパーゴールと上位目標の達成予測)

- ・ オロミア州内や対象 6 郡内の学校数は増加傾向にある。総就学率も向上しているが、これは保護者が子どもを学校に通わせることの重要性を認識したことが要因の 1 つと考えられる。教育へのアクセスは向上しているが、改善の余地は依然として大きい。
- ・ 本調査時点では、オロミア州内の既存校で ManaBU モデルが教室の増築や老朽化した校舎の建て替えに活用されたという報告はされていない。しかし、対象郡の 1 つであるクニ郡内で少なくとも 1 校が本プロジェクトの住民参加型建設手法を採り入れて建設された。今後、同モデルを活用してより多くの学校が建設されていくことが期待される。

(インパクト発現の可能性)

- ・ ManaBU モデルは OEB で採用され、オロミア州の ESDPⅢ内と言及されている。このモデルは、州内に留まらず、エチオピア全土における学校建設を促進する可能性を秘めているが、インパクトの大きさは今後の関係者の努力と創意工夫にかかっている。

(今後の課題)

- ・ 現在の本プロジェクトにおける学校建設手法は、WEO と住民の双方が最大限の時間と労力を割かない限り、具現化(学校建設を完工)することは困難である。また、ひとくちに現地調達資材といっても各コミュニティで調達可能な資材と不可能な資材があり、それによって住民が提供する労働力の内容も異なってくる。したがって、ManaBU モデルは絶対不変のものではなく、各郡やコミュニティの状況に応じて柔軟に活用していく必要がある。今後ほどの程度まで柔軟性を持たせたモデルが開発できるかが課題である。

自立発展性：中位

(組織的側面)

- ・ 2002 年 8 月に連邦教育省が作成した「教育経営、住民参加、教育財務の運営ガイドライン」には、OEB が ZEO と WEO の能力向上のために技術的、専門的、物質的な支援を提供する旨明記されている。このガイドラインに従って OEB が強いリーダーシップを発揮することが強く求められる。
- ・ ZEO は、このガイドラインによれば OEB から与えられた権限に応じて、WEO では実施できない活動を行うことが期待されている。
- ・ 新しい学校が政府によって建設される場合、WEO が必要事項を提示し、建設される行政村を決定する旨、本ガイドラインに記載されている。

- ・ 上記の義務と責任を果たすため、OEB、ZEO、WEO は十分な人材と財源を付与される必要がある。
- ・ WEO、ZEO、OEB では人事異動と離職が頻繁に行われている。これらは技術移転の速度を上回っており、プロジェクトの自立発展性に悪影響を与えることが懸念される。

(財政的側面)

- ・ WEO の開発予算と経常予算は乏しい。モニタリングのための交通費(燃料代)の確保はもちろんのこと、本プロジェクトによる建設事例では、工業資材購入費と熟練工傭上費(最低でも合計約 10 万ブル)は行政が経費負担しなければならないため、自立発展性を高めるためには各郡における予算の確保が不可欠である。

(技術的側面)

- ・ 現場において学校建設に関する監理や技術的助言を行うことができるのは郡行政事務所の建設技官だけである。建設技官が 1 人しかいない郡もいくつかあり、WEO の財源が乏しい(WEO が郡建設技官の出張費を捻出できない)こともあり、建設技官がへき地の建設サイトを定期的に訪問するために克服すべき課題は残されている。
- ・ ManaBU 学校の建設仕様は連邦教育省のそれと合致しており、OEB がそれを承認・採用する形をとっている。地方自治体だけでなく NGO や他のドナーがこの仕様を用いる可能性は大きいですが、それもひとえに OEB の努力にかかっている。

(社会・文化・環境的側面)

- ・ ManaBU モデルは社会・文化・地理・環境的側面に配慮して注意深く提供され、コミュニティの多様なニーズに応え続けることが期待される。

以上、様々な条件が満たされない限り、本プロジェクトの自立発展性は危うく、エチオピアにおいては住民に負担を強い質の低い学校建設が連綿と継続されていく危険性をはらんでいる。

4-2 結論

本プロジェクトは多くの困難に直面しながらも創意工夫をしつつ、目に見える成果を挙げていることが確認された。学校建設については遅れが見られるものの、残りの期間で遅れを取り戻すことは可能であり、最終成果品であるガイドラインについてはすでにドラフトが完成していることから、プロジェクト終了時点で住民参加型の学校建設・運営モデルを完成させるというプロジェクト目標を達成することは可能であると思われる。

第5章 プロジェクト活動の今後の展開と提言

5-1 プロジェクト活動の進捗と今後の計画

今後プロジェクトは、①最終成果品であるガイドラインの改良と完成、②将来展開に向けた普及活動の着手、に活動の重点を置いていくことが求められる。個々の活動の進捗状況と今後の計画は次のとおり。

- 学校建設については、今後はすでにサイト選定済みである13校について2006年9月の完工を目指す。残りの2校については、3期目の建設パイロット活動であることから極力OEB独自で実施することとしたが、必要に応じてプロジェクト専門家の支援が求められる。
- 教員研修を通じた教育の質の向上については、当初計画ではパイロット校がノンフォーマル校であったことから無資格教員をPTAが雇用する必要があるが、公立校に変更されたことによりWEOからの正規教員の派遣が可能となった。これに伴い、今後の活動計画から現職教員研修活動を削除し、必要に応じて校内や近隣校との教員の交流活動を学校運営支援の中で行う。
- 本プロジェクトの最終成果品であるガイドラインの作成については、今後は、パイロット活動で得られた知見をもとにドラフトを改良・完成し、OEB側にManaBUモデルの公式化を働きかけ、将来展開に向けての普及活動を開始する。

| | | 当初計画 | 現在までの進捗 | 今後の予定 |
|-----------------------------|------|---|---|--|
| パイ ロ ッ ト 活 動 | 設置計画 | 2005年4月までに、20サイトの計画策定を終了する | 2校の行政村選定を除きほぼ計画通りに進捗。 | 若干のF/U活動を行う。 2校の行政村選定についてはOEBのイニシアティブにより極力OEB独自で実施する。 |
| | 学校建設 | 西ハラルゲとアルシ県については2005年5月に、北シヨア県については2006年4月に、全学校建設を終了する。 | 5校はほぼ完工し、昨年9月に開校。 13校についてサイト選定済み、このうち12校は建設未着手。 2校は行政村選定未了。 | 2006年9月までに13校を建設。 2007年5月までに2校建設(現在行政村未選定)。 ただし最後の2校についてはOEBのイニシアティブにより極力OEB独自で実施する。 |
| | 学校運営 | 上記設置計画と学校建設計画に合わせて、順次運営研修と開校準備を行う。 2005年6月までに終了する。 | 5校は2005年9月に開校し運営開始済み。 | 順次開校した学校について運営支援を行う。建設段階から形成されたCMC(PTA)の多様な活動支援を予定(収入向上、教員交流等含む)。 |
| | 教育の質 | 上記設置計画と学校建設計画に合わせて、順次補助教員(facilitator)研修を行う。 2006年6月までに新規教員の導入研修を終了する。 | 5校について教員の導入研修実施済み。 | パイロット校の位置付けがノンフォーマル校から公立校に変更されたことに伴い、現職教員研修を計画から削除し、教員の導入研修のみを実施する。 |
| ガイドラインの作成 | | 2003年12月にドラフトを作成し、2006年10月にドラフトの修正を行い完成させる。 | 計画・建設・運営のガイドラインドラフト作成済み。それぞれの熟度はパイロット活動の進捗に応じて異なる。 | 今後のパイロット活動を踏まえ、ガイドラインのさらなる改善を図る。 ガイドラインの広報・普及活動を行う。 |

5-2 提言

5-2-1 ManaBU プロジェクトの意義と ManaBU モデルの有用性

エチオピアにおいてはこれまで住民参加が教育政策文書にうたわれながらも、行政からの技術的経済的支援がほとんど行われない、いわば「住民任せの住民参加型」の学校建設・運営が実態であった。その結果として、住民の負担が大きかつ非常に質の劣る校舎で不十分な内容の教育が行われている。したがって、ManaBUプロジェクトの意義は、エチオピアで広く行われている住民参加の学校建設・運営に、行政が行うべき適切な技術的経済的支援の内容を模索し、その具体的な手法を確立しようとしているところにある。

本プロジェクトにおいて開発した ManaBU モデルの概要は次のとおりである。

(学校建設に関して)

- 行政負担:工業資材と熟練工の調達 (約 10 万ブル)
- 住民負担:現地で入手可能な材料(土、砂、石、木、藁、水など)の提供と労働の提供
(約 6 万ブル、ただしコミュニティの状況により大きく異なる)
- 建設仕様:石+コンクリートの基礎、土壁、木製トラス、トタン屋根
(政府の低コスト型学校建設標準仕様に準じる)
- 住民参加プロセス:ワレダ教育行政官・建設技官と地域住民で建設管理委員会を形成し、この委員会
がサイト選定、設計、仕様、予算、ワレダと住民の負担割合などを決定し、住民とワレダ行政官が建設の
各工程を分担する。
- 工期:サイト選定から開校まで約 1 年

(建設後の学校運営に関して)

- 行政負担:有資格教員の派遣、学校運営経費の負担(規定では 5 ブル/児童×児童数、ただし支給されて
いないケースも多い)
- 住民負担:運営経費の負担(5~10 ブル/戸ほど)、必要に応じ補助教員 (facilitators) の雇用や教員宿
舎・トイレ・柵の建設
- 住民参加プロセス:ワレダ教育行政官と地域住民とで PTA を形成し、学校運営にあたる。

住民参加型の学校建設・運営は、住民の教育に対するニーズと負担引き受けの意思が前提となるが、そもそもこのような住民のレディネスもコミュニティごとに多様で流動的である一方で、学校建設ニーズは広範に存在する(前期小学校/後期小学校/中等学校、新築/増築/建て替え、都市部/農村部/へき地、近隣に学校がある場合/ない場合など)。したがって、ManaBU モデルは大きな可能性を有しているものの、その成否は郡行政官の能力とコミュニティの状況に大きくかかっており、ManaBU モデルは学校建設の多様な手段の 1 つととらえることが重要である。

5-2-2 ManaBU モデルの普及

ManaBU モデルはエチオピアの教育行政に住民参加という新たな活動を取り込み、廉価で質の確保された学校建設を可能にするという点において非常に斬新である一方で、普及にあたっては次のような条件が満たされる必要がある。

- **ManaBU モデルの公式化:**すでに OEB はオロミア版 ESDPⅢドラフトにおいて ManaBU モデルについて言及しているが、ManaBU モデルの完成に伴い公式化するとともに、郡への普及活動が必要である。
- **WEO の強化:**十分な住民参加を得るには、WEO による十分なファシリテーション/モニタリング/フォローアップが必要であり、郡の教育行政官の増員、能力向上、移動手段の手当て等が前提となる。
- **資金の確保:**工業資材購入と熟練工雇用は行政側が負担すべきものであり(これまでのプロジェクトの事例では約 10 万ブル/校)、各郡において最低でもこの資金の確保が必要となる。

特に WEO 強化と資金の確保は、エチオピアの現在の状況から見て必ずしも容易ではないので、ManaBU モデルの普及にあたっては、これらの点について十分に考慮される必要がある。今後のプロジェクト活動を通じて OEB がこれらの点についての一層の理解を深めるとともに、まずは OEB 側が今後の普及戦略検討のイニシアティブを取ることが期待される。

また、今後の ManaBU モデルの普及に取り組むためには、同モデルが最も有効である条件(郡行政、コミュニティ、立地など)を明らかにし、オロミア州の教育開発のいずれの部分を担当することが適当であるのかを知る必要がある。さらに、ManaBU モデルはまだ完成途上であるので、プロジェクト残り期間において、WEO やコミュニティの負担の軽減、多様性への対応に関して改善の余地があるか、更なる検証が期待される。

5-2-3 オロミア州教育局(OEB)のオーナーシップ

C/P 機関である OEB の ManaBU プロジェクトに対するオーナーシップは非常に低いと言わざるを得ない。ここに至るまでには、日々のプロジェクト活動の中で専門家の多くの苦労があったものと推察されるが、OEB なくしては ManaBU モデルのオロミア州での今後の普及は不可能であるので、専門家と JICA 事務所が協力して、OEB のオーナーシップの醸成、関係修復、コミュニケーションの改善に取り組む必要がある。適切な C/P の張り付け(今回の調査で申し入れ済み)、定期的なプロジェクト会議の開催(月 2 回以上)、OEB 職員によるプロジェクトの積極的な運営管理、専門家は黒子に徹する姿勢が徐々にでも実現されることが期待される。

5-2-4 中央政府の巻き込み

エチオピアは連邦制を採っており、教育行政も州政府に委ねられているため、ManaBU プロジェクトはオロミア州政府の教育局を C/P 機関として実施している。日々のプロジェクト活動においては、このことは適当であるものの、ManaBU モデルの認知や普及を図るためには中央レベルでの教育政策や他ドナーの協力との連携を模索することが重要である。そのためには、次のような可能性を念頭に、連邦教育省を一層巻き込んだ活動を行うことが期待される。

- ESDP などの教育政策に ManaBU モデルを採り入れる。
- オロミア州以外の他州へも ManaBU モデルを普及させる。
- UNICEF による学校建設の資材供与など、他ドナーによる学校建設関連案件との連携を図る。
- SWAPs も展開していることから、世銀などのドナーによる財政支援資金の活用を図る。

5-2-5 プロジェクト実施上の課題

ManaBU プロジェクトは、次のようなプロジェクト実施上の課題を抱えており、調査団から OEB に対して善処を申し入れた。

- C/P の頻繁な異動と離職:プロジェクト開始当初より異動・離職していない OEB の C/P 職員は 2 人のみであり、WEO においても然りである。人材育成が図られないばかりか日々のプロジェクト活動の進捗にも支障を及ぼしているため、OEB に強く是正を申し入れた。
- モニタリング活動にあたっての旅費:OEB と WEO のいずれにおいても、旅費・日当の支払いを C/P から求められることが多いものの、プロジェクトでは終了後の自立発展性を考慮し、原則支払っていない。調査団からも重ねて、先方による旅費・日当の手当てについて強く申し入れた。その一方で、エチオピアの財政状況を考えると、先方による手当てが困難であるのも現実であり、OEB や WEO の組織外の建設技官についてだけ、プロジェクトによる旅費手当てを検討することも、プロジェクトの円滑な運営からは必要でないかと思われる。JICA 事務所とも相談の上、今後の学校建設活動での取り扱いを検討する。

モニタリング活動にあたってのバイクの活用:プロジェクトは 6 台のバイクを WEO にモニタリング活動の手段として供与しているが、一部に燃料代の不足などにより活用されていない事例がある。調査団より先方に善処を申し入れたものの、今後は運用記録の作成を義務づけるなどして、活用状況の把握をするとともに、改善に向けて JICA 事務所からも継続的な働きかけが必要である。

5-2-6 オロミア州初等教育アクセス向上のための協力プログラム

現在 JICA は ManaBU プロジェクトに加え、スクールマッピングやマイクロプランニングを主たる内容とした開発調査「オロミア州初等教育アクセス向上計画 (SMAPP)」を OEB と実施しており、さらにオロミア州の小学校建設の無償資金協力要請(平成 19 年度)も提出されている。無償資金協力については平成 18 年 3 月 10 日に正式に採択され、コミュニティ開発支援無償として実施される予定であり、平成 18 年度中の予備調査実施を現在計画中である。これらの 3 つの投入を有機的に連携させ、1 つのプログラムとして実施し、一層の効果の発現を目指すことが期待される。

付属資料

1. ミニッツ
2. 評価グリッド結果表（和文）

その他関連資料（別添CD）

1. ManaBU しんぶん（1～26号：2004年3月～2006年4月発行）
2. Baseline Study of Community-based Basic Education Centres in 3 Zones of Oromia 報告書
（2004年6月発行）
3. Teaching and Learning Practice 報告書（2005年3月発行）
4. ManaBU Guidelines（2006年2月現在 草稿）
5. エチオピア教育開発概況-初等教育を中心に（2006年4月）

**MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE FEDERAL DEMOCRATIC REPUBLIC OF ETHIOPIA
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
COMMUNITY-BASED BASIC EDUCATION
IMPROVEMENT PROJECT
("ManaBU PROJECT")**

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Ms. Nobuko Kayashima, visited the Federal Democratic Republic of Ethiopia from 14 to 30 January 2006 for the purpose of mid-term evaluation of the Project on "Community-based Basic Education Improvement Project ("ManaBU Project")" (hereinafter referred to as "the Project").

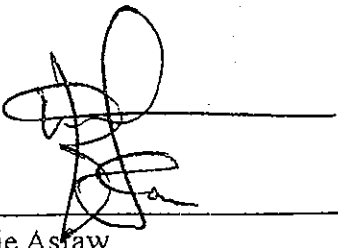
During its stay in Ethiopia, the Team had a series of discussions with the Ethiopian authorities concerned, jointly evaluated the achievements of the Project, and exchanged views for further improvement of the Project.

As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Addis Ababa, 28 January 2006

菅島 信子

Ms. Nobuko Kayashima
Leader
Japanese Mid-term Evaluation Team
Japan International Cooperation Agency
Japan



Mr. Dereje Asfaw
Head
Oromia Education Bureau
Oromia Regional State
The Federal Democratic Republic of Ethiopia

ATTACHED DOCUMENT

CONTENTS

1. Introduction
 - 1-1 Preface
 - 1-2 Objectives of Evaluation
 - 1-3 Schedule of the Evaluation Team
 - 1-4 Joint Evaluation Team
 - 1-5 Methodology of Evaluation
2. Evaluation
 - 2-1 Achievements of the Project
 - 2-2 Results of the Evaluation
3. Conclusion and Recommendations
4. Revision of Project Design Matrix (PDM)
5. Revision of Plan of Operation (PO)

ANNEXES

1. Schedule of the Evaluation Team
2. Joint Evaluation Team
3. Methodology of Evaluation
4. Evaluation Grid
 - 4-1 Achievements of the Project and Implementation Process
 - 4-2 Process of Project Implementation
 - 4-3 Evaluation by Five Criteria
5. Revised Project Design Matrix (PDM)
6. Revised Plan of Operations (PO)
7. Chart of Project Implementation Structure
8. Inputs to the Project
 - 8-1 List of Japanese Experts
 - 8-2 List of Major Equipment Provided by JICA
 - 8-3 Counterpart Training
 - 8-4 List of Ethiopian Counterparts
9. List of Abbreviations and Acronyms



1. Introduction

1-1 Preface

The Project was launched on 19 November 2003 and will be completed on 18 November 2007. With the remaining Project period of approximately one year and ten months, JICA dispatched the Team to the Federal Democratic Republic of Ethiopia from 14 to 30 January 2006 for the purpose of evaluating the achievements of the Project. The mid-term evaluation has been undertaken jointly by the Team and the members from Oromia Education Bureau (OEB), Ethiopia.

1-2 Objectives of Evaluation

Objectives of the mid-term evaluation are as follows:

- (1) to review and evaluate the inputs, activities and achievements of the Project;
- (2) to clarify the problems and issues to be addressed for the **successful implementation of the** Project for the remaining period;
- (3) to assess the rationale for the continuation of the Project based on review and evaluation;
- (4) to make recommendations for activities in the remaining period; and
- (5) to review and amend Project Design Matrix (PDM) or Records of Discussions (R/D) if necessity arises.

1-3 Schedule of the Evaluation Team

See attached ANNEX 1.

1-4 Joint Evaluation Team

See attached ANNEX 2.

1-5 Methodology of Evaluation

See attached ANNEX 3. Conclusions were drawn from the results of the study and recommendations were proposed by the Team.

2. Evaluation

2-1 Achievements of the Project

2-1-1 Outputs

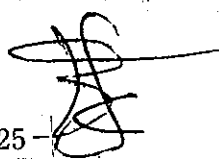
With the efforts of both Ethiopian and Japanese sides, most of the Project outputs have been successfully produced. This will contribute to the attainment of the Project Purpose.

Planning: Capacity of the WEO personnel in planning and management of basic education was strengthened through the on-the-job training.

School Construction: Due to the long spell of the rainy season and multiple assignments given to the local experts especially at woreda level, as well as longer time required for selecting sites, school construction process delayed in comparison with the original PO.

School Management: Since the ManaBU schools opened in September 2005, efforts in school management have already been made by WEOs and communities, which will be intensified.

22



ManaBU guidelines: The first draft of three guidelines was developed through the 'writeshop' held in February 2005. Validity and utility of the planning guideline have been verified, and the draft was utilized in the actual planning process in 2005. Regarding the school construction guideline, it has been verified and utilized in the construction process of 5 schools in 2005 and will be modified and further utilized in 2006. The school management guideline will be substantiated in the actual experience of school management in the remaining time of the Project period.

Other details are shown in ANNEX 4-1.

2-1-2 Project Purpose

In conclusion, it will be possible to achieve the outputs and Project purpose at the end of Project period according to the revised PO, although delays in the some activities were observed by comparison with the original PO. For details, refer to ANNEX 4-1.

2-1-3 Overall Goal

It may be too early to measure the achievement of the overall goal. However, the access to education in the selected woredas has been enhanced. Furthermore, at least one school using the ManaBU model was built with woreda initiatives and resources in one of the selected woredas. Therefore, it may be stated that the Project is in a direction toward the achievement of the Overall Goal.

2-2 Results of the Evaluation

2-2-1 Implementation Process

The Project adequately handled the unexpected incidents and challenges whenever they happened. Although the process-oriented approach of the Project is time-consuming, it is recognized as an optimum way of nurturing the sense of ownership among communities and strengthening the capacity of WEO personnel. Details of implementation process are shown in ANNEX 4-1 and 4-2.

2-2-2 Evaluation by the Five Criteria

Results of the evaluation by the five criteria are summarized below. For details refer to ANNEX 4-3.

| Criteria | Evaluation Result | Description |
|---------------|-------------------|--|
| Relevance | Very High | The Super Goal, Overall Goal, and Project Purpose are in line with the policies of Ethiopian Government. They also coincide with the Japanese ODA policies. |
| Effectiveness | High | <ul style="list-style-type: none"> • The first drafts of the guidelines of planning, construction and management were developed. • Although the ManaBU model is still in the process of being developed, it has been effective in the following aspects. |

22

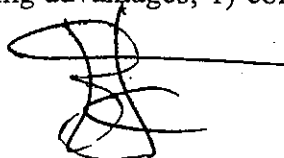
| | | |
|----------------|--------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> - strengthening the capacity of WEO personnel - encouraging community participation - building partnership between WEOs and communities - nurturing a sense of ownership of those stakeholders - showing the viability of constructing a low-cost school with allowable durability - building schools in remote areas where access to basic education has been deprived |
| Efficiency | Low | <p>The following factors lowered the efficiency of the Project.</p> <ul style="list-style-type: none"> - multiple assignments given to the local experts especially at woreda level - frequent transfer and turnover of personnel at woreda, zonal and regional levels - insufficient participation of OEB - insufficient budget allocation for per diem and fuel (at WEOs) - long spell of rainy season |
| Impact | Medium | <ul style="list-style-type: none"> • The ManaBU model was accepted by OEB in their education development plan (Regional ESDP III). This model has the great potential of accelerating the school construction not only in other woredas in Oromia region but also in other regions in Ethiopia. • The current model requires considerable involvement of WEOs and communities. The model should be carefully applied according to the diversity of the localities. |
| Sustainability | Medium | <p>At the moment sustainability is unpredictable. It should be enhanced by taking necessary measures such as official recognition of the ManaBU model, staff assignment and capacity building at WEOs, and resource allocation to WEOs. OEB has a key role in disseminating the ManaBU model and formulating further strategies for scaling up.</p> |

Note: A number of schools have been constructed by communities in Oromia region. The physical quality of most of such schools is poor. If communities alone try to construct a school whose level meets the standard of the Ministry of Education, the cost and workload which communities bear will be immense. Therefore, the ManaBU model is effective in reducing the community burden by receiving the support of WEOs.

3. Conclusion and Recommendations

- **Adoption of community approaches by OEB:** It is revealed that the Project has contributed towards OEB to newly equip themselves with community approaches to provision of quality basic education (ManaBU prototype) as an integral part of governmental delivery services. Community participation is vital in ensuring sustainable educational development.
- **Usefulness of ManaBU model of the planning, construction and management of schools:** The Project is accomplishing a school prototype with strong community support. This prototype has a great potential of enabling the rapid expansion of primary education in Oromia region. The prototype has the following advantages; 1) concrete procedures of

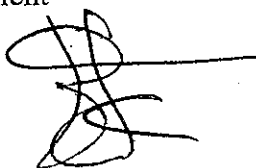
24



WEOs' facilitating community participation, and 2) the low-cost and quality school building prototype and its construction process. On the other hand, the model has the following challenges; 3) major efforts are required by WEOs, and 4) flexible adaptation of the model according to the varied conditions of communities. These challenges need to be examined and to be reduced if possible during the remaining period of the Project.

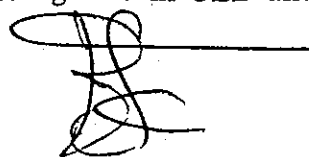
- **OEB and WEOs' ownership:** OEB and WEOs' ownership is essential in order to further develop ManaBU prototype and develop capacities of OEB and WEOs. OEB's role is critical in completing the guidelines and overseeing WEOs, while WEOs play a vital role in facilitating and supporting the communities. OEB promised to take more initiatives. Appropriate counterparts should be assigned and these officers are expected to take initiatives in their tasks. In addition, required budget for these personnel in OEB and WEOs to efficiently perform their duties, such as means of transport and per diem, should be secured. Furthermore, internal and external transfer of these counterpart personnel should be minimized so as to keep the institutional memory.
- **Focus of the Project and ManaBU guidelines:** Although the Project initially targeted ABE centres, the plan was changed to focus on formal schools where the needs were greater. Both sides confirmed that the Project had decided to prioritize formal schools. Appropriate Oromia authorities are expected to provide qualified teachers and running cost for these ManaBU schools. The ManaBU guidelines can be applied to both formal schools and ABE centres.
- **Change of counterpart personnel:** As the Project priorities have been shifted from ABE centres to formal schools, the counterpart personnel at OEB will be reassigned from the management, Departments of Planning and Research, Educational Supervision and Programme, and Education and Training Quality Assurance:
 - ✓ Project Director: Mr. Dereje Asfaw, Head of OEB
 - ✓ Project Manager: Mr. Dunkana Negussa, Deputy Head of OEB
 - ✓ Assistant Project Manager: Mr. Teshome Lemma, Head, Planning and Research Department
- ✓ Counterparts:
 - Mr. Mengistu Haile, Head, Educational Supervision and Programme Department
 - Mr. Alemayehu Etea, Head, Education and Training Quality Assurance Department
 - Mr. Tasaw Bekele, Team Leader, Planning and Project Study Panel, Planning and Research Department

2K



- Mr. Lissanu Legissa, Team Leader, EMIS Panel, Planning and Research Department
 - Mr. Teshome Seifu, Expert, ANFE, Educational Supervision and Programme Department
 - Mr. Kidane Tolcha, Expert, ANFE, Educational Supervision and Programme Department
 - Mr. Yali Merga, Engineer, Engineering Panel, Planning and Research Department
- **Main Activities for the remaining duration of the Project:** Considering the limited time available, both sides agreed that the Project would put strategic emphasis on the following issues;
 - 1) Further improvement and finalization of the guidelines, and
 - 2) Dissemination of the guidelines, which would be the preparation for scaling up.
 In order to achieve the above, following activities are needed:
 - **Planning:** All activities have been completed and follow-up might be needed.
 - **School Construction:** The Project continues assisting the construction of 13 schools to be completed by September 2006. OEB would also build two schools using ManaBU model and the lessons learnt by May 2007. The Project will provide the financial resources, and, when it is necessary, technical consultation will be provided.
 - **School Management:** School management with the community initiatives at the completed schools will be facilitated. PTA and communities will be further activated in order to maintain the quality of education.
 - **ManaBU guidelines:** The first draft will be improved and finalized using the experiences and lessons from the Project activities. The guidelines will be disseminated to other woredas in Oromia, regional and federal educational authorities, and those who might support future school construction, such as other development partners and NGOs. JICA will provide technical and financial support for the above activities within the Project budget in the remaining period.
 - **Harmonization of two projects:** Oromia would benefit greatly from the complementarity of the two interventions supported by JICA as a programme, namely ManaBU and SMAPP. Possible arrangements shall be made to maximize the effects of these two projects in the course of their implementation.
 - **Dissemination and scaling up:** The model formulated by the Project has a great potential, and further efforts are needed to disseminate the model to scale up activities. The Team recommends the following:
 - ✓ The ManaBU prototype should be officially recognized in OEB and included in the

JK



education development documents. OEB is expected to initiate activities to disseminate this model.

- ✓ OEB's woreda supportive activities need to be further promoted to strengthen WEOs in their fulfillment of staff, their capacity, means of transport for monitoring, and budget to support activities, and
- ✓ Resources (100,000 ETB per school on average from the experience of the Project) for construction should be secured by Oromia government (for OEB and WEOs).

It is recommended that OEB to initiate the above activities. It is appropriate that the further Japanese support be discussed based on the above efforts and strategies made by OEB.

- **Continued improvement of Project operation:** For the smooth implementation of the Project, both sides agreed on the following efforts to be made by the appropriate authorities in Oromia;
 - ✓ Reassignment of counterpart personnel at OEB and regular Project meeting to facilitate activities,
 - ✓ Provision of per diem for counterpart personnel at OEB and WEOs as well as woreda engineers, and
 - ✓ Provision of fuel and keeping logbooks for the motorbikes provided by the Project.

4. Revision of Project Design Matrix (PDM)


Both sides agreed to make the following major changes in PDM in order to strategically facilitate the Project activities in the remaining period;

- 1) As the Project priorities have been shifted from non-formal to formal education, "CBBEC (Community Base Basic Education Center)" was changed to "ManaBU school".
- 2) Activities related to in-service teacher training were moved to be included in PTA's school supporting activities (Activities 4.3, 4.4 and 4.5 to be included in 3.5)
- 3) Some irrelevant indicators were deleted.

Revised PDM is shown in ANNEX 5.

5. Revision of the Plan of Operation

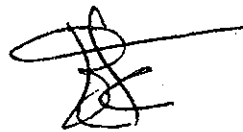
The Plan of Operation (PO) was revised in accordance with the revised PDM. The Project will be implemented along with the revised PDM and the revised PO. The revised PO is shown in ANNEX 6.



K

ANNEXES

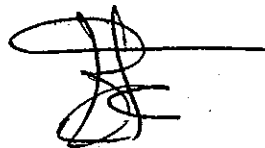
- ANNEX 1 Schedule of the Evaluation Team
- ANNEX 2 Joint Evaluation Team
- ANNEX 3 Methodology of Evaluation
- ANNEX 4 Evaluation Grid
- 4-1 Achievements of the Project and Implementation Process
- 4-2 Process of Project Implementation
- 4-3 Evaluation by the Five Criteria
- ANNEX 5 Revised Project Design Matrix (PDM)
- ANNEX 6 Revised Plan of Operation (PO)
- ANNEX 7 Chart of Project Implementation Structure
- ANNEX 8 Inputs to the Project
- 8-1 List of Japanese Experts
- 8-2 List of Major Equipment Provided by JICA
- 8-3 Counterpart Training
- 8-4 List of Ethiopian Counterparts
- ANNEX 9 List of Abbreviations and Acronyms



2

ANNEX 1: Schedule of the Evaluation Team

| | Date | Day | Activities |
|----|--------|-----|--|
| 1 | 14 Jan | Sat | Arrival in Addis Ababa (Mr. Takahashi) Meeting with ManaBU project experts and JICA Ethiopia Office |
| 2 | 15 Jan | Sun | Preparation of the evaluation survey |
| 3 | 16 Jan | Mon | Meeting with OEB and ManaBU project experts Data collection (from ManaBU project) |
| 4 | 17 Jan | Tue | Data collection (field trip to West Harerge) |
| 5 | 18 Jan | Wed | Data collection (field trip to West Harerge) |
| 6 | 19 Jan | Thu | Compilation of collected data and information, Preparation of the next field trip |
| 7 | 20 Jan | Fri | Data collection (field trip to Diksis Woreda, Arsi) |
| 8 | 21 Jan | Sat | Compilation of collected data and information Arrival in Addis Ababa (Ms. Kayashima, Dr. Yokozeki and Mr. Nobe) |
| 9 | 22 Jan | Sun | Internal meeting among mission members Meeting with ManaBU project experts |
| 10 | 23 Jan | Mon | Courtesy call to JICA Ethiopia Office Courtesy call to Embassy of Japan Courtesy call to OEB Courtesy call to MoE (Planning and Programming Department) Meeting with ManaBU team |
| 11 | 24 Jan | Tue | Field trip to Dodota Sire Woreda (visit to ManaBU school and Woreda Education Offices) Preparation of Minutes of Meeting |
| 12 | 25 Jan | Wed | Preparation of Minutes of Meeting Meeting with OEB |
| 13 | 26 Jan | Thu | JICA Internal Meeting Revision of Minutes of Meeting |
| 14 | 27 Jan | Fri | Revision of Minutes of Meeting Preparation of Joint Steering Committee (JSC) Meeting |
| 15 | 28 Jan | Sat | Preparation of JSC Meeting JSC Meeting Signing of the Minutes of Meeting Reception |



22

| | | | |
|----|--------|-----|--|
| 16 | 29 Jan | Sun | Preparation of the proceedings of JSC meeting, Evaluation Summary and Mid-term Evaluation Report |
| 17 | 30 Jan | Mon | Reporting Session to JICA Ethiopia Office Meeting with Mission on School Construction Departure from Addis Ababa (Ms. Kayashima, Mr. Nobe and Mr. Takahashi) |
| 18 | 31 Jan | Tue | Departure from Addis Ababa (Dr. Yokozeki) |

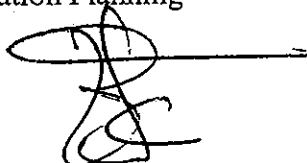
ANNEX 2: Joint Evaluation Team

Ethiopian Side:

| | |
|----------------------|---|
| Mr. Teshome Lemma | Head of Planning and Research Department, OEB |
| Mr. Lissanu Legissa | Head of EMIS Panel, OEB |
| Mr. Tarekegne Ararso | Local Consultant in PCM |
| Dr. Derebssa Dufera | Local Consultant in Education Analysis |

Japanese Side:

| | |
|----------------------|----------------------|
| Ms. Nobuko Kayashima | Leader |
| Dr. Yumiko Yokozeki | Education Planning |
| Mr. Takashi Nobe | School Management |
| Mr. Satoru Takahashi | Evaluation Analysis |
| Ms. Yumi Tokuda | Cooperation Planning |



ANNEX 3: Methodology of Evaluation

Major items to be evaluated were the following aspects based on initial PDM, Plan of Operations (hereinafter referred as "PO"):

- 1) Achievements of the Project based on the PDM indicators
- 2) Implementation process
- 3) Conceptual contents in the five DAC's evaluation criteria

Relevance

Relevance of the project plan was reviewed in terms of the validity of the project purpose and the overall goal in connection with the development policy of the Government of Ethiopia, aid policy of the Government of Japan, needs of beneficiaries, and by logical consistency of the project plan.

Effectiveness

Effectiveness was assessed by evaluating the extent to which the Project had achieved its purpose and by clarifying the relationship between the purpose and outputs.

Efficiency

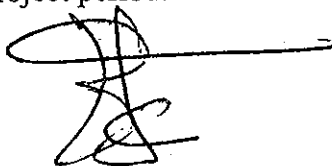
Efficiency of the project implementation was analyzed with emphasis on the relationship between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity of inputs.

Impact

Impact of the Project was assessed on the basis of both positive and negative influences caused by the Project.

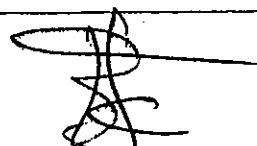
Sustainability

Sustainability of the Project was assessed in terms of political, institutional, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievements of the Project would be sustained or expanded after the Project period.



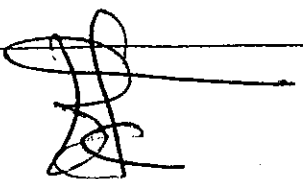
ANNEX 4-1 : Achievements of the Project and Implementation Process

| Evaluation Items | Necessary Information and Data (Indicators) | Findings of the Study | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|-------------|-------------------|---------|-------------------------|--|-------------------------|--|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------|------|-------|-------|-------|-----|-----|--------------|------|------|------|-------|-----|-----|------------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|------|------|-------|-----|-----|--------|------|------|------|------|-----|-----|--------------|------|------|------|------|-----|-----|----------|------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|------|------|------|-------|-----|-----|-----------|------|------|------|-------|-----|-----|-----------|------|------|------|-------|-----|-----|---------|------|------|------|-------|-----|-----|---------|------|------|-------|-------|-----|-----|-------------|------|------|------|-------|-----|-----|------|------|------|------|-------|-----|-----|--------|------|------|------|-------|-------|-------|
| Achievement of Super Goal | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1. The school-aged population of Oromia region has better access to basic education.</p> <p>2. The ManaBU model is applied in other woredas in Oromia region.</p> | <p>1. GER and NER of primary education in Oromia region</p> <p>2-1. Number of existing schools that apply the ManaBU model</p> <p>2-2. Number of newly built schools that apply the ManaBU model</p> | <p style="text-align: center;">1. GER of primary education in Oromia region (NER: n/a)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Region/Zone</th> <th colspan="2">Grade 1-8 GER (%)</th> <th colspan="2">Grade 1-4 GER (%)</th> <th colspan="2">Number of Schools (1-8)</th> </tr> <tr> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Arsi</td> <td>86.3</td> <td>104.0</td> <td>113.0</td> <td>127.0</td> <td>534</td> <td>702</td> </tr> <tr> <td>West Harerge</td> <td>54.7</td> <td>80.7</td> <td>77.0</td> <td>116.9</td> <td>293</td> <td>374</td> </tr> <tr> <td>North Shoa</td> <td>49.5</td> <td>65.0</td> <td>65.0</td> <td>83.9</td> <td>267</td> <td>340</td> </tr> <tr> <td>Bale</td> <td>68.5</td> <td>81.2</td> <td>93.0</td> <td>106.6</td> <td>466</td> <td>527</td> </tr> <tr> <td>Borena</td> <td>46.6</td> <td>55.7</td> <td>65.0</td> <td>75.8</td> <td>166</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td>East Harerge</td> <td>56.1</td> <td>71.2</td> <td>79.0</td> <td>99.9</td> <td>473</td> <td>577</td> </tr> <tr> <td>Ilubador</td> <td>86.2</td> <td>106.7</td> <td>111.0</td> <td>136.9</td> <td>381</td> <td>432</td> </tr> <tr> <td>Jimma</td> <td>58.7</td> <td>81.6</td> <td>82.0</td> <td>113.3</td> <td>419</td> <td>593</td> </tr> <tr> <td>East Shoa</td> <td>69.1</td> <td>88.6</td> <td>87.0</td> <td>108.6</td> <td>347</td> <td>586</td> </tr> <tr> <td>West Shoa</td> <td>64.7</td> <td>83.7</td> <td>85.0</td> <td>107.9</td> <td>307</td> <td>426</td> </tr> <tr> <td>W. East</td> <td>73.2</td> <td>87.5</td> <td>89.0</td> <td>109.3</td> <td>369</td> <td>509</td> </tr> <tr> <td>W. West</td> <td>80.8</td> <td>99.1</td> <td>100.0</td> <td>124.3</td> <td>503</td> <td>648</td> </tr> <tr> <td>Sh. S. West</td> <td>58.5</td> <td>87.4</td> <td>78.0</td> <td>118.2</td> <td>191</td> <td>276</td> </tr> <tr> <td>Guji</td> <td>61.0</td> <td>82.6</td> <td>86.0</td> <td>115.3</td> <td>193</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td>Oromia</td> <td>66.7</td> <td>85.4</td> <td>88.0</td> <td>111.4</td> <td>4,909</td> <td>6,466</td> </tr> </tbody> </table> <p>The number of school is on the increase and parents have recognized the importance of sending their children to school. The access to education has been enhanced, but there is still room for the improvement of access.</p> <p>2-1. At the time of the mid-term evaluation, no report has been made that existing schools in other woredas applied the ManaBU model to the expansion of classrooms or replacement of old buildings. It is premature to judge the situation.</p> <p>2-2. At the time of the mid-term evaluation, no report has been made that other woredas applied the ManaBU model to the construction of new schools. It is premature to judge the situation</p> | Region/Zone | Grade 1-8 GER (%) | | Grade 1-4 GER (%) | | Number of Schools (1-8) | | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | Arsi | 86.3 | 104.0 | 113.0 | 127.0 | 534 | 702 | West Harerge | 54.7 | 80.7 | 77.0 | 116.9 | 293 | 374 | North Shoa | 49.5 | 65.0 | 65.0 | 83.9 | 267 | 340 | Bale | 68.5 | 81.2 | 93.0 | 106.6 | 466 | 527 | Borena | 46.6 | 55.7 | 65.0 | 75.8 | 166 | 203 | East Harerge | 56.1 | 71.2 | 79.0 | 99.9 | 473 | 577 | Ilubador | 86.2 | 106.7 | 111.0 | 136.9 | 381 | 432 | Jimma | 58.7 | 81.6 | 82.0 | 113.3 | 419 | 593 | East Shoa | 69.1 | 88.6 | 87.0 | 108.6 | 347 | 586 | West Shoa | 64.7 | 83.7 | 85.0 | 107.9 | 307 | 426 | W. East | 73.2 | 87.5 | 89.0 | 109.3 | 369 | 509 | W. West | 80.8 | 99.1 | 100.0 | 124.3 | 503 | 648 | Sh. S. West | 58.5 | 87.4 | 78.0 | 118.2 | 191 | 276 | Guji | 61.0 | 82.6 | 86.0 | 115.3 | 193 | 273 | Oromia | 66.7 | 85.4 | 88.0 | 111.4 | 4,909 | 6,466 |
| Region/Zone | Grade 1-8 GER (%) | | | Grade 1-4 GER (%) | | Number of Schools (1-8) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Arsi | 86.3 | 104.0 | 113.0 | 127.0 | 534 | 702 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West Harerge | 54.7 | 80.7 | 77.0 | 116.9 | 293 | 374 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| North Shoa | 49.5 | 65.0 | 65.0 | 83.9 | 267 | 340 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Bale | 68.5 | 81.2 | 93.0 | 106.6 | 466 | 527 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Borena | 46.6 | 55.7 | 65.0 | 75.8 | 166 | 203 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| East Harerge | 56.1 | 71.2 | 79.0 | 99.9 | 473 | 577 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Ilubador | 86.2 | 106.7 | 111.0 | 136.9 | 381 | 432 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Jimma | 58.7 | 81.6 | 82.0 | 113.3 | 419 | 593 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| East Shoa | 69.1 | 88.6 | 87.0 | 108.6 | 347 | 586 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West Shoa | 64.7 | 83.7 | 85.0 | 107.9 | 307 | 426 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| W. East | 73.2 | 87.5 | 89.0 | 109.3 | 369 | 509 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| W. West | 80.8 | 99.1 | 100.0 | 124.3 | 503 | 648 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Sh. S. West | 58.5 | 87.4 | 78.0 | 118.2 | 191 | 276 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Guji | 61.0 | 82.6 | 86.0 | 115.3 | 193 | 273 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Oromia | 66.7 | 85.4 | 88.0 | 111.4 | 4,909 | 6,466 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Achievement of Overall Goal | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



2

| <p>1. The school-aged population in the selected woredas has better access to quality basic education.</p> <p>2. The ManaBU model is applied in the selected woredas.</p> | <p>1. GER and NER of primary education in the selected woreda</p> <p>2-1. Number of existing schools that apply the ManaBU model</p> <p>2-2. Number of newly built schools that apply the ManaBU model</p> | <p>2. GER of primary education in the selected woredas (NER and Grade1-4 GER: n/a)</p> <table border="1" data-bbox="183 470 486 1344"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Zone</th> <th rowspan="2">Woreda</th> <th colspan="3">Grade 1-8 GER (%)</th> <th colspan="2">Number of Schools</th> </tr> <tr> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">Arsi</td> <td>Dofofa Sire</td> <td>84.8</td> <td>101.4</td> <td>25</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>Diksis</td> <td>59.1</td> <td>78.7</td> <td>11</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>Chiro</td> <td>42.7</td> <td>70.9</td> <td>51</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">West</td> <td>Kunni</td> <td>56.5</td> <td>77.5</td> <td>23</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>Degem</td> <td>51.4</td> <td>55.4</td> <td>16</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>Shoa</td> <td>Wuchale Jida</td> <td>42.0</td> <td>54.7</td> <td>27</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>The number of school is on the increase and parents have recognized the importance of sending their children to school. The access to education has been enhanced, but there is still room for the improvement of access.</p> <p>2-1. At the time of the mid-term evaluation, no report has been made that existing schools applied the ManaBU model to the expansion of classrooms or replacement of old buildings. It is premature to judge the situation.</p> <p>2-2. It is premature to judge the situation, but at least one school was built in Kunni woreda based on the ManaBU model. The increasing number of schools is expected to be constructed by applying the ManaBU model in the years to come.</p> | Zone | Woreda | Grade 1-8 GER (%) | | | Number of Schools | | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | Arsi | Dofofa Sire | 84.8 | 101.4 | 25 | 31 | Diksis | 59.1 | 78.7 | 11 | 15 | Chiro | 42.7 | 70.9 | 51 | 66 | West | Kunni | 56.5 | 77.5 | 23 | 25 | Degem | 51.4 | 55.4 | 16 | 20 | Shoa | Wuchale Jida | 42.0 | 54.7 | 27 | 30 |
|---|--|---|---------|---------|-------------------|--|--|-------------------|--|---------|---------|---------|---------|------|-------------|------|-------|----|----|--------|------|------|----|----|-------|------|------|----|----|------|-------|------|------|----|----|-------|------|------|----|----|------|--------------|------|------|----|----|
| Zone | Woreda | Grade 1-8 GER (%) | | | Number of Schools | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Arsi | Dofofa Sire | 84.8 | 101.4 | 25 | 31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Diksis | 59.1 | 78.7 | 11 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Chiro | 42.7 | 70.9 | 51 | 66 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West | Kunni | 56.5 | 77.5 | 23 | 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Degem | 51.4 | 55.4 | 16 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Shoa | Wuchale Jida | 42.0 | 54.7 | 27 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>Achievement of Project Purpose</p> <p>The ManaBU model is developed in the selected woredas.</p> | <p>1. Validity and relevance of the developed model</p> <p>2. Number of requests for guidelines in the selected woredas</p> <p>3. Number of visitors to the ManaBU schools</p> | <p>1. The ManaBU model is being developed and tested by responding to the financial, technical, managerial, administrative social and geographical challenges as follows.</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ The Project shows that one four-classroom school with concrete foundation and mud wall can be built with slightly less than 100,000 ETB in cash from WEO and community's contribution (provision of cash, locally available materials and unskilled labor) equivalent to 60,000 ETB. If not for community participation, there needs to be 200,000 ETB in cash to build this type of school building. The ManaBU model can halve the WEO's cost of school construction and has the great potential of accelerating the school construction not only in the selected woredas but also in other woredas in Oromia region. This means that 200,000 ETB (with which one school has been able to be built so far) will cover the construction cost of two schools if there is community participation for each school. ➤ National ESDP III mentions that the average cost of constructing a first cycle primary school is over 500, 000 ETB, and each region is encouraged to develop alternative low-cost models, which will consider basic school design parameters. The ManaBU model has somehow given an answer to this question. ➤ On the other hand, it should be kept in mind that the ManaBU model requires considerable involvement of WEOs and community participation. Also, the model needs to be flexibly applied according to the diversity of the localities. ➤ The school construction requires 1) the initiative of WEO, 2) the active involvement of the community, and 3) the partnership between WEO and the community. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| <p>➤ The community people became more united after school construction.</p> <p>➤ The WEOs got experiences of school construction with community participation. They had no experience of this type of participatory approach before the Project started.</p> <p>➤ It was the first time for almost all the children to attend school in the selected woredas. If not for the ManaBU schools, they would have had no access to basic education.</p> <p>➤ Some difficulties were experienced such as building classrooms on black cotton soil. If the construction is successfully done in Kecha Koshimo in Diksis woreda, this would be a good example for similar kebeles whose land is solely covered by black cotton soil.</p> <p>➤ While WEO in Kunni in West Hargeze zone received assistance from the ManaBU Project for the construction of Laga Laft School, they concurrently applied its model to the construction of another school whose name is Oda-Tuta. Oda-Tuta School was constructed with the block grant of 160,000 ETB and community contribution of cash (12,000 ETB), materials and unskilled labor. The construction of Oda-Tuta School has not been completed but it opened in September 2005.</p> | <p>2. Some kebeles, which are near or next to the kebeles where the ManaBU school was built, have witnessed the ManaBU Project' approach and made a request to WEO for school construction.</p> <p>3. Although individuals showed interest, most of the ManaBU schools are located in remote area and not easily accessible from arterial road. There is no point in counting the number of visitors so that this indicator will be deleted.</p> | <p>➤ The community people became more united after school construction.</p> <p>➤ The WEOs got experiences of school construction with community participation. They had no experience of this type of participatory approach before the Project started.</p> <p>➤ It was the first time for almost all the children to attend school in the selected woredas. If not for the ManaBU schools, they would have had no access to basic education.</p> <p>➤ Some difficulties were experienced such as building classrooms on black cotton soil. If the construction is successfully done in Kecha Koshimo in Diksis woreda, this would be a good example for similar kebeles whose land is solely covered by black cotton soil.</p> <p>➤ While WEO in Kunni in West Hargeze zone received assistance from the ManaBU Project for the construction of Laga Laft School, they concurrently applied its model to the construction of another school whose name is Oda-Tuta. Oda-Tuta School was constructed with the block grant of 160,000 ETB and community contribution of cash (12,000 ETB), materials and unskilled labor. The construction of Oda-Tuta School has not been completed but it opened in September 2005.</p> | <p>2. Some kebeles, which are near or next to the kebeles where the ManaBU school was built, have witnessed the ManaBU Project' approach and made a request to WEO for school construction.</p> <p>3. Although individuals showed interest, most of the ManaBU schools are located in remote area and not easily accessible from arterial road. There is no point in counting the number of visitors so that this indicator will be deleted.</p> | <p>➤ The community people became more united after school construction.</p> <p>➤ The WEOs got experiences of school construction with community participation. They had no experience of this type of participatory approach before the Project started.</p> <p>➤ It was the first time for almost all the children to attend school in the selected woredas. If not for the ManaBU schools, they would have had no access to basic education.</p> <p>➤ Some difficulties were experienced such as building classrooms on black cotton soil. If the construction is successfully done in Kecha Koshimo in Diksis woreda, this would be a good example for similar kebeles whose land is solely covered by black cotton soil.</p> <p>➤ While WEO in Kunni in West Hargeze zone received assistance from the ManaBU Project for the construction of Laga Laft School, they concurrently applied its model to the construction of another school whose name is Oda-Tuta. Oda-Tuta School was constructed with the block grant of 160,000 ETB and community contribution of cash (12,000 ETB), materials and unskilled labor. The construction of Oda-Tuta School has not been completed but it opened in September 2005.</p> |
| <p>Achievement of Outputs</p> <p>1. Capacity of the WEO personnel in planning and management of basic education is strengthened.</p> | <p>1. Number of personnel in planning and management of basic education</p> <p>2. Validity and utility of the ManaBU school planning guidelines</p> <p>3. Validity and utility of rapid school mapping</p> <p>4. Validity and appropriateness of the plan elaborated by each woreda</p> <p>5. Frequency and appropriateness of the method of monitoring and evaluation (including the research on the community)</p> | <p>1. OEB has a key role to play in disseminating the above-mentioned ManaBU model and distributing the guidelines of planning, construction and management. In OEB there are ten counterpart personnel including Head of OEB. The list of them is shown in Annex 1, and its current organization chart is in Annex 2. The list of counterparts in each zone is also shown in Annex 1. The list of counterparts in each woreda is shown in Annex 3. The capacity and commitment vary from counterpart to counterpart. However, the WEO personnel, who have worked closely and willingly with JICA experts, surely internalized this process-oriented approach and are expected to apply it to further planning and management of basic education in the rest of the Project period.</p> <p>On the other hand, the internal transfer and turnover of the counterpart personnel in OEB, ZEO and WEO has caused some negative impact on the accumulation of the experiences and timely implementation of the Project activities.</p> <p>2. The writeshop was held in February 2005 and OEB, ZEO and WEO personnel participated to discuss the concept and content of the guidelines. The draft of the planning guideline was completed. Its validity and utility have been verified and will be fully utilized in 2006.</p> <p>3. The rapid school mapping done in 2004 was valid and useful in that it collected the detailed data on population distribution and geographical and social features in kebeles in the selected woredas.</p> <p>4. The capacity of WEO personnel was strengthened through the on-the-job training on the ground. They took the initiative in planning, constructing and managing the ManaBU schools in collaboration with the community. The</p> | <p>1. OEB has a key role to play in disseminating the above-mentioned ManaBU model and distributing the guidelines of planning, construction and management. In OEB there are ten counterpart personnel including Head of OEB. The list of them is shown in Annex 1, and its current organization chart is in Annex 2. The list of counterparts in each zone is also shown in Annex 1. The list of counterparts in each woreda is shown in Annex 3. The capacity and commitment vary from counterpart to counterpart. However, the WEO personnel, who have worked closely and willingly with JICA experts, surely internalized this process-oriented approach and are expected to apply it to further planning and management of basic education in the rest of the Project period.</p> <p>On the other hand, the internal transfer and turnover of the counterpart personnel in OEB, ZEO and WEO has caused some negative impact on the accumulation of the experiences and timely implementation of the Project activities.</p> <p>2. The writeshop was held in February 2005 and OEB, ZEO and WEO personnel participated to discuss the concept and content of the guidelines. The draft of the planning guideline was completed. Its validity and utility have been verified and will be fully utilized in 2006.</p> <p>3. The rapid school mapping done in 2004 was valid and useful in that it collected the detailed data on population distribution and geographical and social features in kebeles in the selected woredas.</p> <p>4. The capacity of WEO personnel was strengthened through the on-the-job training on the ground. They took the initiative in planning, constructing and managing the ManaBU schools in collaboration with the community. The</p> | <p>1. OEB has a key role to play in disseminating the above-mentioned ManaBU model and distributing the guidelines of planning, construction and management. In OEB there are ten counterpart personnel including Head of OEB. The list of them is shown in Annex 1, and its current organization chart is in Annex 2. The list of counterparts in each zone is also shown in Annex 1. The list of counterparts in each woreda is shown in Annex 3. The capacity and commitment vary from counterpart to counterpart. However, the WEO personnel, who have worked closely and willingly with JICA experts, surely internalized this process-oriented approach and are expected to apply it to further planning and management of basic education in the rest of the Project period.</p> <p>On the other hand, the internal transfer and turnover of the counterpart personnel in OEB, ZEO and WEO has caused some negative impact on the accumulation of the experiences and timely implementation of the Project activities.</p> <p>2. The writeshop was held in February 2005 and OEB, ZEO and WEO personnel participated to discuss the concept and content of the guidelines. The draft of the planning guideline was completed. Its validity and utility have been verified and will be fully utilized in 2006.</p> <p>3. The rapid school mapping done in 2004 was valid and useful in that it collected the detailed data on population distribution and geographical and social features in kebeles in the selected woredas.</p> <p>4. The capacity of WEO personnel was strengthened through the on-the-job training on the ground. They took the initiative in planning, constructing and managing the ManaBU schools in collaboration with the community. The</p> |

2

activity of making an education plan in each woreda will be taken over by SMAPP, so this indicator will be erased.

5. Monitoring and evaluation has been conducted properly on a monthly basis by the WEOs, sometimes with OEB experts. This is a part of day-to-day management activities of OEB and JICA experts and can be considered as capacity building.

1. The writeshop was held in February 2005 and OEB, ZEO and WEO personnel participated to discuss the concept and content of the guidelines. The draft of the construction guideline was developed by incorporating many lessons learnt in the real construction. Its validity and utility have been almost verified, but some findings needs to be added in it. The draft will be fully utilized in 2006.

2. In the kebeles where a school was decided to be built, the Construction Management Committee (CMC) was formed by the community people. Basically all the households in the kebele supported the ManaBU school construction, and they were actively involved in the construction. They prepared and leveled the land, collected local materials and engaged themselves in excavation and earth work, masonry work, concrete work, wall work, roofing, carpentry and joinery, plastering and painting, paving and doing the floor and painting. It became clear that local materials are not always available. For instance, one kebele had to purchase certain types of materials from other kebeles. The locally available materials vary from kebele to kebele. Also, some types of work require higher skills while others do not. The types of work also vary from kebele to kebele. This means that there needs clear demarcation of the division of labor between community people and private construction workers at the designing stage of construction. In sum, the ManaBU model needs to be flexibly applied according to the diversity of the localities.

Communities contributed in various ways. In Wachu Waltane kebele in Chiro woreda, people raised 12,300 ETB in cash, collected local materials, and provided unskilled labor. In Chiro Kala kebele in Chiro woreda, people raised at least 4,300 ETB in cash, collected local materials equivalent to at least 3,055 ETB, and provided unskilled labor equivalent to 30,510 ETB (3,051 Man/Day x 10 ETB as labor cost). On the other hand, the ManaBU project assisted WEOs and communities in the purchase of industrial materials and payment of transportation and skilled labor. Thus, the community contribution, with the assistance of the Project (equivalent to slightly less than 100,000 ETB), resulted in the completion of school construction.

3. Through this process, it is found that the more community people are united for constructing a school, the shorter the time of site selection and school construction. Needless to say, the leadership of the kebele chairman is indispensable. The progress of school construction is shown in the table on the next page. The temporarily planned number of schools in the first construction year (2005) was eight, but the achieved number was five. The reason of this gap is mentioned in "Important Assumptions" in this evaluation grid. The achievement and plan of construction is shown in Appendix 1.

1. Validity and utility of the ManaBU school construction guidelines

2. Degree of community participation for the ManaBU school construction

- Number of participants
- Rate of participated households
- Type and time of labor provided by communities
- Type and amount of materials prepared by communities
- Rate and amount of funded provided by the community, etc.

3. Number and physical condition of the established ManaBU schools

4. Quality and quantity of furniture

5. Quality and quantity of textbooks and teaching materials (ex. student textbook ratio)

2. The ManaBU schools are constructed and furnished in the selected woredas.

2

| Zone | Woreda | Expected No. of schools | Progress of School Construction | | | |
|-------------|--------------|-------------------------|---------------------------------|-----------------------|---------------|---------------------------------|
| | | | School Opened | Started but suspended | Site selected | Not started Kebele not selected |
| Arsi | Dodota Sire | 4 | 1 | 0 | 3 | |
| | Diksis | 2 | 1 | 1 | 0 | |
| West Harege | Chiro | 4 | 2 | 0 | 2 | |
| | Kunni | 4 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| North | Degem | 3 | 0 | 0 | 2 | |
| Shoa | Wuchale Jida | 3 | 0 | 0 | 2 | |
| Total | 6 | 20 | 5 | 1 | 12 | 2 |

The following five ManaBU schools opened in September 2005. The construction of ①, ② and ③ is completed while ④ and ⑤ are still under way. The physical condition of those schools is good in general, but the quality varies from school to school. It is due to the quality of the materials collected by the communities and also the technical level of construction workers and woreda construction engineers. This will lead to comment on the importance of how the communities are guided to collect quality local materials and how technically efficient local contractors and capable local engineers are assigned for quality accomplishment of such construction.

- ① Koloba Hawas (325 students in Magacha, Dodota Sire, Arsi)
- ② Ifa Biyo (430 students in Wachu Waltane, Chiro, West Harege)
- ③ Walta'a Jelala (420 students in Chiro Kala, Chiro, West Harege)
- ④ Laga Lafto (416 students in Laga Lafto, Kunni, West Harege)
- ⑤ Bamo (425 students in Tana Bamo, Diksis, Arsi)

All the WEO personnel and community people in the woredas where a school was constructed well understood the appropriateness and cost-effectiveness of the ManaBU model, that is, a school with durability and reasonable cost.

JICA expert team purchased school furniture from the regional government production unit. The quality is good and the quantity is sufficient. Much appreciation was expressed by WEOs and communities. The quantity of each item per school is shown in Appendix 2.

The JICA team provided the textbooks. The student textbook ratio is 1:1. In other words, each student has one textbook per subject. Much appreciation was expressed by WEOs and communities. The quantity per school is also shown in Appendix 2.

1. The workshop was held in February 2005 and OEB, ZEO and WEO personnel participated to discuss the concept and content of the guidelines. The draft of the management guideline is ready and being revised. Since the opening of the ManaBU schools was September 2005, it may need more time and experience to elaborate the guideline. The draft is will be thoroughly reviewed in August 2006.

3. The ManaBU schools are managed and maintained in partnership between the
 1. Validity and utility of the ManaBU school management guidelines
 2. Number of trainings held and

2

| | | |
|--|---|--|
| WEO and communities. | <p>3. Structure of participants from communities of functionality of Center Management Committee</p> <p>4. Validity and appropriateness of ManaBU school's programs</p> <p>5. Balance of income and expenditure of the ManaBU schools</p> <p>6. Physical condition of the ManaBU Schools</p> <p>7. Frequency and appropriateness of the method of monitoring and evaluation</p> | <p>2. The training on management was conducted in the process of school construction. The community people learned how to keep accounts, how to register incoming students, how to raise the fund, etc. Yet, there is a lot of room for improvement in management. For example, a school has four classrooms, which are almost fully occupied with first graders. It is evident that in this coming September the classrooms will be flooded with new students and second graders who are now in Grade 1. This applies to all five ManaBU schools that opened in 2005, but no school has clear vision on how to accept ever-increasing number of students.</p> <p>3. The Parent-Teacher Association (PTA) which replaced the left-mentioned Center Management Committee was formed in accordance with federal education guidelines. The meeting concerning school management is held once a month or every two months.</p> <p>4. The five schools which opened in 2005 were all registered as formal ones, so that they will provide four-year programs in conformity to the federal education curriculum. By being formal, a school can receive teachers assigned and paid by the government. In case the number of government teachers is insufficient, the community hires additional teachers (facilitators) using their own funds.</p> <p>5. Upon the community's decision, a PTA usually collects five to ten ETB yearly per household. The amount depends on the number of both students and households in a kebele. The fund collected is paid for the salary of teachers (facilitators) and guards, maintenance of the facilities, etc. The range of the annual expenditure per school would be 4,500-6,500 ETB.</p> <p>6. The physical condition of the ManaBU schools is good in general, but some classrooms were littered. It is recommended that the school should be kept clean.</p> <p>7. Some WEO personnel regularly visit schools for supervision while others do not. It is encouraged that WEOs will get more actively involved in school management and play an advisory role in it. WEOs are expected to assure the appropriate budget for monitoring (at least for the fuel) and fully utilize the motorcycle donated by JICA. OEB has to monitor the effective use of donated motorcycles at least quarterly.</p> |
| <p>4. The trained teaching staff provides quality basic education to the enrolled students in the ManaBU schools</p> | <p>1. Number of assigned teaching staff</p> <p>2. Validity and content of training provided</p> <p>3. Number of trained teaching staff</p> <p>4. Frequency and appropriateness of in-service training for teaching staff at each ManaBU school</p> <p>5. Teacher's motivation and</p> | <p>1. The number of teaching staff assigned to the schools is as below.</p> <p>① Koloba Hawas: 4 teachers (all government teachers)</p> <p>② Ifa Biyo: 4 teachers (2 government and 2 community-hired teachers)</p> <p>③ Walta Jelala: 9 teachers (7 government and 2 community-hired teachers)</p> <p>④ Laga Lafto: 4 teachers (all government teachers)</p> <p>⑤ Bamo: 5 teachers (all government teachers)</p> <p>2. Teachers were satisfied with the induction training. One teacher said that he wanted more time for training so that he could have deepened his understanding and discussion with other teachers.</p> <p>3. The training of trainers for WEO personnel was conducted in October 2005. Then the induction trainings for teachers were conducted in November and December 2005. The detailed information is shown in Appendix 3.</p> <p>4. There is no regular in-service teacher training, but teachers from the ManaBU school and other schools monthly gather</p> |

2

| | | |
|--|--|--|
| | <p>commitment</p> <ol style="list-style-type: none"> Student attitude, satisfaction, academic performance, dropout rate, etc. Number and type of good examples of in-service training Validity and appropriateness of the regular and systematic in-service training plan | <p>at a cluster resource center, which is a primary school, and plays a leading role for other schools in a certain area. This gathering functions somehow as in-service training. Given the time left in the project period, this indicator and corresponding activity will be excluded.</p> <ol style="list-style-type: none"> Some of the teachers who were assigned to the ManaBU schools have no teaching experience. Although the schools are new, teachers are motivated and committed to teaching students who would have had no access to basic education if there was no school in their kebele. As teachers are committed to teaching, students are committed to learning. Only a few dropouts have been reported so far. If a student is absent for a week, a teacher does a home visit to take care of them. Except induction training, there is no training organized by the ManaBU Project. Given the remaining time in the project period, this indicator will be deleted. Except induction training, there is no training organized by the ManaBU project. Given the remaining time in the project period, this indicator will be deleted as well. |
| <p>Important Assumptions</p> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> WEO personnel in the selected woredas continue to work at WEOs. Communities at the sites of the ManaBU schools are actively involved in the process of construction and management. Teaching staff assigned to the ManaBU schools continues to teach in the same school. Ethiopia and Oromia region will not face the major climate changes or natural disaster, or fall into any conflict. Land for school construction is duly | <ol style="list-style-type: none"> Number of WEO personnel who continue working at WEOs Degree of community participation in construction and management Number of teaching staff who continue teaching in the same ManaBU school Records of weather report and business diary Record of the activities in site selection and school construction OEB's development plan Educational statistics in the selected woredas Educational statistics in Oromia region National Development Plan or Education Sector Development | <ol style="list-style-type: none"> Few officials stay in the same team, section or department in WEOs. There is incessant transfer and turnover of the staff not only in WEOs but also ZEO and OEB. The transfer of expertise is outpaced by the transfer of personnel. This has had negative consequences on timely implementation of the Project activities. It is found that the more community people are united for constructing a school, the shorter the time of site selection and school construction. This community people's attitude heavily depends on the leadership of the local authorities (ZEOs, WEOs, etc.) The newly assigned teachers are working hard. No teacher has left their schools so far. The long spell of the rainy weather delayed the progress of the Project activities. In addition, the electoral campaign in the spring of 2005 made the WEO personnel busy not to support the Project activities. The land for school construction has been duly provided by communities, but there was the case that the expansion plan of sugarcane plantation suspended the site selection in Awash Bishora in Dodota Sire woreda in Arsi zone. There has no change that OEB, ZEO and WEO place importance on capacity building of WEO personnel. The number of government schools and the ManaBU schools are steadily increasing in the selected woredas, although the quality or durability of buildings is not precisely grasped. Sometimes even a meeting hall which is used for teaching students is counted as one government school. The number of government schools and the ManaBU schools are steadily increasing in Oromia region, although the quality or durability of buildings is not precisely grasped. Sometimes even a kebele meeting hall which is used for teaching students is counted as one government school. The government of Ethiopia has not changed the policy that places importance on non-formal basic education. <p>Furthermore, Dodota Sire woreda in Arsi zone has split into two woredas. The same applies to Chiro woreda in West</p> |

2

| | | |
|---|---|---|
| <p>provided by communities.</p> <p>6. OEB, ZEO and WEO will not change any policy that places importance on capacity building of WEO personnel.</p> <p>7. A large number of government schools and the ManaBU schools are not closed in the selected woredas.</p> <p>8. A large number of government schools and the ManaBU schools are not closed in Oromia region.</p> <p>9. The government of Ethiopia will not change the policy that places importance on non-formal basic education</p> | <p>Program (ESDP)</p> | <p>Harge zone and Wuchale Jida woreda in North Shoa zone. The number of selected woredas has been increased from six to nine, and the WEO personnel will be dispersed. The ManaBU schools are planned to be built in all the nine woredas. This will pose a new challenge for the Project.</p> |
| <p>Results of Inputs</p> <p>Inputs by the Ethiopian side</p> | <p>1. Assignment of personnel</p> <ul style="list-style-type: none"> - Project Director - Project Manager - Counterpart personnel <p>2. Space and facilities</p> <p>3. Budget Allocation</p> | <p>1. The assignment of counterpart personnel is as below.</p> <ul style="list-style-type: none"> ① Dereje Asfaw (Head of OEB): Project Director ② Vacant: Project Manager ③ Counterpart personnel <ul style="list-style-type: none"> - Lissanu Legissa (Expert, Planning and Research Dept.) - Tasaw Bekele (Expert, Planning and Research Dept.) - Yaji Merga (Engineer, Planning and Research Dept.) - Alemayehu Etea (Head, Training Dept.) - Mengitsu Haile (Head, Education Supervision and Program Dept.) |

2

| | | |
|------------------------------------|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> - Teshome Seifu (Team Leader, Education Supervision and Program Dept.) - Nuria Ibrahim (Expert (on study leave), Education Supervision and Program Dept.) - Kidane Tolcha (Expert, Education Supervision and Program Dept.) <p>2. All the utility charges are paid by OEB, but due to the shortage of space and facilities, one meeting building was built in the compound of OEB by JICA.</p> <p>3. Budget allocation has been duly done. OEB has shown the deepest understanding of the policy that JICA will not pay the per diem to OEB counterparts when they go on a field trip.</p> |
| <p>Inputs by the Japanese side</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of long-term experts <ul style="list-style-type: none"> - Chief Advisor/Participatory Development - Project Coordinator/School Management 2. Dispatch of short-term experts 3. Provision of equipment and materials 4. Counterpart training in Japan | <ol style="list-style-type: none"> 1. Three long-term experts have been dispatched so far. <ol style="list-style-type: none"> ① Akino Kitazume: Chief Adviser/ Participatory Development (Mar. 30, 2003 - Nov. 18, 2006) ② Naoko Yamaguchi: School Management/Project Coordinator (Jan. 18, 2004 - Jan. 17, 2006) ③ Nobuhiro Kunieda: Community-based School Construction (Jun. 22, 2004 - Aug. 21, 2006) 2. One short-term expert has been dispatched so far. <ol style="list-style-type: none"> ① Nobuhiro Kunieda: Community-based School Construction (Jan. 18, 2004 - Mar. 7, 2004) 3. As means of transportation, two station wagons, two pickups, and six motorcycles were provided. Office equipment and computer software were also purchased. In addition, JICA experts bought some industrial materials for school construction as well as furniture and textbooks. 4. In the Japanese fiscal year (FY) of 2003 (Apr. 2003-Mar.2004), three OEB officials received training in Japan. Two of them left OEB after returning to Ethiopia. In FY 2004, two OEB officials and three ZEO officials (one from each zone) received training in Japan. One ZEO official in Arsi zone was shifted from ANFE to Media Department. One ZEO official was shifted from Education Division to Capacity Building Division, and he returned to Education Division after one year has passed. In FY 2005, three OEB officials will receive training in Japan. All of them are expected to continue working closely with JICA experts in the ManaBU Project. |

2

APPENDIX 1: Achievement and Plan of School Construction

| Zone | Woreda | 2004 | | | 2005 | | | 2006 | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------------|------------------|-------------------|--------------------|--------------------|---------------|-----------------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|--|--|
| | | Jun | Jul | Aug | Sep | Oct | Nov | Dec | Jan | Feb | Mar | Apr | May | Jun | Jul | Aug | Sep | Oct | | | |
| West Harerge | Chiro | Kebele | Kebele profiling | W/S | Site selection | Started | Opened | Completed | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Wachu Etoke | Kebele profiling | W/S | Site selection | Suspended | To be opened | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Arsi | Dodota Site | Ufura Agemsa | Kebele profiling | W/S | Kebele profiling | W/S | To be started | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Gesela | Kebele profiling | W/S | Kebele profiling | W/S | To be started | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Diksis | Kecha Koshimo | Kebele profiling | W/S | Site selection | Started | Opened | To be completed | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Kebele profiling | W/S | Site selection | Started | Suspended | To be opened | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West Harerge | Chiro | Kebele | Kebele profiling | W/S | Site selection | Started | Opened | Completed | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Wachu Etoke | Kebele profiling | W/S | Site selection | Started | Opened | Completed | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Kunni | Kunni | Kebele | Kebele profiling | W/S | Site selector | To be started | To be opened | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Kebele | Kebele profiling | W/S | Site selector | To be started | To be opened | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | Kebele selection | Preparation Stage | Construction Stage | | | | | | | | | | | | | | | | |

APPENDIX 1: Achievement and Plan of School Construction

| | Kebele profiling | | W/S Site selection | | Started | | Opened | | To be completed | | |
|--------------|------------------|--------------------|--------------------|-------------------|------------------|-------------------|--------|--------------------|-----------------------------|--------------------|--|
| | Kebele selection | Kebele selection | Preparation Stage | Preparation Stage | Kebele profiling | Kebele selection | W/S | W/S | Site selector To be started | Construction Stage | |
| West Harerge | Dida Dalo | Kebele profiling | | Kebele selection | | Kebele profiling | | Kebele selection | | To be opened | |
| | | Kebele selection | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Construction Stage | | To be opened | |
| Kuni | Mekanisa | Kebele profiling | | Kebele selection | | Kebele profiling | | Kebele selection | | To be opened | |
| | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Construction Stage | | To be opened | |
| Oda Roba | | Kebele profiling | | Kebele selection | | Kebele profiling | | Kebele selection | | To be opened | |
| | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Construction Stage | | To be opened | |
| Bonya | Aframe | Kebele profiling | | Kebele selection | | Kebele profiling | | Kebele selection | | To be opened | |
| | | W/S Site selection | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Construction Stage | | To be opened | |
| Anna Jirru | Gedem | Kebele profiling | | Kebele selection | | Kebele profiling | | Kebele selection | | To be opened | |
| | | W/S Site selection | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Construction Stage | | To be opened | |
| Akako | D/Katta | Kebele profiling | | Kebele selection | | Kebele profiling | | Kebele selection | | To be opened | |
| | | W/S Site selection | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Construction Stage | | To be opened | |
| Wanya | Kore | Kebele profiling | | Kebele selection | | Kebele profiling | | Kebele selection | | To be opened | |
| | | W/S Site selection | | Preparation Stage | | Preparation Stage | | Construction Stage | | To be opened | |

Appendix 2

1. Physical condition of ManaBU schools

Physical conditions of all ManaBU schools are almost the same.

1) School Furniture provided by the Project

| Type of Furniture | Quantity/School |
|---------------------|-----------------|
| Student double desk | 60 (small size) |
| | 40 (big size) |
| Teacher's table | 4 |
| Teacher's chair | 4 |
| Black board | 4 |
| Notice board | 5 |
| Office Table | 1 |
| Guest Table | 2 |
| Arm Chair | 1 |
| Regular Chair | 4 |
| Filing Cabinet | 2 |
| Shelf | 4 |
| Cup Board | 2 |
| Store Shelf | 2 |

2) Textbooks provided by the Project

| Subject | Quantity/school |
|------------------------------|-----------------|
| Mathematics Grade1 | 900 |
| Environmental Science Grade1 | 900 |
| Oromigna Grade1 | 900 |
| English Grade1 | 900 |
| Mathematics Grade2 | 375 |
| Environmental Science Grade2 | 375 |
| Oromigna Grade2 | 375 |
| English Grade2 | 375 |
| Mathematics Grade3 | 375 |
| Environmental Science Grade3 | 375 |
| Oromigna Grade3 | 375 |
| English Grade3 | 375 |
| Total | 6,600 |

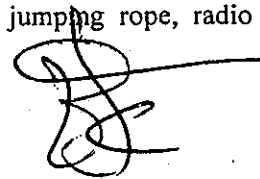
22

3) Teachers' guide and syllabus provided by the project

| | Quantity/school |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| Teachers' Guide | |
| Mathematics Grade1 | Based on No. of teachers and grades |
| Environmental Science Grade1 | |
| Oromigna Grade1 | |
| English Grade1 | |
| Mathematics Grade2 | |
| Environmental Science Grade2 | |
| Oromigna Grade2 | |
| English Grade2 | |
| Syllabus | |
| Mathematics Grade1-4 | 2 |
| Environmental Science Grade1-4 | 2 |
| Oromigna Grade1-4 | 2 |
| English Grade1-4 | 2 |
| Total | |

4) Stationeries, sports materials and other supplemental materials

Duster, register book, scissors, duplicating paper, staples, valley ball, jumping rope, radio tape recorder, etc



Appendix 3

Teacher Training

< Achievements >

1. Training of Trainers

Date: October 28-30, 2005 (3 days)

Venue: Adama Mekonnen Hotel in Nazareth

Trainer: Local consultant employed by the project (Team from the Department of Teacher Education and Curriculum Studies, Addis Ababa University)

Trainees: 5 staffs from each WEO (totally 20)

Other participants: 2 staffs from OEB, and project members

Contents:

- ✓ Brief instruction on training manual
- ✓ School management
- ✓ Classroom management
- ✓ Preparation of lesson plan
- ✓ Peer teaching practice

2. Induction Training conducted in each school

■ North Shoa Zone: Not conducted

■ West Hararge Zone

Ifabiyo Primary School (Wachu Waltane Kebele)

| Contents of the training | Date | Venue | Trainees | Trainers | Teaching materials |
|--------------------------|--------------|-------------|---|---------------|---------------------------------------|
| Instruction on manual | Nov 16, 2005 | Ifabiyo P.S | 4 teachers of Ifabiyo Primary School and 3 teachers from one neighboring school | WEO staff (1) | Manual, textbooks, and teachers guide |
| School management | Nov 17, 2005 | | | WEO staff (1) | |
| Lesson planning | Dec 01, 2005 | | | WEO staff (1) | |
| Peer teaching practice | Dec 02, 2005 | | | WEO staff (1) | |
| ABE program | Dec 03, 2005 | | | WEO staff (1) | |

Walta'a Jalela Primary School (Chiro Kela Kebele)

| Contents of the training | Date | Venue | Trainees | Trainers | Teaching materials |
|--------------------------|--------------|--------------------|--|---------------|---------------------------------------|
| Instruction on manual | Nov 16, 2005 | Walta'a Jalela P.S | 9 teachers of Walta'a Jalela Primary School and 2 teachers from one neighboring school | WEO staff (1) | Manual, textbooks, and teachers guide |
| School management | Nov 17, 2005 | | | WEO staff (1) | |
| Lesson planning | Dec 01, 2005 | | | WEO staff (1) | |
| Peer teaching practice | Dec 02, 2005 | | | WEO staff (1) | |
| ABE program | Dec 03, 2005 | | | WEO staff (1) | |

Laga Lafto Primary School (Kunni Kebele)

| Contents of the training | Date | Venue | Trainees | Trainers | Teaching materials |
|--------------------------|--------------|----------------|--|---------------|---------------------------------------|
| Instruction on manual | Nov 05, 2005 | Laga Lafto P.S | 4 teachers of Laga Lafto P.S and 6 teachers from two neighboring schools | WEO staff (3) | Manual, textbooks, and teachers guide |
| School management | Nov 06, 2005 | | | WEO staff (1) | |
| Lesson planning | Nov 18, 2005 | | | WEO staff (2) | |
| ABE program | Nov 19, 2005 | | | WEO staff (2) | |
| Peer teaching practice | Nov 25, 2005 | | | WEO staff (3) | |

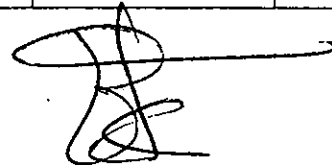
■ Arsi Zone

Koloba Hawas Primary School (Magacha Kebele)

| Contents of the training | Date | Venue | Trainees | Trainers | Teaching materials |
|---|--------------|------------------|---|---------------|---------------------------------------|
| Instruction on manual | Dec 01, 2005 | Koloba Hawas P.S | 4 teachers of Koloba Hawas P.C and 5 teachers from one neighboring school | WEO staff (2) | Manual, textbooks, and teachers guide |
| School management and continuous assessment | Dec 02, 2005 | | | WEO staff (2) | |
| Lesson planning | Dec 03, 2005 | | | WEO staff (2) | |
| Peer teaching practice | Dec 04, 2005 | | | WEO staff (2) | |
| ABE program | Dec 05, 2005 | | | WEO staff (2) | |

Bamo Primary School (Tana Bamo Kebele)

| Contents of the training | Date | Venue | Trainees | Trainers | Teaching materials |
|---|--------------|----------|--|---------------|---------------------------------------|
| Instruction on manual | Nov 18, 2005 | Bamo P.S | 4 teachers of Bamo P.C and 4 teachers from two neighboring schools | WEO staff (2) | Manual, textbooks, and teachers guide |
| School management and continuous assessment | Nov 19, 2005 | | | WEO staff (2) | |
| Lesson planning | Nov 20, 2005 | | | WEO staff (2) | |
| Peer teaching practice | Nov 21, 2005 | | | WEO staff (2) | |



K

ANNEX4-2: Process of Project Implementation

| | | |
|---|--|--|
| Project structure | <ol style="list-style-type: none"> 1. Appropriateness of the project management structure 2. Ways of handling problems | <ol style="list-style-type: none"> 1. The Project team which consists of Ethiopian and Japanese sides possesses structures to permit proper handling of problems. 2. The Project team has dealt with myriads of unexpected incidents that have happened so far. |
| Implementation of activities | Planned and Implementation activities of PDM | <p>OEB and JICA share the same view that the ManaBU Project attaches importance to process-oriented approach. This approach is participatory and time-consuming, but is the optimal way of nurturing the sense of ownership of communities, strengthening the capacity of WEO personnel and assuring the quality of school buildings. Given the remaining time in the project period, the activities pertaining to in-serve teacher training will be excluded.</p> |
| Communication among the stakeholders in the Project | <ol style="list-style-type: none"> 1. Appropriateness of the communication 2. Ways of communication | <ol style="list-style-type: none"> 1. OEB counterparts have been too busy with regional-level tasks to discuss day-to-day or even important issues with JICA experts. It is strongly recommended that OEB counterparts will try to dedicate their time to the ManaBU Project as much as possible. 2. The stakeholders have moved toward a settlement of the problem through a series of dialogue. |
| Monitoring and evaluation process | Development of monitoring and evaluation tools and results | Monitoring and evaluation process has been appropriate in general. It is recommended that as many activities as possible will be recorded in written documents. |
| Sense of ownership | Degree of sense of ownership - OEB - WEO - Communities | OEB is encouraged to exercise leadership in implementing the Project and have a stronger sense of ownership of the Project as well as responsibility. WEOs and communities, which invested a good deal of time and effort to build a school, have a strong sense of ownership as well as a sense of accomplishment and attachment toward a school. |
| Method of technical cooperation | Appropriateness of technical cooperation | The method of technical cooperation is appropriate. The ManaBU Project has been tirelessly searching the best way to encourage WEOs, involve communities, and construct a low-cost but durable school with the partnership between WEOs and communities. This approach is process-oriented and time-consuming by nature so the technical cooperation with a team of long-term JICA experts is a proper scheme. |

ANNEX 4-3: Evaluation by Five Criteria

| Evaluation Questions: Relevance | | Findings of the Study |
|---|---|---|
| Evaluation Items | Necessary Information and Data (Indicators) | |
| Relevance to the government policies | <ul style="list-style-type: none"> Relevance between Super Goal, Overall Goal, and Project Purpose and National Development Plan, ESDP II and III and other related policies | <p>Ethiopia's Poverty Reduction and Strategy Paper (PRSP) was prepared as the Sustainable Development and Poverty Reduction Program (SDPRP) by the Ministry of Finance and Economic Development in July 2002. It enumerated seven key sectors, that is, 1) rural and agricultural development, 2) food security, 3) pastoral development, 4) road, 5) water resource development, 6) education and 7) health.</p> <p>The Educational Development Sector Program (ESDP) II elaborated in June 2002 sets new challenges for the next three year period (2002/03-2004/05). Two of its four major goals are:</p> <ol style="list-style-type: none"> To realize the goal of achieving universal primary education through expanding access and coverage of primary education with equity and improved quality. To build the capacity within education system for sustainable development of the system through organizational capacity building for program implementation, continuous innovation, and quality leadership at various levels. <p>National ESDP II states that, "the communities are expected to commit themselves in supporting a certain percentage (5-10%) of the government expenditure on construction and running costs of schools. New modalities of community participation will be introduced and promoted, and for this a strategy document and an operational manual will be prepared and implemented."</p> <p>National ESDP III elaborated in August 2005 also clearly states that, "provision of access to primary education for all school-aged children ... will entail a heavy burden for the Government and the community over the coming years, but the reward will be great. ... The community will contribute labor, local materials and cash, based on its own capacity, for the construction of schools and ABE Centres.</p> <p>Thus, the ManaBU Project is exactly supporting what the Government of Ethiopia is aiming at.</p> |
| Relevance to the needs of target groups | <ul style="list-style-type: none"> Relevance between Super Goal, Overall Goal, and Project Purpose and ESDP III and other related policies and guidelines | <p>The Guideline for Organization of Educational Management, Community Participation and Educational Finance prepared by the Ministry of Education (MOE) in August 2002, stipulates that WEO shall have the duties and responsibilities to:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ devise and implement mechanism helpful to expand education, particularly primary education, all over the woreda ➤ ensure equitable distribution of education in areas which were previously deprived of access to educational opportunities ➤ in the case of new schools to be constructed by the government, issue requirements and decide the kebele where the school are going to be built <p>The Guideline also says as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ The government should encourage the community to actively participate in constructing new schools, expanding |

| | | |
|---|---|--|
| <p>Relevance to the Japanese ODA policies</p> | <p>Relevance between Super Goal, Overall Goal and Janani's country aid policies</p> | <p>and renovating existing ones and in providing other inputs. In the past, the construction of new schools was carried out haphazardly without well-studied procedure. Thus, it has become necessary to formulate an appropriate mechanism instrumental in promoting the community participation in this regard.</p> <ul style="list-style-type: none"> • National ESDP III states as follows: <ul style="list-style-type: none"> ➢ The WEO should establish and administer primary ... schools; devise and implement plans ... formulate and implement mechanisms to expand education and encourage and support community involvement in the educational sector. ➢ One of the factors that hinder the expansion of primary education is the cost of constructing schools and classrooms, which is on the average over Birr 500,000 per first cycle primary school. ➢ Region will be encouraged further to develop alternative low-cost models of school construction suitable to their respective situation, which of course will consider basic school design parameters. ➢ The low cost construction will make substantial use of local materials and labor. This in turn will create better opportunity to communities to contribute more in terms of labor and materials. • Thus, the ManaBU Project is exactly supporting what the Government of Ethiopia is aiming at. The Project is giving opportunities for the target groups, that is, WEOs and communities to tackle the issues above. The Project has been trying to enable WEOs and communities to proactively plan, construct and manage schools in remote areas which were previously deprived of access to basic education. • Enhancing basic education in developing countries is one of the major policies of Japanese Government as addressed in the Basic Education for Growth Initiative (BEGIN) prepared by Ministry of Foreign Affairs in June 2002. BEGIN stipulates that Japan will provide assistance for 1) ensuring access to education, 2) improving quality of education, and 3) improving management of education. • In Tokyo International Conference for African Development (TICAD II in 1998 and III in 2003), Japanese Government emphasized the importance of basic education. |
|---|---|--|

Evaluation Questions: Effectiveness

| Evaluation Items | Necessary Information and Data (Indicators) | Findings of the Study |
|---|--|--|
| <p>Contribution of Outputs for Project Purpose</p> | <ul style="list-style-type: none"> • Appropriateness of outputs for achieving the Project Purpose | <ul style="list-style-type: none"> • All outputs are contributing towards achieving Project Purpose. • The ManaBU model is still being developed, but it has shown a concrete approach to construct a low-cost school with allowable durability. • However, the current ManaBU model requires considerable involvement of WEOs and community participation. Since the model needs to be flexibly applied according to the diversity of the localities, further improvement will be pursued in the rest of the Project period. |
| <p>Contributing factors for the achievements of the Project</p> | <ul style="list-style-type: none"> • Operation unit in charge of the Project | <ul style="list-style-type: none"> • The first draft of guidelines of planning, construction, and management were developed and they were elaborated by incorporating the lessons learnt from the real activities. |

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • The capacity of some of the WEO personnel was strengthened through the Project activities. They got experiences of school construction by encouraging and organizing community participation. They had no experience of this type of participatory approach before the Project started. • The Project has been effective in that the ManaBU schools have provided the opportunity of education for the children in the selected woredas who would have had no access to basic education. Currently there are 2,016 students attending the five ManaBU schools which opened in September 2005. | |
|--|--|

Evaluation Questions: Efficiency

| Evaluation Items | Necessary Information and Data (Indicators) | Findings of the Study |
|---|--|--|
| Efficiency of Outputs | | |
| Appropriateness of inputs and activities for achieving Outputs | <ul style="list-style-type: none"> • General achievements of outputs • Implementation of activities • Important assumptions | <ul style="list-style-type: none"> • The inputs and activities are leading and contributing toward achievement of all outputs. • All inputs such as human resources, materials and services in the partnership of OEB, ZEOs, WEOs, communities and JICA have been fairly used to yield outputs even though the timing of input delivery is not often in conformity to the planned. |
| Appropriateness of quality, quantity and timing of inputs | | |
| JICA Experts | <ul style="list-style-type: none"> • Number • Expertise • Duration of dispatch • Timing of dispatch | <ul style="list-style-type: none"> • Appropriate number of long-term and short experts with relevant expertise has been dispatched in a timely manner. |
| Equipment | <ul style="list-style-type: none"> • Categories • Amount • Timing of delivery | <ul style="list-style-type: none"> • Most of the equipment has been procured locally and provided in a timely manner. • Motorcycles donated to the six WEOs are not fully utilized in some woredas due to the lack of fuel and driving qualification. It is recommended that WEO personnel will get the driver's license and keep the logbook. The JICA experts are willing to support the cost of the driver's license. |
| Counterpart allocation | <ul style="list-style-type: none"> • Number • Ability • Transfer of personnel | <ul style="list-style-type: none"> • Few officials stay in the same team, section or department in WEOs. There is incessant transfer and turnover of the staff not only in WEOs but also ZEO and OEB. The transfer of expertise is outpaced by the transfer of personnel. This has had negative consequences on timely implementation of the Project activities. • OEB has expressed their commitment to tackle this issue by taking a team-oriented approach. |
| Space and facilities | <ul style="list-style-type: none"> • Quality • Scale • Convenience | <ul style="list-style-type: none"> • All the utility charges are paid by OEB. Three individual rooms are provided for JICA experts, but due to the shortage of space and facilities, one meeting building was built in the compound of OEB by JICA. |
| Local costs | <ul style="list-style-type: none"> • Amount • Usage • Timing of disbursement | <ul style="list-style-type: none"> • JICA bought some industrial materials for school construction as well as furniture and textbooks. • JICA does not pay the per diem to OEB, ZEO and WEO counterparts when they go on a field trip according to the minutes signed between the ManaBU team and OEB in 2005. They have shown the deepest understanding of this |

| | | |
|---|--|---|
| | | <p>policy from the viewpoint of sustainability.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Yet, the construction engineers at the woreda level sometimes refused to visit the ManaBU schools for inspection in an apparent expression of displeasure at nonpayment of per diem covered by WEOs. Since there is no construction engineer in WEOs, this hindered the process of school construction. • Training in Japan have been well planned and carried out each year. The contents and length of stay have been appropriate in general. |
| Training in Japan | <ul style="list-style-type: none"> • Duration of training • Timing of training | |
| Contribution to the Efficiency of Project Support System | | |
| Roles of the Joint Steering Committee (JSC) | <ul style="list-style-type: none"> • Activities • Member of JSC • Discussion topics and suggestions • Frequency of meeting | <ul style="list-style-type: none"> • The Joint Steering Committee is held twice a year. • The member of the JSC is appropriate. It includes the WEO personnel. • The topics have been opportune each time and are listed below. <ul style="list-style-type: none"> ➢ Summary of Baseline Study ➢ Progress of Rapid School Mapping ➢ Presentation on Annual Plan of Operation ➢ Progress Report of the Project ➢ Presentation on Construction Progress ➢ Case Study of Chiro woreda and Dodota Sire woreda |

Evaluation Questions: Impacts

| Evaluation Items | Necessary Information and Data (Indicators) | Findings of the Study |
|---|---|--|
| Contribution of Project achievements of Overall Goal Purpose for Overall Goal | <ul style="list-style-type: none"> • Actual and expected achievements of Overall Goal | <ul style="list-style-type: none"> • It is highly promising that the Project Purpose is being achieved and contributes to attain Overall Goal. Achievement of the Project Purpose is mainly due to the outputs which have been produced so far. |
| Other Impacts | <ul style="list-style-type: none"> • Positive and negative impacts on WEOs and communities | <ul style="list-style-type: none"> • The community people said that they felt more united through the process of school construction. • For most of the students attending the ManaBU schools, it is the very first time for them to receive education. For each individual student, the impact of the Project would be immeasurably sizable. • The model has been useful for the school construction in that it has nurtured the sense of ownership of WEOs and communities. It also shows the model of constructing a low-cost school with allowable durability in remote area. This model has the great potential of accelerating the school construction not only in other woredas in Oromia region but also in other regions in Ethiopia. • However, the current ManaBU model requires substantial involvement of WEOs and communities. The model should be carefully applied according to the diversity of the localities. |

Evaluation Questions: Sustainability

| Evaluation Items | Necessary Information and Data (Indicators) | Findings of the Study |
|--|--|--|
| Organizational Aspects | <ul style="list-style-type: none"> • Role of OEB, ZEO and WEO • Operation and management system | <ul style="list-style-type: none"> • The Guideline for Organization of Educational Management, Community Participation and Educational Finance issued by the Ministry of Education in August 2002, stipulates that the Regional Education Bureau provides technical, professional, material and capacity building support to ZEOs and WEOs. In this sense, the strong initiative of OEB is expected to follow this guideline. • As the Guideline above states, ZEOs are expected to continue carrying out, activities according to the mandate given to it by OEB, that could not be implemented by WEOs. • As the Guideline above states, in the case of new schools to be constructed by the government, WEOs are expected to issue requirements and decide the kebeles where the schools are going to be built. • To fulfill the duties and activities above, OEB, ZEOs and WEO ought to be equipped with enough manpower and resources. • There is incessant transfer and turnover of the staff not only in WEOs but also ZEO and OEB. The transfer of expertise is outpaced by the transfer of personnel. This may curb the impacts of the Project. • Unless the alternative strategy to ensure the continuity of the Project is designed, it is less likely that the ManaBU model can be replicated. |
| Financial Aspects | <ul style="list-style-type: none"> • Budget allocation | <ul style="list-style-type: none"> • The development and recurrent budget of WEOs are scarce. • The capacity of WEOs concerning the efficient and effective use of the budget is expected to be further improved. |
| Technical Aspects | <ul style="list-style-type: none"> • Construction design and specifications • Ways of inspecting school construction | <ul style="list-style-type: none"> • The ManaBU school specifications comply with the construction standards of the Ministry of Education, and OEB has approved of it. There is a tremendous possibility that its design and specifications will be utilized by not only local organizations, but also development partners and NGOs. Whether it happens or not is solely on OEB's shoulders. • The technical advice and inspection on construction can be provided only by the construction engineers at the woreda administration. There is only one engineer in some woredas, and it is difficult for WEOs to bring him/her to the remote construction site due to the lack of resources at WEOs. |
| Social, Cultural and Environmental Aspects | <ul style="list-style-type: none"> • Constraints by the lack of consideration for gender, poverty and vulnerable groups • Constraints by the lack of environmental consideration | <ul style="list-style-type: none"> • As far as the ManaBU model is carefully applied in consideration for social, cultural, geographical and environmental matters, it is expected to continue responding to the diverse needs of communities. |

2

ANNEX5: Revised Project Design Matrix (as of 28 Jan. 2006)

Project Title: Community-Based Basic Education Improvement Project
 Project Period: Nov. 2003 to Nov. 2007
 Project Sites: Oromia Region (North Shewa zone, Arsi zone and West Hararpe zone)

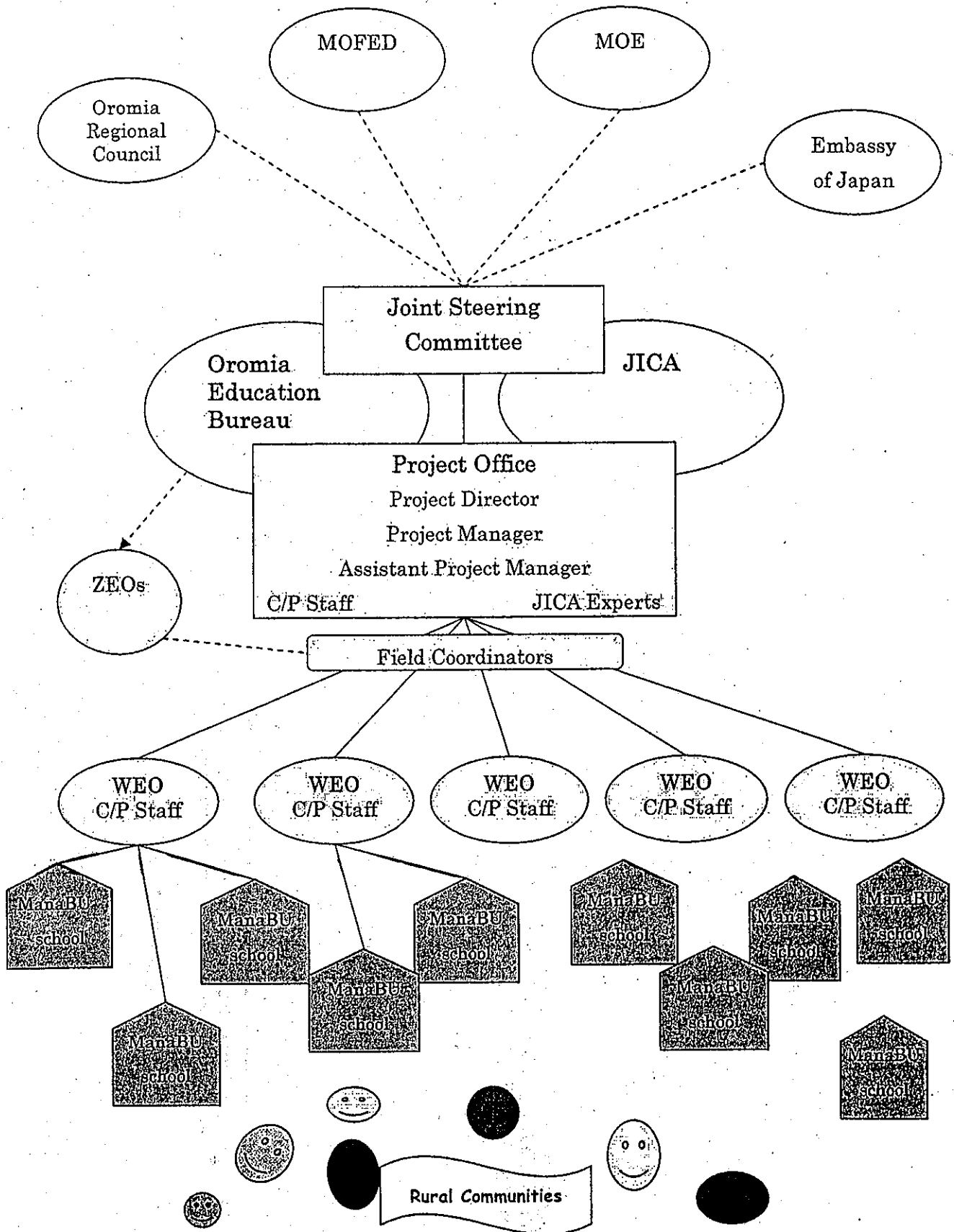
| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumptions |
|--|--|---|---|
| <p>[Super Goal] 1. The school-aged population of Oromia region has better access to basic education. 2. ManaBU model is applied in other woredas in Oromia region.</p> | <p>1. GER and NER of primary education in Oromia region 2.1 Number of existing schools that apply ManaBU model 2.2 Number of newly built schools that apply ManaBU model</p> | <p>1. OEB's Education Statistics Annual Abstract 2. Survey results (responses to questionnaires), OEB documents</p> | <p>The government of Ethiopia will not change the policy that places importance on community participation for the improvement of access to basic education</p> |
| <p>[Overall Goal] 1. The school-aged population of the selected woredas has better access to basic education. 2. The ManaBU model is applied in the selected woredas.</p> | <p>1. GER and NER of primary education in the selected woredas 2.1 Number of existing schools that apply ManaBU model 2.2 Number of newly built schools that apply ManaBU model</p> | <p>1. Statistics documents at ZEO (Zonal Education Office) and WEO 2. Survey results (responses to questionnaires), WEO documents</p> | <p>A large number of government schools and ABE centres are not closed in Oromia region.</p> |
| <p>[Project Purpose] The ManaBU model is developed in the selected woredas.</p> | <p>1. Validity and relevance of the developed model 2. Number of requests for guidelines in OEB and the selected woredas</p> | <p>1. Case studies 2. Record of distribution at OEB and WEO</p> | <p>A large number of government schools and ABE centres are not closed in the selected woredas.</p> |
| <p>[Outputs] 1. Capacity of the WEO personnel in planning and management of basic education is strengthened. 2. The ManaBU schools are constructed and furnished in the selected woredas.</p> | <p>1.1 Number of personnel in planning and management of basic education 1.2 Validity and utility of ManaBU planning guidelines 1.3 Validity and utility of rapid school mapping 1.4 Frequency and appropriateness of the method of monitoring and evaluation 2.1 Validity and utility of ManaBU construction process guidelines 2.2 Degree of community participation for school construction - Number of participated households - Rate of participated households - Type and time of labor provided by communities - Type and amount of materials prepared by communities 2.3 Number and physical condition of established schools 2.4 Quality and quantity of furniture</p> | <p>1.1 Staff documents 1.2 ManaBU planning guidelines 1.3 Results of rapid school mapping 1.4 Records of monitoring and evaluation 2.1 ManaBU-construction process guidelines 2.2 Construction process documents 2.3 Inspection reports 2.4 Inventory of furniture</p> | <p>OEB, ZEO, and WEO will not change the policy that places importance on capacity building of WEO personnel.</p> |
| <p>3. The ManaBU schools are managed and maintained in partnership between the WEO and communities.</p> | <p>3.1 Validity and utility of ManaBU management guidelines 3.2 Number of trainings held and participants from communities 3.3 Structure and functionality of PTA 3.4 Balance of income and expenditure of schools 3.5 Physical condition of schools 3.6 Number and types of good examples of community contribution for school management</p> | <p>3.1 ManaBU management guidelines 3.2 Records of training 3.3 Directive of PTA 3.4 Account books 3.5 Maintenance report 3.6 PTA records</p> | |
| <p>4. The trained teaching staff provides quality basic education to the enrolled students in the ManaBU schools.</p> | <p>4.1 Quantity of textbooks and quality and quantity of teaching materials (ex. student textbook ratio) 4.2 Number of assigned teaching staff and trained teaching staff 4.3 Number of participants of induction training provided</p> | <p>4.1 Inventory of textbooks and teaching materials 4.2 School record 4.3 Report of induction training provided</p> | |

2

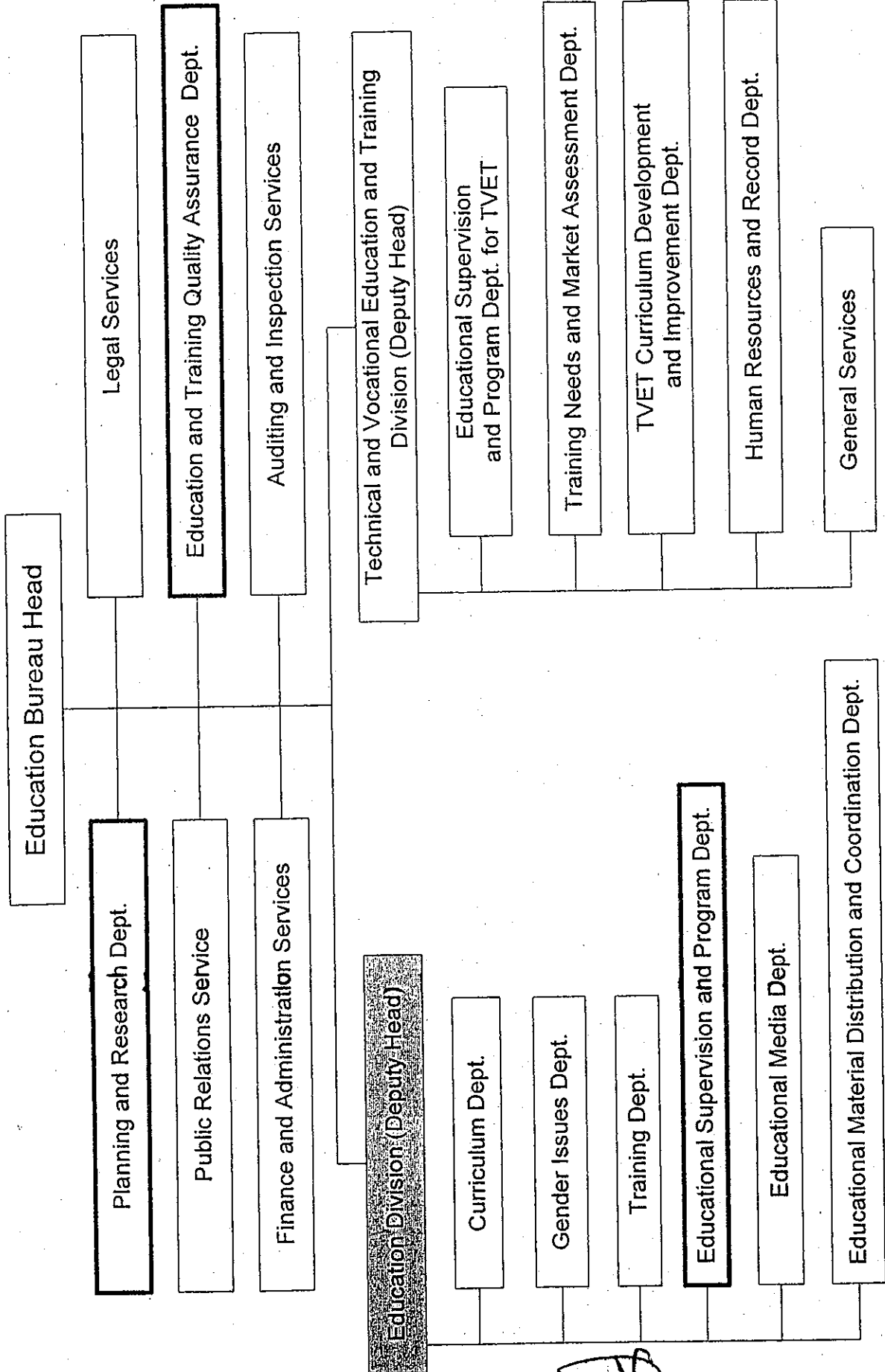
| [Activities] | Inputs | | |
|---|--|--|--|
| 1. WEO Capacity Building 1.1 To select operational wordedas 1.2 To develop ManaBU planning guidelines for WEO 1.3 To conduct planning workshop and OIT for wordeda personnel 1.4 To conduct the rapid school mapping in the selected wordedas 1.5 To conduct regular monitoring and evaluation activities 2. School Construction 2.1 To develop ManaBU construction process guidelines 2.2 To conduct school construction process workshops for the wordeda personnel 2.3 To select school construction sites in the selected kebele 2.4 To assist WEO to facilitate the process of school construction 2.5 To provide required quality and quantity of furniture to each school 3. School Management 3.1 To develop ManaBU management guidelines 3.2 To conduct training on school management for respective communities 3.3 To formulate PTA for each ManaBU school 3.4 To assist PTA in supporting school activities in collaboration with WEO 4. Provision of Quality Basic Education 4.1 To provide required quantity of textbooks and quality and quantity of teaching materials to each school 4.2 To provide technical assistance to PTA in assigning teaching staff (facilitators) at Manabu schools, if necessary 4.3 To provide induction training for teaching staff at each Manabu schools | Japanese side Dispatch of long-term experts - Chief Advisor/Participatory development - Project Coordinator/School management - Community-based school construction Dispatch of short-term experts Provision of local consultancy services Provision of equipment and materials Counterpart training in Japan | Ethiopian side Assignment of personnel - Project Director - Project Manager - Assistant Project Manager - Counterpart personnel Space and facilities Budget allocation | 1. WEO personnel in the selected wordedas continues to work at WEOs. 2. Communities at the school construction sites are actively involved in the process of construction and management. 3. Teaching staff assigned to ManaBU schools continues to teach in the same school. 4. Ethiopia and Oromia region will not face the major climate change or natural disaster, or fall into any conflict. 5. Land for ManaBU school construction is duly provided by communities. |
| | | | Pre-conditions OEB and selected WEOs accept the implementation of the Project. |

2

ANNEX 7 : Chart of Project Implementation Structure



Organization Chart of the Oromia Education Bureau



2

[Handwritten signature]

ANNEX 8-1: List of Japanese Experts

< Long-term Expert >

| Name | Subject | Assignment Period |
|----------------------|--|-----------------------|
| Ms. Akino Kitazume | Chief Adviser/ Participatory Development | 2003. 3.30~2006.11.18 |
| Ms. Naoko Yamaguchi | School Management/ Project Coordinator | 2004.1.18 ~2006.1.17 |
| Mr. Nobuhiro Kunieda | Community-based School Construction | 2004. 6.22~2006.8.21 |

< Short-term Expert >

| Name | Subject | Assignment Period |
|----------------------|-------------------------------------|---------------------|
| Mr. Nobuhiro Kunieda | Community-based School Construction | 2004.1.18~2004.3.07 |

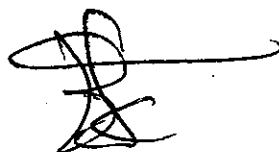
ANNEX 8-2: List of Major Equipment Provided by JICA

1. ManaBU school construction materials
2. ManaBU school furniture and equipment
3. Vehicles for monitoring
4. Other necessary equipment



ANNEX 8-3: Counterpart Training

| Name | Organization | Subject | Period | Recipient University |
|-----------------------------------|---|-------------------|----------------------|-----------------------------------|
| April 2003 – March 2004 (FY 2003) | | | | |
| Mr. Harun Hussein | Head of OEB | School Management | 2003.11.21 -12.8 | Hiroshima University CICE |
| Mr. Merga Debelo | Panel Head of ANFE, OEB | School Management | 2003.11.21 -12.15 | Hiroshima University CICE |
| Mr. Tasaw Bekele | Head of Planning Department, OEB | School Management | 2003.11.21 -12.15 | Hiroshima University CICE |
| April 2004 – March 2005 (FY 2004) | | | | |
| Mr. Dereje Asfaw | Deputy Head, OEB | School Management | 2004. 8.27-9.14 | Hiroshima University CICE |
| Mr. Lissanu Legissa | ANFE Panel Head, OEB | School Management | 2004. 8.27-9.21 | Hiroshima University CICE |
| Mr. Ayalew Adamu | ANFE expert, N. Shewa ZEO | School Management | 2004. 8.27-9.21 | Hiroshima University CICE |
| Ms. Aseggedech Aweke | ANFE expert, Arsi ZEO | School Management | 2004. 8.27-9.21 | Hiroshima University CICE |
| Mr. Birbirso Adugna | ANFE expert, W. Hararge ZEO | School Management | 2004. 8.27-9.21 | Hiroshima University CICE |
| April 2005 – March 2006 (FY 2005) | | | | |
| Mr. Dunkana Negussa | OEB Deputy Head | Teacher Training | 2006.1.29 -2.19 | Naruto University of Education |
| Mr. Mengistu Haile | Head of Education Programme and Supervision Department, OEB | Teacher Training | 2006.1.29 -2.19 | Naruto University of Education |
| Mr. Alemayehu Etea | Head of Training Department, OEB | Teacher Training | 2006.1.29 -2.19 | Naruto University of Education |



ANNEX 8-4 : List of Ethiopian Counterparts

■ List of Counterpart Personnel of OEB

| Name | Department | Title | Training in Japan |
|-----------------|---------------------------------------|-------------------------|-------------------|
| Dereje Asfaw | — | Head | Aug-Sep 2004 |
| Dunkana Negussa | Education Division | Head | Jan-Feb 2006 |
| Lissanu Lejisa | Planning & Research Dept. | Expert | Aug-Sep 2004 |
| Tasew Bekele | ditto | Expert | Nov-Dec 2003 |
| Yali Merga | ditto | Engineer | |
| Alemayehu Etea | Training Dept. | Head | Jan-Feb 2006 |
| Mengistu Haile | Education Supervision & Program Dept. | Department Head | Jan-Feb 2006 |
| Teshome Seifu | ditto | Team Leader | |
| Nuria Ibrahim | ditto | Expert (on study leave) | |
| Kidane Tolcha | ditto | Expert | |

※ The shadowed counterpart personnel have stayed in the same position since the inception of the Project.

■ List of Counterpart Personnel of ZEO

< Arsi Zone >

| Name | Department | Title | Training in Japan |
|-----------------|------------|------------------------|-------------------|
| Aman | — | Head | |
| Kasim | Education | ANFE Expert | |
| Asegedech Awoke | Education | Education Media Expert | Aug-Sep 2004 |

Asegedech Awoke's title changed from ANFE Expert to Education Media Expert after she received training in Japan. Due to the nature of her title, she does not work with JICA experts now.

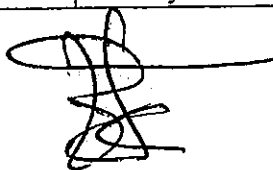
< West Harerge >

| Name | Department | Title | Training in Japan |
|----------------|------------|------------------------|-------------------|
| Mulugeta | — | Head | |
| Birbirs Adugna | Education | Basic Education Expert | Aug-Sep 2004 |
| Kedir Lugo | Education | ANFE Expert | |

Birbirs Adugna worked for one year in the Capacity Building Division after he received training in Japan. He recently moved back to Education Division and became a Basic Education Expert who works with JICA experts.

< North Shoa >

| Name | Department | Title | Training in Japan |
|--------------|------------|--------------------------|-------------------|
| Getachew | — | Head | |
| Ayalew Adamu | Education | Primary Education Expert | Aug-Sep 2004 |



2

■ List of Counterpart Personnel of WEO

• Arsi Zone

< Dodota Sire woreda >

| Name | Title | Remarks |
|-------------------|-------------|---|
| Minda Tasew | ANFE Expert | Has worked with JICA experts since the beginning. |
| Desselegne Degafa | | Has worked with JICA experts since the beginning. |

< Diksis woreda >

| Name | Title | Remarks |
|-------------|--------------------------|--|
| Sime Tarafa | Head | |
| Kedir | Primary Education Expert | There were two antecessors before Kedir. |

• West Harerge Zone

< Chiro woreda >

| Name | Title | Remarks |
|------------------|-------------|---|
| Gizachew | Head | |
| Solomon Getachew | ANFE Expert | He was newly appointed in this position. His antecessor (Workiye) worked with JICA experts for more than two years. |

< Kunni woreda >

| Name | Title | Remarks |
|----------|--------------------------|---|
| Misgana | Primary Education Expert | Has worked with JICA experts since the beginning. |
| Nugussie | | There were two antecessors before Nugussie. |

• North Shoa Zone

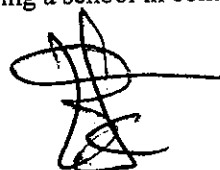
< Degen woreda >

| Name | Title | Remarks |
|-----------|-------------|--|
| Alemayehu | Head | There were two antecessors before Alemayehu. |
| Wassane | ANFE Expert | |
| Nugussie | | |

< Wuchale Jida woreda >

| Name | Title | Remarks |
|---------|--|---|
| Girma | Education Coordinator | |
| Tamrat | ANFE Expert/ Primary Education Expert | Has worked with JICA experts since the beginning. |
| Yeshome | Planning Expert | |

※ The shadowed counterpart personnel have stayed in the same position since the inception of the Project. They deeply understand the underlying concept of process-oriented participatory approach, and are well versed in planning and building a school in collaboration with the community.



2

ANNEX 9: List of Abbreviations and Acronyms

| | |
|----------------|--|
| ABE | Alternative Basic Education |
| ANFE | Adult and Non-Formal Education |
| BEGIN | Basic Education for Growth Initiative |
| CBBEC | Community-Based Basic Education Center |
| CMC | Construction Management Committee |
| C/P | Counterpart |
| EMIS | Education Management and Information System |
| ESDP | Education Sector Development Programme |
| ETB | Ethiopian Birr |
| FY | Fiscal Year |
| GER | Gross Enrollment Rate |
| JSC | Joint Steering Committee |
| JICA | Japan International Cooperation Agency |
| ManaBU | Mana Barnoota Ummataa (Community School) |
| ManaBU Project | Community-Based Basic Education Improvement Project |
| MOE | Ministry of Education |
| MOFED | Ministry of Finance and Economic Development |
| NER | Net Enrollment Rate |
| NFE | Non Formal Education |
| NGO | Non Governmental Organization |
| OEB | Oromia Education Bureau |
| PCM | Project Cycle Management |
| PDM | Project Design Matrix |
| PO | Plan of Operation |
| PRSP | Poverty Reduction Strategy Paper |
| PTA | Parent-Teacher Association |
| R/D | Record of Discussions |
| SDPRP | Sustainable Development and Poverty Reduction Program |
| SMAPP | Project on Increasing Access to Quality Basic Education through Developing School Mapping and Strengthening Microplanning in Oromia Region |
| TVET | Technical and Vocational Education and Training |
| WEO | Woreda Education Office |
| ZEO | Zonal Education Office |

付属資料 2. 評価グリッド結果表(和文)

評価グリッド：プロジェクトの達成状況

| 評価項目 | | 必要な情報・データ (指標) | | 調査結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------|--------------------------------------|---------|--|----------------|---------|---------|---------|----------------|---------|---------|---------|---------|------|------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|--|--|--------------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|------------|------|------|------|------|------|-----|-----|--|--|------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|--------|------|------|------|------|------|-----|-----|--|--|--------------|------|------|------|------|------|-----|-----|--|--|----------|------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|--|--|-------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|-----------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|-----------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|---------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|---------|------|------|-------|-------|-------|-----|-----|--|--|-------------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|--|--|--------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|--|--|---|--|--|--|--|--|
| スーパードゴールの達成状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. オロミア州において学齢児童の基礎教育へのアクセスが向上する。 | | 1. オロミア州の初等教育の総就学率 (GER) と純就学率 (NER) | | 1. オロミア州における初等教育の総就学率 (GER) (純就学率: n/a) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. ManaBU モデルがオロミア州の他の郡で適用される。 | | 2-1. ManaBU モデルを適用した既存校の数 | | 2-1. 中間評価調査時点では、他の郡の既存校で ManaBU モデルが教室の増築や老朽化した校舎の建て替えに活用されたという報告はされていない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2-2. ManaBU モデルを適用した新設校の数 | | 2-2. 中間評価調査時点では、他の郡で ManaBU モデルが新規学校建設に活用されたという報告はされていない。現時点で本指標を判断するのは時期尚早と考えられる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>県・州</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> <th>1-4 年生 GER (%)</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Arsi</td> <td>86.3</td> <td>104.0</td> <td>113.0</td> <td>127.0</td> <td>127.0</td> <td>534</td> <td>702</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>West Harerge</td> <td>54.7</td> <td>80.7</td> <td>77.0</td> <td>116.9</td> <td>116.9</td> <td>293</td> <td>374</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>North Shoa</td> <td>49.5</td> <td>65.0</td> <td>65.0</td> <td>83.9</td> <td>83.9</td> <td>267</td> <td>340</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Bale</td> <td>68.5</td> <td>81.2</td> <td>93.0</td> <td>106.6</td> <td>106.6</td> <td>466</td> <td>527</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Borena</td> <td>46.6</td> <td>55.7</td> <td>65.0</td> <td>75.8</td> <td>75.8</td> <td>166</td> <td>203</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>East Harerge</td> <td>56.1</td> <td>71.2</td> <td>79.0</td> <td>99.9</td> <td>99.9</td> <td>473</td> <td>577</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ilubador</td> <td>86.2</td> <td>106.7</td> <td>111.0</td> <td>136.9</td> <td>136.9</td> <td>381</td> <td>432</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Jimma</td> <td>58.7</td> <td>81.6</td> <td>82.0</td> <td>113.3</td> <td>113.3</td> <td>419</td> <td>593</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>East Shoa</td> <td>69.1</td> <td>88.6</td> <td>87.0</td> <td>108.6</td> <td>108.6</td> <td>347</td> <td>586</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>West Shoa</td> <td>64.7</td> <td>83.7</td> <td>85.0</td> <td>107.9</td> <td>107.9</td> <td>307</td> <td>426</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>W. East</td> <td>73.2</td> <td>87.5</td> <td>89.0</td> <td>109.3</td> <td>109.3</td> <td>369</td> <td>509</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>W. West</td> <td>80.8</td> <td>99.1</td> <td>100.0</td> <td>124.3</td> <td>124.3</td> <td>503</td> <td>648</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Sh. S. West</td> <td>58.5</td> <td>87.4</td> <td>78.0</td> <td>118.2</td> <td>118.2</td> <td>191</td> <td>276</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Guji</td> <td>61.0</td> <td>82.6</td> <td>86.0</td> <td>115.3</td> <td>115.3</td> <td>193</td> <td>273</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Oromia</td> <td>66.7</td> <td>85.4</td> <td>88.0</td> <td>111.4</td> <td>111.4</td> <td>4,909</td> <td>6,466</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 県・州 | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | 1-4 年生 GER (%) | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | Arsi | 86.3 | 104.0 | 113.0 | 127.0 | 127.0 | 534 | 702 | | | West Harerge | 54.7 | 80.7 | 77.0 | 116.9 | 116.9 | 293 | 374 | | | North Shoa | 49.5 | 65.0 | 65.0 | 83.9 | 83.9 | 267 | 340 | | | Bale | 68.5 | 81.2 | 93.0 | 106.6 | 106.6 | 466 | 527 | | | Borena | 46.6 | 55.7 | 65.0 | 75.8 | 75.8 | 166 | 203 | | | East Harerge | 56.1 | 71.2 | 79.0 | 99.9 | 99.9 | 473 | 577 | | | Ilubador | 86.2 | 106.7 | 111.0 | 136.9 | 136.9 | 381 | 432 | | | Jimma | 58.7 | 81.6 | 82.0 | 113.3 | 113.3 | 419 | 593 | | | East Shoa | 69.1 | 88.6 | 87.0 | 108.6 | 108.6 | 347 | 586 | | | West Shoa | 64.7 | 83.7 | 85.0 | 107.9 | 107.9 | 307 | 426 | | | W. East | 73.2 | 87.5 | 89.0 | 109.3 | 109.3 | 369 | 509 | | | W. West | 80.8 | 99.1 | 100.0 | 124.3 | 124.3 | 503 | 648 | | | Sh. S. West | 58.5 | 87.4 | 78.0 | 118.2 | 118.2 | 191 | 276 | | | Guji | 61.0 | 82.6 | 86.0 | 115.3 | 115.3 | 193 | 273 | | | Oromia | 66.7 | 85.4 | 88.0 | 111.4 | 111.4 | 4,909 | 6,466 | | | <p>学校数は増加傾向にある。州内での総就学率も向上しているが、これはプロジェクト以外の要因も作用していることが考えられる。</p> <p>2-1. 中間評価調査時点では、他の郡の既存校で ManaBU モデルが教室の増築や老朽化した校舎の建て替えに活用されたという報告はされていない。</p> <p>2-2. 中間評価調査時点では、他の郡で ManaBU モデルが新規学校建設に活用されたという報告はされていない。現時点で本指標を判断するのは時期尚早と考えられる。</p> | | | | | |
| 県・州 | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | 1-4 年生 GER (%) | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Arsi | 86.3 | 104.0 | 113.0 | 127.0 | 127.0 | 534 | 702 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West Harerge | 54.7 | 80.7 | 77.0 | 116.9 | 116.9 | 293 | 374 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| North Shoa | 49.5 | 65.0 | 65.0 | 83.9 | 83.9 | 267 | 340 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Bale | 68.5 | 81.2 | 93.0 | 106.6 | 106.6 | 466 | 527 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Borena | 46.6 | 55.7 | 65.0 | 75.8 | 75.8 | 166 | 203 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| East Harerge | 56.1 | 71.2 | 79.0 | 99.9 | 99.9 | 473 | 577 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Ilubador | 86.2 | 106.7 | 111.0 | 136.9 | 136.9 | 381 | 432 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Jimma | 58.7 | 81.6 | 82.0 | 113.3 | 113.3 | 419 | 593 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| East Shoa | 69.1 | 88.6 | 87.0 | 108.6 | 108.6 | 347 | 586 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West Shoa | 64.7 | 83.7 | 85.0 | 107.9 | 107.9 | 307 | 426 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| W. East | 73.2 | 87.5 | 89.0 | 109.3 | 109.3 | 369 | 509 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| W. West | 80.8 | 99.1 | 100.0 | 124.3 | 124.3 | 503 | 648 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Sh. S. West | 58.5 | 87.4 | 78.0 | 118.2 | 118.2 | 191 | 276 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Guji | 61.0 | 82.6 | 86.0 | 115.3 | 115.3 | 193 | 273 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Oromia | 66.7 | 85.4 | 88.0 | 111.4 | 111.4 | 4,909 | 6,466 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上位目標の達成状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 選定された郡において、 | | 1. 選定された郡の初等教育の | | 2. オロミア州の選定された郡における初等教育の GER (NER 及び 1-4 年生 GER は: n/a) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| <p>学齢児童の基礎教育へのアクセスが向上する。</p> <p>2. 選定された郡において、ManaBU モデルが適用される。</p> | <p>GER と NER</p> <p>2-1. ManaBU モデルを適用した既存校の数</p> <p>2-2. ManaBU モデルを適用した新設校の数</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">県</th> <th rowspan="2">郡</th> <th colspan="3">1-8 年生 GER (%)</th> <th colspan="2">学校数</th> </tr> <tr> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> <th>2002/03</th> <th>2004/05</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Arsi</td> <td>Dodota Sire</td> <td>84.8</td> <td>101.4</td> <td>25</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>West</td> <td>Diksis</td> <td>59.1</td> <td>78.7</td> <td>11</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>Harerge</td> <td>Chiro</td> <td>42.7</td> <td>70.9</td> <td>51</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>North</td> <td>Kunni</td> <td>56.5</td> <td>77.5</td> <td>23</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>Shoa</td> <td>Degem</td> <td>51.4</td> <td>55.4</td> <td>16</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Wuchale Jirda</td> <td>42.0</td> <td>54.7</td> <td>27</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校数は増加傾向にある。総就学率も向上しているが、これは保護者が子どもを学校に通わせることの重要性を認識したことが要因のひとつと考えられる。教育へのアクセスは向上しているが、改善の余地は依然として大きい。</p> <p>2-1. 中間評価調査時点では、他の郡の既存校で ManaBU モデルが教室の増築や老朽化した校舎の建て替えに活用されたという報告はされていない。現時点で本指標を判断するのは時期尚早と考えられる。</p> <p>2-2. 現時点で本指標を判断するのは時期尚早であるが、Kunni 郡内の少なくとも 1 校が ManaBU モデルを基にして建設された。今後同モデルを活用してより多くの学校が建設されていくことが期待される。</p> | 県 | 郡 | 1-8 年生 GER (%) | | | 学校数 | | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | Arsi | Dodota Sire | 84.8 | 101.4 | 25 | 31 | West | Diksis | 59.1 | 78.7 | 11 | 15 | Harerge | Chiro | 42.7 | 70.9 | 51 | 66 | North | Kunni | 56.5 | 77.5 | 23 | 25 | Shoa | Degem | 51.4 | 55.4 | 16 | 20 | | Wuchale Jirda | 42.0 | 54.7 | 27 | 30 |
|--|---|--|---------|---------|----------------|--|--|-----|--|---------|---------|---------|---------|------|-------------|------|-------|----|----|------|--------|------|------|----|----|---------|-------|------|------|----|----|-------|-------|------|------|----|----|------|-------|------|------|----|----|--|---------------|------|------|----|----|
| 県 | 郡 | 1-8 年生 GER (%) | | | 学校数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2002/03 | 2004/05 | 2002/03 | 2004/05 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Arsi | Dodota Sire | 84.8 | 101.4 | 25 | 31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West | Diksis | 59.1 | 78.7 | 11 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Harerge | Chiro | 42.7 | 70.9 | 51 | 66 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| North | Kunni | 56.5 | 77.5 | 23 | 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Shoa | Degem | 51.4 | 55.4 | 16 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Wuchale Jirda | 42.0 | 54.7 | 27 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>プロジェクト目標の達成状況</p> <p>住民参加型小学校 (ManaBU 学校) のモデルが選定された郡において開発される。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開発されたモデルの有効性と妥当性 2. 選定された郡におけるガイドラインに対する要望数 3. ManaBU 学校への訪問者数 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ManaBU モデルは以下の財務・技術・運営・行政・社会・地理的課題に対応すべく開発され、検証を受けている。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 本プロジェクトは、WEO が 10 万ブル弱 (工業資材購入費と熟練工賃) の予算を確保し、コミュニティが 6 万ブル相当 (現金、現地調達資材、未熟練工賃) の貢献をすれば、コンクリートの基礎と土壁の学校 1 校 (1 棟 2 教室×2 棟=4 教室) を建設することができると示した。もし住民参加がなければ、同タイプの学校を建設するのに 20 万ブルの資金が必要である。したがって、ManaBU モデルは WEO の学校建設コストを半減し、オロミア州内の選定された郡だけでなく他の郡においても学校建設を加速させる可能性を秘めている。すなわち、20 万ブルでは (これまで 1 校しか建設できなかったのに対し)、住民参加を得ることによって 2 校の学校建設が可能となることを示している。 ▶ 「エ」国の ESDP III には、第 1 サイクル (1~4 年生) の小学校の平均建設費用は 50 万ブル強であり、各州は基本的な学校設計パラメータを考慮した廉価な代替モデルを開発することが強く期待されているとの記述がある。ManaBU モデルはある意味でこの問いに対する回答を示したといえる。 ▶ 他方、ManaBU モデルは多大な WEO の働きかけと住民参加を必要とすることに留意すべきであり、同モデルは地域の多様性に応じて柔軟に活用されるべきである。 ▶ 学校建設は 1) WEO のイニシアティブ、2) 住民の積極的な参加、3) WEO と住民のパートナーシップを必要とする。 ▶ コミュニティは学校建設というプロセスを通じてより団結することが認められている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| | | <p>➤ WEOは住民と共に学校を建設するという参加型アプローチを初めて経験した。本プロジェクトが開始されるまでは「(一括契約による)建設業者任せ」、「住民任せ」、「ドナー任せ」の学校建設しか経験したことがなかった。</p> <p>➤ また選定された郡内の(本プロジェクトで建設された学校に通う)大半の児童にとっても、教育を受けることは初めての経験であった。もしManaBU学校がなければ、彼らは基礎教育にアクセスすることさえできなかった。</p> <p>➤ 本プロジェクトは黒綿土(black cotton soil)の上に学校を建設するという困難も経験している。もしDiksis郡のKecha Koshimo 行政村において、学校が成功裏に建設されれば、この事例は地域全体が黒綿土のみで覆われた同様の行政村にとって良き模範となると思われる。</p> <p>➤ 西ハラルゲ県のKunni 郡は、本プロジェクトの支援を得てLaga Laft 校を建設したが、彼らはそれと並行してManaBU モデルを活用しOda-Tuta 校も建設した。Oda-Tuta 校は交付金(16万ブル)と住民参加(現金1万2千ブル、現地資材、未熟練労働)によって建設された。同校は2005年9月に開校したが、校舎の一部は未完成である。</p> <p>2. ManaBU 学校が建設された行政村の近隣のいくつかの行政村の住民は、ManaBU プロジェクトのアプローチを間近に見ており、WEO に対して学校建設を要請している。</p> <p>3. 何名かの人たちは関心を示したものの、ManaBU 学校は幹線道路からアクセスが困難な僻地に建設されているため、実際に訪れる人の数は少なく、またその数を正確に把握することはむずかしい。来訪者数は指標としてそれほど意味がないため、削除することとする。</p> |
| <p>成果の達成状況</p> <p>1. 郡教育事務所(WEO)の行政官の住民参加型学校建設・運営に係る計画策定・実施能力が向上する。</p> | <p>1. 基礎教育の計画・運営に従事する行政官の数</p> <p>2. ManaBU 学校に係る計画ガイドラインの有効性と妥当性</p> <p>3. 簡易スクールマッピングの有効性と有用性</p> <p>4. 各郡で策定された教育計画の有効性と適切さ</p> <p>5. (コミュニティ調査を含めた)モニタリングと評価方法の頻度と適切さ</p> | <p>1. まずOEBは上述のManaBUモデルの普及と計画・建設・運営ガイドラインの配布において極めて重要な役割を担っている。OEBには局長を含めて10人のC/Pがいる(ミニッツANNEX8-4参照)。また同ANNEXには3県と6郡(それぞれ6名、14名)のC/Pが掲載されている。C/Pの能力は人によってばらつきがあるものの、JICA 専門家と密に連絡を取って自発的に活動したC/Pは本プロジェクトのプロセス重視のアプローチをよく理解していることから、残りのプロジェクト期間で学び得たものをさらに活用していくことが期待される。他方OEB、ZEO、WEOにおけるC/Pの頻繁な人事異動や離職は、技術移転にネガティブな影響を与えており、プロジェクトの進展の阻害要因にもなっている。</p> <p>2. 2005年2月にライトショップ(writeshop)が開催された。OEB、ZEO、WEOのC/Pが参加し、ガイドラインのコンセプトや内容について討議した。計画ガイドラインのドラフトは完成している。その有効性と妥当性は検証されており、2006年もフルに活用される予定である。</p> <p>3. 2004年に行われた簡易スクールマッピングは、選定された郡内の行政村の人口分布や地理的・社会的状況についての詳細なデータを収集できたことにおいて非常に有効かつ有用であった。</p> <p>4. WEO 行政官の能力は現場でのオンザジョブ・トレーニングによって強化された。彼らはManaBU 学校の計画・建設・運営について住民と協働し主体的に活動した。各郡の教育計画を策定する活動はSMAPP に引き継がれるため、この指標は削除することとした。</p> |

| | | <p>5. モニタリングと評価は毎月 WEO (時々 OEB) によって適切に行われている。これは OEB と JICA 専門家の日常的なマネジメント活動の一部であり、キャパシティ・ディベロップメントの一環と捉えられる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|------------|-----|-------------|----|--------|--------|------------|-----|------|-------------|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|--------------|-------|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|------------|-------|---|---|---|---|--------------|---|---|---|---|----|---|----|---|---|----|
| <p>2. 選定された郡において ManaBU 学校が建設され、教育環境が整備される。</p> | <p>1. ManaBU 学校建設ガイドラインの有効性と有用性</p> <p>2. ManaBU 学校建設に際しての住民参加の度合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加世帯の割合 住民が提供した役務の種類と時間 住民が用意した資材の種類と量 住民が提供した資金の割合と金額 <p>3. 建設された ManaBU 学校の数と状況</p> <p>4. 机・椅子の質と量</p> <p>5. 教科書・教材の質と量 (例: 生徒一人当たりの教科書数)</p> | <p>1. 2005年2月にライイトショップ (writeshop) が開催された。OEB、ZEO、WEO の C/P が参加し、ガイドラインのコンセプトや内容について討議した。計画ガイドラインのドラフトは実際の建設から得られた多くの教訓を盛り込んで出来上がっている。その有効性と有用性はほぼ検証されているが、新たに気づいた点などが追加される必要がある。2006年同ドラフトはフルに活用される予定である。</p> <p>2. 学校建設が決定した行政村では住民が建設運営委員会 (CMC) を設置した。基本的に行政村の全世帯が学校建設を支援し、積極的に建設に参加した。彼らは土地を確保して平らにし、資材を調達するとともに掘削から始まる一連の未熟練作業に従事した。その過程において、現地資材と言われるものが必ずしも現地で調達できないことが明らかになった。例えば、ある行政村で調達できる資材が別の行政村では調達できず、結果的に購入しなければならぬというケースがあった。また現地調達可能な資材によって未熟練作業の種類も変わるため、その作業も行政村ごとに異なるものとなった。このことは、建設の設計段階において住民と建設業者の間で行うべき役務を明確に区別しておく必要があることを示している。つまり、ManaBU モデルは各地域の多様な形で学校建設に貢献した。Chiro 郡の Wachu Waltane 行政村では、住民が 1 万 2300 ブルの現金を留意し、資材を集め、未熟練作業に携わった。同郡の Chiro Kala 行政村では、住民が少なくとも 4300 ブルの現金を集め、3055 ブルに相当する資材を調達し、3 万 510 ブル (3051 人/日 x 10 ブル) に相当する未熟練作業に協力した。他方、本プロジェクトは工業資材の購入と、交通費と熟練工賃の支払いにおいて WEO を支援した。このように本プロジェクトの支援 (10 万ブル弱相当) を得て、住民参加による学校建設が具現化した。こうした建設過程を経ることによって、住民が一致団結していればいるほどサイト選定と学校建設の時間が短くなることが明らかになった。言うまでもなく、行政村の村長の指導力は欠くことのできないものである。</p> <p>3. 学校建設の進捗状況は下表のとおりである。最初の建設年 (2005 年) に暫定的に計画された学校数は 8 校で建設進捗状況</p> <table border="1" data-bbox="1002 188 1315 1294"> <thead> <tr> <th rowspan="2">県</th> <th rowspan="2">郡</th> <th rowspan="2">学校建設 目標数</th> <th rowspan="2">開校</th> <th colspan="2">建設進捗状況</th> </tr> <tr> <th>着工後 停止中</th> <th>未着工</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">Arsi</td> <td>Dodota Sire</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Diksis</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">West Harerge</td> <td>Chiro</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Kunni</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">North Shoa</td> <td>Degem</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Wuchale Jida</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>2</p> | 県 | 郡 | 学校建設 目標数 | 開校 | 建設進捗状況 | | 着工後 停止中 | 未着工 | Arsi | Dodota Sire | 4 | 1 | 0 | 3 | Diksis | 2 | 1 | 1 | 0 | West Harerge | Chiro | 4 | 2 | 0 | 2 | Kunni | 4 | 1 | 0 | 3 | North Shoa | Degem | 3 | 0 | 0 | 2 | Wuchale Jida | 3 | 0 | 0 | 2 | 合計 | 6 | 20 | 5 | 1 | 12 |
| 県 | 郡 | 学校建設 目標数 | | | | | 開校 | 建設進捗状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 着工後 停止中 | 未着工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Arsi | Dodota Sire | 4 | 1 | 0 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Diksis | 2 | 1 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| West Harerge | Chiro | 4 | 2 | 0 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Kunni | 4 | 1 | 0 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| North Shoa | Degem | 3 | 0 | 0 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Wuchale Jida | 3 | 0 | 0 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 6 | 20 | 5 | 1 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

あったが、実績では 5 校となった。その理由は本評価グリッドの「外部条件」の所で述べられている。以下の 5 つの ManaBU 学校が 2003 年 9 月に開校した。①、②及び③は完工し、④と⑤は一部を残して未完

| | | |
|---|---|---|
| <p>3. ManaBU 学校が住民組織 WEO との協力で運営され、維持される。</p> | | <p>成である。学校の物理的な状態は全般的に良好であるが、学校によってその質にばらつきがある。その理由として、各行政村で調達された資材そのものの質に優劣があること、さらに建設業者と郡の建設技官の技術レベルに差があることが挙げられる。このことは、住民が良質の資材を調達するよう指示される必要があること、いかに技術的に有能な建設業者と建設技官を確保するかが肝要であることを示している。</p> <p>① Koloba Hawas 校 (児童 325 人、Magacha 行政村、Dodota Sire 郡、Arsi 県) ② Ifa Biyo 校 (児童 430 人、Wachu Waltane 行政村、Chiro 郡、West Hararghe 県) ③ Walta'a Jelala 校 (児童 420 人、Chiro Kala 行政村、Chiro 郡、West Hararghe 県) ④ Laga Lafto 校 (児童 416 人、Laga Lafto 行政村、Kunni 郡、West Hararghe 県) ⑤ Bamo 校 (児童 425 人、Tana Bamo 行政村、Diksis 郡、Arsi 県)</p> <p>学校が建設された郡の全 WEO 行政官と住民は ManaBU モデルの適切さと高い費用対効果 (廉価で耐久性があること) をよく理解している。</p> <p>4. JICA 専門家チームは州政府の製造工場から机・椅子などを購入した。品質は良好で量も十分であった。校舎建設だけでなく、机・椅子などを購入したことに WEO と住民は非常に感謝している。購入品目のリストは評価グッド (英文) Appendix 2 のとおり。</p> <p>5. JICA 専門家チームは生徒一人当たり 1 教科 1 冊の割合で教科書を提供了。校舎建設だけでなく、教科書を供与したことに WEO と住民は非常に感謝している。教科書の冊数は評価グッド (英文) Appendix 2 のとおり。</p> |
| <p>3. ManaBU 学校が住民組織 WEO との協力で運営され、維持される。</p> | <p>1. ManaBU 学校運営ガイドラインの有効性と有用性 2. 開催された研修回数と参加者数 3. センター運営委員会 (現 PTA) の構成と機能 4. ManaBU 学校のプログラムの有効性と適切さ 5. ManaBU 学校の収支バランス 6. ManaBU 学校の物理的状态 7. モニタリングと評価方法の頻度と適切さ n</p> | <p>1. 2005 年 2 月にライトショップ (writeshop) が開催された。OEB、ZEO、WEO の C/P が参加し、ガイドラインのコンセプトや内容について討議した。運営ガイドラインのドラフトは出来上がっており、改訂が進められている。ManaBU 学校の開校が 2005 年 9 月と日が浅いため、本ガイドラインを完成させるにはしばらくの期間と経験の蓄積が必要である。このドラフトに関しては 2006 年 8 月に徹底した見直しが行われていた。</p> <p>2. 運営に特化した研修は特になく、サイト選定や学校建設の過程を通じてオンザジョブで行われている。住民は帳簿の付け方、入学者登録の仕方、資金集めの仕方などを学んだ。しかし、運営に関しては多大な改善の余地がある。例えば一つの ManaBU 学校には 4 教室あるが、開校した 5 校のうち 4 校は 1 年生だけで 4 教室すべてを使用している。このままでは 2006 年 9 月には新 1 年生と今の 1 年生 (新 2 年生) で学校があふれかえってしまうことが懸念される。開校した 5 校のうち、自力でこの事態を打開する明確なビジョンを持った学校はない。</p> <p>3. 当初本プロジェクトで建設を行う施設はノンフォーマル教育センターを想定していたが、オロミア州の実情と住民のニーズに照らし政府校とすることとしたため、「センター運営委員会」ではなく、連邦教育省のガイドラインでも用いられている PTA という名称を使うこととした。PTA 会合は隔月に 1 回開催されている。</p> <p>4. 2005 年に開校した 5 校はすべて政府校として認可・登録されたため、連邦教育省のカリキュラムに準拠して 4 年間課程であることから、学校は政府から給与が支払われる教員を配属してもらおうことが可能となる。もし政府派遣の教員だけでは人数が足りない場合は、住民は自らお金を拠出しファシリテーター</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | | <p>と呼ばれる非資格教員を採用する必要がある。</p> <p>5. コミュニティの決定に基づき、PTA は通例一世帯あたり 5～10 ブル程度を徴収する。徴収額は行政村の児童数と世帯数によって変化する。徴収されたお金はファシリテーターや夜警の給与、施設の保守管理などに充たされる。年間の支出額（及びそれに見合うように徴収される収入）は 4500～6000 ブルの範囲である。</p> <p>6. ManaBU 学校の物理的な状態は全般的に良好であるが、いくつかの教室では床にゴミが散らかっていた。まず教員が意識を高く持ち、学校を清潔にしておくよう児童を教育することが大事である。</p> <p>7. 学校を定期的に訪問する WEO 行政官もいれば、そうでない者もいる。WEO は学校運営により積極的に関わり、助言を与えていくことが期待される。さらに WEO はモニタリング予算（少なくとも燃料代）を確保し、JICA が供与したオートバイを存分に活用すべきである。OEB は少なくとも四半期ごとに供与されたオートバイの使用状況をモニタリングしなければならない。</p> |
| <p>4. 研修を受けた教員が良質な教育を ManaBU 学校の児童に提供する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 配属された教員数 2. 提供された研修の有効性と内容 3. 研修を受けた教員数 4. ManaBU 学校における現職教員研修の頻度と適切さ 5. 教員の意欲と取り組み 6. 児童の学習態度、満足度、成績、留年率等 7. 現職教員研修の良好例の種類 8. 定期的で体系化された現職教員研修計画の有効性と適切さ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開校した ManaBU 学校に配属された教員数は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> ① Koloba Hawa 校： 4 人（すべて政府教員） ② Ifa Biyo 校： 4 人（政府教員 2 人、ファシリテーター 2 人） ③ Walta Jelala 校： 9 人（政府教員 7 人、ファシリテーター 2 人） ④ Laga Lafto 校： 4 人（すべて政府教員） ⑤ Bamo 校： 5 人（すべて政府教員） 2. 教員（及びファシリテーター）は概ね導入研修に満足している。理解と他の教員との議論をより深めるために、もう少し研修期間を長くしてほしいと要望した教員が 1 名いた。 3. まず 2005 年 10 月に WEO 行政官を対象としてトレーナー研修が実施された。続いて 2005 年 11 月と 12 月に教員を対象に導入研修が行われた。各学校における導入研修の参加者数は評価グリッド（英文） Appendix 3 のとおりである。 4. 定期的な現職教員研修は行われていないが、ManaBU 学校と他校の教員は毎月クラスター・リソース・センター（周辺の何校かの学校に対して指導的な役割を担う小学校）に参集することになっており、この場で研修的要素を含んだ内容の会合が持たれることがある。本プロジェクトの限られた残りの期間を考慮し、この指標と対応する活動は削除することとする。 5. ManaBU 学校に配属された教員のうち名前はそれぞれに全く教員経験のない者であった。学校自体は新しいが、教員は意欲的で教育熱心である。 6. 学校に通う児童は、ManaBU 学校がなければ教育機会のなかったであろう者が大半を占めている。教員が前向きであることから、児童も懸命に学んでいる。これまでごく少数の中途退学が報告されている。児童が 1 週間ほど欠席した場合、教員は家庭訪問して児童の状況を確認している。 7. 導入研修以外の教員研修は本プロジェクトでは行われていない。残りの期間を考慮し、この指標は削除することとする。 8. 導入研修以外の教員研修は本プロジェクトでは行われていない。残りの期間を考慮し、この指標は削除することとする。 |

| | | | | |
|-------------|--|---|---|--|
| <p>外部条件</p> | <p>1. 選定された郡において WEO 行政官が継続して勤務する。</p> <p>2. ManaBU 学校の建設サイトの住民が学校建設・運営プロセスに積極的に参加する。</p> <p>3. ManaBU 学校に配属された教員が同じ学校に継続して勤務する。</p> <p>4. 「エ」国とオロミア州が大規模な気候変動や自然災害に見舞われず、紛争などに陥らない。</p> <p>5. 学校建設用の土地がコミュニティから然るべく提供される。</p> <p>6. OEB、ZEO 及び WEO が WEO 行政官の能力向上を重視する政策を変更しない。</p> <p>7. 選定された郡において多数の政府校が閉鎖されない。</p> <p>8. オロミア州において多数の政府校が閉鎖されない。</p> <p>9. 「エ」国政府がノンフォーマル基礎教育を重視する政策を変更しない。</p> | <p>1. WEO において継続して勤務する行政官の人数</p> <p>2. 学校建設・運営における住民参加の度合い</p> <p>3. 同じ学校に継続して勤務する教員数</p> <p>4. 気象通報、業務日誌</p> <p>5. サイト選定と学校建設に係る活動記録</p> <p>6. OEB の開発計画</p> <p>7. 選定された郡の教育統計</p> <p>8. オロミア州の教育統計</p> <p>9. 国家開発計画または ESDP</p> | <p>1. WEO において同じチーム、課、部で勤務を続ける行政官はごくわずかである。WEO だけでなく、ZEO と OEB においても常に人事異動と離職が起こっている。これらは技術移転のスピードを上回っており、ノウハウの蓄積やプロジェクトの適時な遂行を阻害している。</p> <p>2. 住民が一致団結しているかは行政 (WEO、ZEO 等) の働きかけに依るところが大い。</p> <p>3. 新任教員は真摯に勤務している。開校後に離職した教員はいない。</p> <p>4. 雨期が例年以上に長引き、プロジェクト活動が遅延させた。さらに、2005 年春の選挙活動によって WEO 行政官は忙しくなり、本プロジェクトにあまり関わることができなくなった。</p> <p>5. 学校建設サイトはコミュニティから然るべく提供された。しかし、砂糖きびプランテーションの拡張計画が浮上してサイト選定の中止を余儀なくされたケースがあった (アルシ県 Dodota Sire 郡の Awash Bishora 行政村)。</p> <p>6. OEB、ZEO 及び OEB において、WEO 行政官の能力向上を重視する政策は変更されていない。</p> <p>7. 選定された郡では校舎の質や耐久性は正確に把握されていないものの、学校数自体は増加している。集会所として使われている建物が政府校としてカウントされているケースもある。</p> <p>8. オロミア州では校舎の質や耐久性は正確に把握されていないもの、学校数自体は増加している。行政村の集会所として使われている建物が政府校としてカウントされているケースもある。</p> <p>9. 「エ」国政府は、WEO 行政官の能力向上を重視する政策は変更していない。</p> | <p>以上に加えて、アルシ県の Dodota Sire 郡は最近になって 2 つの郡に分割された。同様の分割は西ハラルゲ県の Chiro 郡と北シヨア県の Wuchale Jida でもあった。したがって、本プロジェクトの開始当初 6 つだった「選定された郡」は 9 つに増加し、その 9 つの郡において学校建設がすでに実施されており、また実施されることが決まっている。これに伴い、郡の行政官もまた分割先の WEO に異動することとなる。これらはプロジェクトに対して新たな難題をもたらすことになると思われる。</p> |
| <p>投入結果</p> | <p>エチオピア側投入</p> | <p>1. C/P の配置</p> <p>- Project Director</p> | <p>1. 中間評価調査の直前時点の C/P の配属状況は以下のとおりであった。</p> <p>① Dereje Asfaw (OEB 局長) : Project Director</p> | |

| | | |
|-------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> - Project Manager - 一般 C/P <ol style="list-style-type: none"> 2. スペースと施設 3. 予算措置 | <ol style="list-style-type: none"> ② 空席：Project Manager ③ 一般 C/P <ul style="list-style-type: none"> - Lissanu Legissa (Expert, Planning and Research Dept.) - Tasaw Bekele (Expert, Planning and Research Dept.) - Yali Mergio (Engineer, Planning and Research Dept.) - Alemayehu Etea (Head, Training Dept.) - Mengitsu Haile (Head, Education Supervision and Program Dept.) - Teshome Seifu (Team Leader, Education Supervision and Program Dept.) - Nuria Ibrahim (Expert (on study leave), Education Supervision and Program Dept.) - Kidane Tolcha (Expert, Education Supervision and Program Dept.) <ol style="list-style-type: none"> 2. JICA 専門家の執務関連のすべての光熱費は OEB が負担した。しかし、提供されたスペースと施設が不十分だったため、JICA は OEB 敷地内に会議用の家屋を建設した。 3. 予算措置は然るべく取られている。OEB は、JICA が彼らが行く時に行く時にそれを OEB の本来業務として日当を支払わないことに対し、深い理解を示している。 |
| 日本側投入 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家派遣 2. 短期専門家派遣 3. 資機材供与 4. C/P 本邦研修 | <ol style="list-style-type: none"> 1. これまで派遣された長期専門家は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> ① 北詰秋乃：チーフアドバイザー／参加型開発（2003年3月30日～2006年11月18日） ② 山口直子：業務調整／学校運営（2004年1月18日～2006年1月17日） ③ 國枝信宏：参加型学校建設支援（2004年6月22日～2006年8月21日） 2. これまで派遣された長期専門家は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> ① 國枝信宏：住民参加型学校建設支援（2004年1月18日～2006年3月7日） 3. JICA は交通手段としてステーションワゴン2台、小型トラック2台、オートバイ6台を供与した。事務機器とコンピュータ・ソフトウェアも購入した。さらに、学校建設のための工業資材、椅子・机、教科書・教材の購入を支援した。 4. C/P 本邦研修参加者のリストはミニッツ ANNEX8-3 を参照。日本の2003（会計）年度に OEB から3名が参加したが、うち2名は帰国後に OEB を退職した。2004年度は、OEB 職員2名と ZEO 行政官3名（各県から1名ずつ）が参加した。ZEO 行政官1名は ANFE（成人及びノンフォーマル教育）の担当部からメディア部に異動した。また他の ZEO 行政官は、ZEO が ZECBO（県教育・キャパシティビルディング事務局）に組織改編されたことに伴って教育部門からキャパシティビルディングに異動されてしまったが、ZECBO が分割されて ZEO に戻ったところで（1年を経て）再び ZEO で勤務することとなった。2005年度は OEB 副局長を含む3名が本邦研修に参加した（中間評価調査団滞在中に本邦へ出発した）。 |

評価グリッド：プロジェクトの実施プロセス

| 評価項目 | 必要な情報・データ (指標) | 調査結果 |
|----------------------|--|--|
| プロジェクト運営体制 | <ol style="list-style-type: none"> プロジェクト運営体制の適切さ 問題への対処 | <ol style="list-style-type: none"> エチオピア側と日本側から成るプロジェクトチームは問題に適切に対処する構造を有している。 プロジェクトチームはこれまで予期せぬ幾多の出来事に対処してきた。 |
| 活動の実施 | PDM 活動の計画と実施 | ManaBU プロジェクトがプロセス重視のアプローチであることについて OEB と JICA は同じ考え方を共有している。このアプローチは参加型であるがゆえに時間もかかるが、住民のオーナーシップを醸成し、WEO 行政官の能力向上を図り、学校建物の質を確保する上で最適な方法である。本プロジェクトの残りの期間を考えると、現職教員研修に係る活動は除外することが望ましい。 |
| プロジェクト関係者間のコミュニケーション | <ol style="list-style-type: none"> コミュニケーションの適切さ コミュニケーションの方法 | <ol style="list-style-type: none"> OEB の C/P は州の業務に多忙を極め、JICA 専門家と日常的あるいは重要な事柄についてさえ話し合う時間を十分に確保できなかった。OEB の C/P はできるだけ多くの時間を本プロジェクトに割く努力をすることが強く求められる。 プロジェクト関係者は対話を通じて問題解決を図ろうと努力してきた。 |
| モニタリングと評価プロセス | モニタリングと評価ツールの開発と結果 | モニタリングと評価のプロセスは概して適切であった。ただし、なるべく多くの活動を記録として書き留めておくことが望まれる。 |
| 当事者意識 | 当事者意識の度合い <ul style="list-style-type: none"> - OEB - WEO - 住民 | OEB は本プロジェクトの実施について指導力を発揮し、より強い当事者意識と責任を自覚することが切に望まれる。 WEO と住民は学校建設に並々ならぬ時間と労力を割いたこともあり、建設に対する達成感と学校への愛着は強く、また当事者意識も高い。 |
| 技術協力の方法 | 技術協力の適切さ | 技術協力の方法は適切である。本プロジェクトは WEO 行政官を鼓舞し、住民の力を引き出し、両者のパートナーシップをもって廉価で丈夫な学校を建設するための最適な方法をたゆまず模索している。このアプローチはプロセスを重視したものであり、必然的に多くの時間を要する。それゆえ、JICA 長期専門家チームを派遣しての技術協力は適切なスキームであるといえる。 |

評価グリッド：5項目評価

評価項目：妥当性 (Relevance)

| 評価項目 | 必要な情報・データ (指標) | 調査結果 |
|--------------------|--|---|
| 「エ」国の政策との関連性 | スーパーゴール、上位目標、プロジェクト目標と、国家開発計画、ESDP II 及び III、その他の政策との関連性 | <ul style="list-style-type: none"> 財務経済開発省は 2002 年 7 月に「エ」国の貧困削減戦略文書 (PRSP) にあたる持続的開発・貧困削減プログラム (SDPRP) を発行した。SDPRP は次の 7 つの重点セクターを挙げており、教育セクターもこの中に含まれている。①農村・農業開発、②食糧保全、③牧畜開発、④道路、⑤水資源開発、⑥教育、⑦保健医療。 2002 年 6 月に作成された教育セクタープログラム (ESDP) II は、向こう 3 年間 (2002/03-2004/05) に 4 つの課題として掲げられているが、そのうちの 2 つは以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> 公平さと質を確保しつつ初等教育のアクセスと普及範囲を拡大し、初等教育の完全普及という目標を達成する。 プログラム実施、継続的な改革、強いリーダーシップのための組織の能力向上を様々なレベルで図り、持続的な制度開発を可能にする教育システム構築にむけたキャパシティ・ビルディングを行う。 ESDP II では「住民は、学校建設と運営費用にかかる政府支出の教パーセント (5-10%) を自ら支援することが期待される。住民参加の新しい様式が導入され振興されることが肝要であり、そのためには戦略文書と運営マニュアルが作成され実施される必要がある」と述べられている。 2005 年 8 月に作成された ESDP III でも「全ての学齢児童に初等教育へのアクセスを提供することは (中略) 向こう数年間、政府と住民双方にとって大きな負担となるだろうが、その報いは大きい。(中略) 住民は学校と成人・基礎教育センターの建設のために自身の能力に見合った労働力、現地資材及び資金を提供することが期待される」と明記されている。 このように、本プロジェクトは「エ」国政府が目指しているものをまさに支援しているといえる。 |
| ターゲットグループのニーズとの関連性 | スーパーゴール、上位目標、プロジェクト目標と、ESDP III、その他の政策やガイドラインとの関連性 | <ul style="list-style-type: none"> 連邦教育省は 2002 年 8 月に「教育経営、住民参加、教育財務の運営ガイドライン」を作成している。この中で WEO 行政官は以下の義務と責任を負うと述べられている。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 郡において、教育、特に初等教育を広めるための仕組みを開発し実施する。 ➤ 教育へのアクセスがそれまで奪われていた地域において教育を公正に普及することを確保する。 ➤ 政府が新しい学校を建設する場合、必要事項を示し、建設が行われる行政村を決定する。 同ガイドラインは次のようにも述べている。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 政府 (行政) は、住民が新規学校建設、既存校舎の増築や建て替え、その他の投入に積極的に関わることが求められる。過去においては、新しい学校の建設はよく吟味された手続きなしに無計画に行われてきた。その意味で、住民参加を促進する適切な仕組みを作る必要性が生じている。 また ESDP III は次のように述べている。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ WEO は小学校 (中略) を建設し運営すべきである。計画を策定し実施すべきである。(中略) 教育を広め、教育分野で住民参加を鼓舞し支援するための仕組みを作って実施しなければならない。 ➤ 初等教育の普及を阻んでいる要因のひとつは、第 1 サイクルの学校 1 校あたり平均 50 万ブル強の学校 |

| | | |
|------------------|---------------------------|--|
| | | <p>建設コストである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 各州は自らの状況に応じた廉価な学校建設の代替モデルを開発すべきである。もちろんそれは基礎教育学校の設計パラメータを考慮したものでなければならぬ。 ➤ 廉価な学校建設においては大量の現地資材と役務が求められる。これは住民が役務・資材提供において貢献できるより良い機会を与えることになるであろう。 • このように、本プロジェクトは「エ」国政府が目指しているものをまさに支援しているといえる。本プロジェクトはターゲットグループである WEO と住民が上記の点について取り組むことを後押ししている。すなわち WEO と住民が、それまで基礎教育へのアクセスがなかったへき地において、先を見越して計画を立て、学校を建設・運営することができているように支援している。 • 開発途上国の基礎教育分野への支援は、わが国外務省が 2002 年 6 月に作成した「成長のための基礎教育イニシアティブ (BEGIN)」で謳われており、この中で日本は、1) 教育へのアクセスを確保する、2) 教育の質を改善する、3) 教育の運営を改善する、ことを支援すると明記されている。 • また 1998 年と 2003 年のアフリカ開発会議 (TICAD II 及び III) においても基礎教育の重要性が確認されている。 |
| わが国の ODA 政策との関連性 | スーパージョナル、上位目標と、日本の政策との関連性 | <ul style="list-style-type: none"> • 開発途上国の基礎教育分野への支援は、わが国外務省が 2002 年 6 月に作成した「成長のための基礎教育イニシアティブ (BEGIN)」で謳われており、この中で日本は、1) 教育へのアクセスを確保する、2) 教育の質を改善する、3) 教育の運営を改善する、ことを支援すると明記されている。 • また 1998 年と 2003 年のアフリカ開発会議 (TICAD II 及び III) においても基礎教育の重要性が確認されている。 |

評価項目：有効性 (Effectiveness)

| 評価項目 | 必要な情報・データ (指標) | 調査結果 |
|--------------------|------------------------|--|
| プロジェクト目標に対する成果の貢献 | プロジェクト目標を達成するための成果の適切さ | <ul style="list-style-type: none"> • 設定されたすべての成果はプロジェクト目標達成に向けて貢献している。 • ManaBU モデルはまだ開発途上にあるが、許容できる耐久性で廉価な学校を建設できるという具体的な手順を示した。 • しかしながら、現在の ManaBU モデルは多大な WEO からの働きかけと住民参加を必要とする。同モデルは各地域の多様性に応じて柔軟に活用されるべきであり、残りのプロジェクト期間で更なる改善が追求されることになる。 |
| プロジェクト目標達成のための貢献要因 | 本プロジェクトを担当する運営ユニット | <ul style="list-style-type: none"> • 計画、建設、運営の各ガイドラインのドラフトは、実際の活動から得られた教訓を取り入れて作成されている。 • プロジェクト活動を通じて、成果のひとつである WEO 行政官の能力向上が図られた (ただし、行政官によってばらつきがあり)。彼らは住民参加を促し有機的に組織することによって学校建設を行うという経験を積んだ。このような経験は本プロジェクトの開始前には皆無であった。 • 選定された郡において ManaBU 学校が建設されなければ近隣の児童は基礎教育へのアクセス手段はなかった。そのような児童に教育機会を提供したという点で本プロジェクトは有効である。現在 2,016 人の児童が 2005 年 9 月に開校した ManaBU 学校に通学している。 |

評価項目：効率性 (Efficiency)

| 評価項目 | 必要な情報・データ (指標) | 調査結果 |
|---------------------|---|--|
| 成果の効率性 | | |
| 成果を達成するための投入と活動の適切さ | <ul style="list-style-type: none"> 成果の全般的な達成状況 活動の実施状況 外部条件 | <ul style="list-style-type: none"> 投入と活動はすべての成果の達成に向けて貢献している。 住民、WEO、ZEO、OEB 及び JICA のパートナーシップにおいて、人的資源、資材、サービスなどすべての投入は成果を生むためによく活用されている。ただし、想定していたとおりに投入が行われなかった事例もある。 |
| 投入の質、量、タイミングの適切さ | | |
| JICA 専門家 | <ul style="list-style-type: none"> 人数 専門性 派遣期間 派遣のタイミング | <ul style="list-style-type: none"> 適切な専門性を備えた適切な人数の長期及び短期専門家が時宜を得て派遣された。 |
| 機材 | <ul style="list-style-type: none"> 種類 量 購送時期 | <ul style="list-style-type: none"> 大半の機材は現地で調達され適切な時期に供与された。 いくつかの郡では供与されたオートバイが十分に活用されていなかった。燃料費を捻出できないことと、WEO 行政官が運転免許を持っていないことが主な理由であった。JICA 専門家はかねてより費用負担をするので免許を取得するよう呼びかけてきた。今後もその方針は変わらないため、行政官は免許を取得するともに、オートバイの運用記録をきちんとつけるようすべきである。 |
| C/P の配置 | <ul style="list-style-type: none"> 人数 能力 人事異動 | <ul style="list-style-type: none"> WEO において同じチーム、課、部で勤務を続ける行政官はごくわずかである。WEO だけでなく、ZEO と OEB においても常に人事異動と離職が起こっている。これらは技術移転のスピードを上回っており、ノウハウの蓄積やプロジェクトの適時な遂行を阻害している。 OEB はこの問題に対しチームワークを発揮して善処する旨、確約した。 |
| スペースと施設 | <ul style="list-style-type: none"> 質 規模 利便性 | <ul style="list-style-type: none"> 全ての光熱費は OEB が負担している。 JICA 専門家用に 3 つの個室が提供されている。しかし提供されたスペースと施設が手狭であったため、プロジェクトで OEB 敷地内に会議室を整備した。 |
| ローカルコスト | <ul style="list-style-type: none"> Amount Usage Timing of disbursement | <ul style="list-style-type: none"> JICA は学校建設用の工業資材と椅子・机、教科書などの購入を支援した。 JICA は、2005 年に OEB と JICA 専門家チームと間で署名されたミニッツに従い、OEB、ZEO 及び WEO の C/P がフィールドに行くときに日当を支給していない。エチオピア側はプロジェクト終了後の持続性に配慮したこの方針に深い理解を示している。 他方、各郡の建設技官は自分に日当が支払われないことに対して不満をあらわにし、査察のために ManaBU 学校に行くことを拒否する。建設技官は WEO ではなく郡行政事務所 (Woreda Council) に所属しており、教育以外のセクターの施設建設全般を担当している。したがって、WEO には教育施設専門の建設技官は勤務していない。このことから、建設技官が非協力的であったり、自らの本来業務の履行を拒否したりすると、学校建設プロセスを遅延させることになる。 |
| 本邦研修 | <ul style="list-style-type: none"> 研修期間 研修時期 | <ul style="list-style-type: none"> 本邦研修は毎年うまく計画され実施されている。研修内容と滞在期間は概ね適切である。 |

| プロジェクト支援体制の効率性への貢献 | |
|--|---|
| プロジェクト支援委員会 (JSC) の 合同運営委員会 (JSC) の 役割 | <ul style="list-style-type: none"> 活動 JSC のメンバー 議題 会議の頻度 <ul style="list-style-type: none"> JSC は年に 2 回開催される。 JSC のメンバーは適切であり、WEO 行政官もその中に含まれている。 議題は毎回適当であり、これまで次のようなものがあった。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ベースライン調査のまとめ ▶ 簡易スクールマップピングの進捗状況 ▶ 年間活動計画のプレゼンテーション ▶ プロジェクトの進捗報告 ▶ 活動報告 ▶ 建設プロセスのプレゼンテーション ▶ Chiro 郡と Dodota Sire 郡のケース・スタディ |

評価項目：インパクト (Impacts)

| 評価項目 | 必要な情報・データ (指標) | 調査結果 |
|-----------------------|-----------------------|---|
| 上位目標に対するプロジェクト目標達成の貢献 | 上位目標の達成についての計画と実際 | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト目標の達成は可能であり、上位目標の達成にも貢献することが見通しは高い。プロジェクト目標の達成は主にこれまで生み出されてきた成果に依る。 |
| 他のインパクト | WEO と住民に対する肯定的及び否定的影響 | <ul style="list-style-type: none"> 住民は学校建設の過程を通じて、建設以前よりも村が一致団結するようになったと発言している。 ManaBU 学校に通う殆どの児童にとって、教育を受けるのは初めての経験であった。児童個人の人生にとつて、本プロジェクトの与える影響は計り知れない。 ManaBU モデルは、WEO と住民のオーナーシップを醸成したという点で実益をもたらした。またへき地に廉価で丈夫な学校建設のモデルも提示した。このモデルは、オロミア州だけでなく「エ」国の他州においても学校建設を加速させる可能性を秘めている。 しかしながら、現在の ManaBU モデルは多大な WEO からの働きかけと住民参加なしには機能しない。このモデルはコミュニティの特性に応じて慎重に適用していかないと、負担が大きくなり住民が学校建設を敬遠してしまう危険性もある。 |

評価項目：自立発展性 (Sustainability)

| 評価項目 | 必要な情報・データ (指標) | 調査結果 |
|-------|--|---|
| 組織的側面 | <ul style="list-style-type: none"> OEB、ZEO 及び WEO の役割 実施運営体制 | <ul style="list-style-type: none"> 2002 年 8 月に連邦教育省が作成した「教育経営、住民参加、教育財務の運営ガイドライン」には、州教育局が ZEO と WEO の能力向上のために技術的、専門的、物質的な支援を提供する旨明記されている。このガイドラインにしたがって OEB が強いリーダーシップを発揮することが強く求められる。 このガイドラインによれば、ZEO は OEB から与えられた権限に依り、WEO では実施できない活動を行うことが期待されている。 |

| | | |
|-------------|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 更に、このガイドラインは、新しい学校が政府（行政）によって建設される場合、WEO が必要事項を提示し、建設される行政村を決定すると述べている。 上記の義務と責任を果たすため、OEB、ZEO 及びWEO は十分な人材と財源を付与される必要がある。 WEO だけでなく、ZEO と OEB においても人事異動と離職が頻繁に起こっている。これらは技術移転の速度を上回っており、プロジェクトのインパクトの発現を抑える可能性がある。 本プロジェクトの継続性を確保できるような代替的な戦略が立案されない限り、ManaBU モデル再現できる可能性は低くなる。 WEO の開発予算と経常予算は乏しい。 予算の効率的、効果的な使用に関する WEO の能力が向上することが望まれる。 ManaBU 学校の建設仕様は連邦教育省のそれと合致しており、OEB がそれを承認する形をとっている。地方自治体だけでなく NGO や他のドナーがこの仕様を用いる可能性は大きい、それもひとえに OEB の努力にかかっている。 現場において学校建設に係る監理や技術的助言を行うことができるのは郡行政事務所の建設技官だけである。建設技官が 1 名しかいない郡もいくつかある。建設技官がへき地の建設サイトを定期的に訪問するため克服すべき課題は多い。 ManaBU モデルは社会・文化・地理・環境的側面に配慮して注意深く提供され、コミュニティの多様なニーズに応え続けることが期待される。 |
| 財政的側面 | <ul style="list-style-type: none"> 予算措置 | |
| 技術的側面 | <ul style="list-style-type: none"> 建設仕様 建設状況の検査方法 | |
| 社会・文化・環境的側面 | <ul style="list-style-type: none"> ジェンダー、貧困、弱者への配慮の欠如による制約 環境配慮の欠如による制約 | |